

江戸川区

介護保険事業計画及び熟年しあわせ計画 改定のための基礎調査 報告書

平成23年(2011年)4月





報告書発刊にあたって

介護保険制度が施行されてから今年で12年目を迎えます。平成27年にはいわゆる「団塊の世代」も65歳以上となり、介護サービスの需要は今後もさらに高まっていくと見込まれています。

本報告書は「第5期介護保険事業計画及び熟年しあわせ計画」策定のための基礎的な資料として、団塊の世代を含む区民の皆様の健康と生きがいに関する意識、介護保険サービスの利用状況、介護保険サービス提供者の現状などを幅広く調査・分析したものです。

発刊にあたり、調査にご協力いただいた熟年者及びご家族の方々、また、介護保険サービス事業者をはじめとする各関係機関の皆様に改めてお礼申し上げます。

平成23年4月

江戸川区

[目 次]

【1】 調査の概要

1. 調査の目的	3
2. 調査の概要	3
3. 報告書利用上の注意	4
4. 調査結果の分類・点数化	5
(1) 居住地(日常生活圏域)について	5
(2) 手段的日常生活動作(IADL)、日常生活動作(ADL)について	6

【2】 調査結果の詳細

第1章 健康と生きがいに関する調査

1. 基本的属性	11
(1) 性別、現在の満年齢	11
(2) 居住地(日常生活圏域)	12
(3) 世帯構成	13
(4) 住居の形態	14
(5) 居住階数、エレベーターの有無	15
(6) 本人と配偶者の収入源、年収	16
2. 健康について	17
(1) かかりつけ医の有無	17
(2) 健康状態	18
(3) 現在治療中の病気	19
3. 健康づくり・介護予防について	20
(1) 健康のために心がけていること	20
(2) 介護予防の理解度	21
(3) 健康づくり・介護予防の情報入手方法	22
(4) 健康づくり・介護予防の講座への参加状況、参加したことがない理由	23
(5) 介護予防の取り組み意向	24
4. 就労、社会参加、生きがいづくりについて	25
(1) 現在の就労状況	25
(2) 今後の就労意向	26
(3) 今後就労を希望する理由、就労を継続したい年齢	28
(4) 現在参加している余暇活動・社会参加活動	29
(5) 今後参加したい余暇活動・社会参加活動	30
(6) 取り組んでみたいボランティア活動	31
(7) インターネットの利用状況	32
5. 地域とのかかわりについて	33
(1) 近所の人とのつきあいの程度	33

(2) 家族等との会話の頻度	34
6. 今後の暮らしや介護について	35
(1) 将来の生活で不安を感じる事	35
(2) 今後介護を受けたい場所	36
(3) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと	39
(4) 健康サポートセンターの認知度、利用経験	40
(5) 地域包括支援センターの認知度	41
(6) 地域包括支援センター利用経験、利用したことがない理由	42
(7) 介護保険サービスの利用に対する考え、介護保険料の家計への影響	43
7. 介護状況について	44
(1) 介護経験の有無、介護した人の続柄	44
(2) 介護をするうえで困ること	45
(3) 介護者にとって必要な支援	46
8. 江戸川区の熟年者施策について	47
(1) 区の熟年者施策の充実度	47
(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと	48
(3) 区への意見・要望	49

第2章 熟年者の健康と生きがいに関する調査

1. 基本的属性	55
(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢	55
(2) 居住地(日常生活圏域)	56
(3) 世帯構成	57
(4) 日中独居の状況	59
(5) 住居の形態	60
(6) 居住階数、エレベーターの有無	62
(7) 本人と配偶者の収入源、年収	63
2. 健康について	64
(1) 健康状態	64
(2) かかりつけ医の有無	65
(3) 現在治療中の病気	66
(4) 飲んでいる薬の種類	67
3. 介護予防について	68
(1) 介護予防のための取り組み状況	68
(2) 介護予防に取り組みやすくするための条件	70
(3) 今後取り組みたい活動	71
4. 日常生活の状況について	73
(1) 手段的日常生活動作(IADL)・日常生活動作(ADL)の自立度	73
(2) 生活機能の状況	80
(3) 外出頻度	88

(4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと.....	89
(5) 現在の生活で不安に感じること.....	91
5. 就労、社会参加、生きがいつくりについて.....	92
(1) 現在の就労状況.....	92
(2) 今後の就労意向.....	93
(3) 今後就労を希望する理由、就労を継続したい年齢.....	95
(4) 現在参加している余暇活動・社会参加活動.....	96
(5) 今後参加したい余暇活動・社会参加活動.....	98
(6) 取り組んでみたいボランティア活動.....	100
(7) インターネットの利用状況.....	102
6. 地域とのかかわりについて.....	103
(1) 近所の人とのつきあいの程度.....	103
(2) 家族等との会話の頻度.....	105
7. 今後の暮らしや介護について.....	107
(1) 今後介護を受けたい場所.....	107
(2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと.....	110
(3) 健康サポートセンターの認知度、利用経験.....	111
(4) 地域包括支援センターの認知度.....	112
(5) 地域包括支援センター利用経験、利用したことがない理由.....	113
(6) 介護保険サービスの利用に対する考え、介護保険料の家計への影響.....	114
8. 江戸川区の熟年者施策について.....	115
(1) 区の熟年者施策の充実度.....	115
(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと.....	116
(3) 区への意見・要望.....	117

第3章 介護予防に関する調査

1. 基本的属性.....	123
(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢.....	123
(2) 居住地(日常生活圏域).....	124
(3) 世帯構成.....	125
(4) 日中独居の状況.....	127
(5) 住居の形態.....	128
(6) 居住階数、エレベーターの有無.....	129
2. 健康について.....	130
(1) かかりつけ医の有無.....	130
(2) 現在治療中の病気.....	131
(3) 飲んでいる薬の種類.....	132
(4) 医療処置の状況.....	133
3. 介護予防について.....	134
(1) 介護予防の印象.....	134

(2) 介護予防相談の状況、相談に行かなかった理由	135
(3) 介護予防事業の参加状況	137
(4) 介護予防事業に参加してよかったこと	138
(5) 介護予防事業に参加しなかった理由	139
(6) 今後取り組みたい活動	140
(7) 介護予防に取り組みやすくするための条件	142
4. 日常生活の状況について	143
(1) 手段的日常生活動作(IADL)・日常生活動作(ADL)の自立度	143
(2) 生活機能の状況	146
(3) 外出頻度	151
(4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと	152
(5) 現在の生活で不安に感じる事	153
5. 地域とのかかわりについて	154
(1) 近所の人とのつきあいの程度	154
(2) 家族等との会話の頻度	155
6. 今後の暮らしや介護について	156
(1) 今後介護を受けたい場所	156
(2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと	158
(3) 健康サポートセンターの認知度、利用経験	159
(4) 地域包括支援センターの認知度	160
(5) 地域包括支援センター利用経験、利用したことがない理由	161
7. 江戸川区の熟年者施策について	162
(1) 区の熟年者施策の充実度	162
(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと	163
(3) 区への意見・要望	164

第4章 介護保険サービス利用に関する調査

1. 基本的属性	169
(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢	169
(2) 居住地(日常生活圏域)	171
(3) 世帯構成	172
(4) 日中独居の状況	174
(5) 住居の形態	175
(6) 居住階数、エレベーターの有無	176
(7) 本人と配偶者の収入源、年収	177
2. 要介護度及び健康について	178
(1) 要介護度	178
(2) 支援や介護が必要となった原因	179
(3) かかりつけ医の有無	181
(4) 現在治療中の病気	182

(5) 飲んでいる薬の種類	183
(6) 医療処置の状況	184
3. 日常生活の状況について	186
(1) 手段的日常生活動作(IADL)・日常生活動作(ADL)の自立度	186
(2) 生活機能の状況	194
(3) 外出頻度	202
(4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと	203
4. 介護保険サービスの利用状況について	205
(1) 介護保険サービスの利用状況	205
(2) サービスを利用していない理由	206
(3) 在宅の介護保険サービスの利用状況、満足度	208
5. 今後の暮らしや介護について	215
(1) 今後利用したい介護保険サービス	215
(2) 今後利用したい介護保険外サービス	217
(3) 今後介護を受けたい場所	219
(4) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと	221
(5) 介護保険サービスの利用に対する考え、介護保険料の家計への影響	222
(6) 地域包括支援センターの認知度	223
(7) 地域包括支援センター利用経験、利用したことがない理由	224
6. 介護者の状況について	225
(1) 家族介護の状況	225
(2) 主な介護者の年齢	227
(3) 介護をするうえで困ること	228
(4) 介護者にとって必要な支援	229
7. 江戸川区の熟年者施策について	230
(1) 区の熟年者施策の充実度	230
(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと	232
(3) 区への意見・要望	233

第5章 区民向け4調査間の比較結果

1. 基本的属性	239
(1) 居住地(日常生活圏域)	239
(2) 世帯構成	240
2. 健康・介護予防について	241
(1) 健康状態	241
(2) かかりつけ医の有無	242
(3) 介護予防に取り組みやすくするための条件	243
3. 日常生活の状況について	244
(1) 手段的日常生活動作(IADL)の自立度	244
(2) 日常生活動作(ADL)の自立度	244

(3) 生活機能の状況	245
(4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと.....	249
4. 就労状況、参加活動、生きがいつくりについて.....	250
(1) 今後の就労意向と就労を継続したい年齢.....	250
(2) 今後参加したい余暇活動・社会参加活動.....	251
(3) 取り組んでみたいボランティア活動.....	252
5. 地域とのかかわりについて	253
(1) 近所の人とのつきあいの程度	253
6. 今後の暮らしや介護について	254
(1) 今後介護を受けたい場所.....	254
(2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと.....	255
(3) 介護保険サービスの利用に対する考え	256
(4) 介護保険料の家計への影響	256
7. 江戸川区の熟年者施策について	257
(1) 区の熟年者施策の充実度	257
(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと.....	258

第6章 介護保険サービス事業者調査

1. 基本事項について	261
(1) 事業所の所在地	261
(2) 事業所の法人組織	262
(3) 実施している介護サービス事業.....	263
(4) 提供実績、従業者数.....	264
2. 事業の経営について	265
(1) 昨年度の収支が黒字であったサービス.....	265
(2) 縮小・撤退を考えているサービス.....	266
(3) 縮小・撤退を考えている理由	267
(4) 事業の拡大・新規参入を考えているサービス.....	268
(5) 24時間対応の定期巡回・随時対応サービスの参入意向	269
(6) 複合型サービスの参入意向.....	270
3. サービスの質の確保について.....	271
(1) 自己評価の実施状況、自己評価を行っていない理由	271
(2) 利用者評価の実施状況、利用者評価を受けていない理由.....	272
(3) 第三者評価の実施状況、第三者評価を受けていない理由.....	273
(4) 評価以外の質の向上のための取り組み状況.....	274
(5) 苦情やトラブルの内容、苦情やトラブルへの対応.....	275
(6) 医療との連携に関する課題	277
4. 人材の確保や雇用管理について	278
(1) 人材確保や雇用管理に関する課題.....	278
(2) キャリアパスの設定状況、今後設ける予定の有無.....	279

(3) 介護職員処遇改善交付金申請状況	280
(4) 人材確保のための東京都等の施策の活用状況	281
5. 区に対する要望について	282
(1) 区に充実・支援してほしいこと	282
(2) 今後力を入れるべき江戸川区の熟年者施策	283
(3) 区への意見・要望	284
6. 居宅介護支援事業について(居宅介護支援事業者向け設問).....	285
(1) 連絡調整や連携が上手くいくと業務が円滑に進むと感じる事業者.....	285
(2) 質の高いサービスを提供するために必要な取り組み.....	286
7. 居宅サービス事業について(居宅サービス・地域密着型サービス事業者向け設問)	287
(1) 居宅介護支援事業者について問題と感ずること.....	287
(2) 地域包括支援センターについて問題と感ずること.....	288
(3) 地域包括支援センターに対する意見・要望.....	289
(4) 質の高いサービスを提供するために必要な取り組み.....	290
8. 施設・居住系サービス事業について(施設・居住系サービス事業者向け設問).....	291
(1) 力を入れている取り組み.....	291
(2) 虐待を防止するための取り組み状況.....	292
(3) 質の高いサービスを提供するために必要な取り組み.....	293

第7章 介護支援専門員調査

1. 勤務先の概要	297
(1) 勤務先	297
(2) 勤務地及び法人形態	298
(3) 勤務先の併設事業の有無	299
2. 基本的属性	300
(1) 本人の性別、現在の満年齢	300
(2) 介護支援専門員としての実務年数	301
(3) 主任介護支援専門員の割合、経験年数	302
(4) 介護支援専門員以外の保有資格	303
(5) 現在の勤務形態、兼務している業務	304
(6) 介護支援専門員業務の比率	305
3. ケアマネジメント業務の状況	306
(1) 担当している利用者数	306
(2) 支援や対応に困難を感じている利用者数.....	307
(3) 支援や対応に困難を感じているケースの状況	308
(4) ケアプランへの利用者等の要望・意向の反映状況	309
(5) 家族の不安や悩み等について感ずること	310
(6) 主治医等の医療機関との連携状況.....	311
(7) 地域包括支援センターとの連携状況.....	312
(8) 地域包括支援センター機能に対する評価.....	313

(9) 地域包括支援センターに対する意見・要望等	314
(10) サービス提供事業所に関する情報収集方法	315
4. 業務に関する課題等について	316
(1) 不足していると感じる介護保険サービス	316
(2) 充実すべき区の保健福祉サービス	317
(3) 24時間対応の定期巡回・随時対応サービスが必要と思われる利用者数	318
(4) 24時間対応の定期巡回・随時対応サービスが必要な利用者のイメージ	319
(5) ケアマネジメント業務を行ううえで必要な情報	321
(6) 負担に感じるケアマネジメント業務	322
5. 質の確保等について	323
(1) 研修の参加状況	323
(2) 研修に参加していない理由	324
(3) 希望する研修の内容	325
(4) 利用者や家族からの苦情の内容	327
6. 業務の満足度と今後の意向について	328
(1) 現在の勤務先での在職年数	328
(2) 業務及び勤務先に対する満足度	329
(3) ケアマネジメント業務に関するストレスの有無	331
(4) ケアマネジメント業務に関するストレスの内容	332
(5) 転職意向	333
(6) 介護支援専門員としての就労意向	334
7. 今後の区の施策等について	335
(1) 在宅生活の継続に必要な条件	335
(2) 区に支援・充実してほしいと思うこと	336
(3) 区への要望・意見	337

【3】参考資料 調査票

(1) 健康と生きがいに関する調査	341
(2) 熟年者の健康と生きがいに関する調査	348
(3) 介護予防に関する調査	356
(4) 介護保険サービス利用に関する調査	364
(5) 介護保険サービス事業者調査	374
(6) 介護支援専門員調査	382

【1】調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、平成24年度～平成26年度を計画期間とする「第5期介護保険事業計画」及び「熟年しあわせ計画」の改定の基礎資料として用いるために実施した。

2. 調査の概要

調査名	健康と生きがいに関する調査	熟年者の健康と生きがいに関する調査	介護予防に関する調査
調査方法	郵送配付、郵送回収		
調査対象者	60歳以上65歳未満の要介護認定を受けていない区民 (平成22年11月1日現在)	65歳以上の要介護認定を受けていない区民 (平成22年11月1日現在)	65歳以上の二次予防事業の候補者・決定者となっている区民 (平成22年11月1日現在)
抽出元及び抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出	住民基本台帳より無作為抽出	住民基本台帳より無作為抽出 (外国人登録者を含む)
調査期間	平成22年11月22日～12月15日		
対象者及び回収率	対象者数：2,000 有効回収数：1,219 有効回収率：61.0%	対象者数：2,500 有効回収数：1,753 有効回収率：70.1%	対象者数：1,000 有効回収数：803 有効回収率：80.3%

調査名	介護保険サービス利用に関する調査	介護保険サービス事業者調査	介護支援専門員調査
調査方法	郵送配付、郵送回収		
調査対象者	65歳以上の要介護認定を受け、施設サービス、認知症高齢者グループホーム、有料老人ホームを利用していない区民 (平成22年11月1日現在)	区内すべての介護保険サービス事業者 (平成23年1月1日現在)	NPO法人江戸川区ケアマネジャー協会に加入し、介護支援専門員として従事している会員
抽出元及び抽出方法	介護保険被保険者台帳より無作為抽出 (外国人登録者を含む)	介護保険事業者名簿	NPO法人江戸川区ケアマネジャー協会会員名簿
調査期間	平成22年 11月22日～12月15日	平成23年1月11日～1月31日	
対象者及び回収率	対象者数：2,500 有効回収数：1,607 有効回収率：64.3%	対象者数：336 有効回収数：220 有効回収率：65.5%	対象者数：381 有効回収数：244 有効回収率：64.0%

3. 報告書利用上の注意

○百分率について

百分率(%)は、すべて小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、合計が100%にならない場合がある。

○図表の単位について

本文中に掲載したグラフ及びクロス集計の単位は、特にことわりのないかぎり、「%」であらわしている。

○単純集計及び分析について

各質問ごとに「単純集計」を行い、その特徴等を記述している。

単純集計のグラフにおいては、傾向をよりわかりやすくするために、選択肢を百分率(%)の大きなものから小さなものへと並びかえた「ランキング集計」を行っている場合がある。

○クロス集計及び分析について

本報告書では、各調査の対象者全員の合計を「全体」と表記し、特徴的なものについては、性別、年齢別、要介護度別等のクロス集計グラフまたはクロス集計表を掲載し、分析を行っている。

本報告書の分析に用いているクロス集計グラフ及びクロス集計表に関しては、分析の柱である性別、年齢別、要介護度別等について、「無回答」の掲載を省略しているため、分析軸(タテ軸)の回答者数の合計値と「全体」が一致していない場合がある。

○クロス集計表の網掛けについて

クロス集計表は、「全体」を上回るものに対して網掛けを行っている。ただし、表頭の「無回答」は除いている。

○共通項目の比較について

第1章から第4章までの4調査間における共通質問については、【比較調査〇〇参照】のように、第5章における参照ページを示し、結果について比較を行っている場合がある。

4. 調査結果の分類・点数化

(1)居住地(日常生活圏域)について

居住地(日常生活圏域)は、以下の7つの日常生活圏域別に分類し、集計を行っている。

圏域名	該当する町名
区民課	中央、松島、松江、東小松川、西小松川町、大杉、西一之江、春江町4丁目、上一色、本一色、一之江、西瑞江4丁目1~2・10~27、江戸川4丁目15~25、松本、興宮町
小松川	小松川、平井
葛西北	春江町5丁目、西瑞江5丁目、江戸川5・6丁目、一之江町、二之江町、船堀、宇喜田町、東葛西1~3丁目、西葛西1丁目、中葛西1・2丁目、北葛西
葛西南	東葛西4~9丁目、西葛西2~8丁目、中葛西3~8丁目、南葛西、清新町、臨海町、堀江町
小岩	東小岩、西小岩、南小岩、北小岩
東部	春江町2・3丁目、東瑞江、西瑞江2・3丁目・4丁目5~9、江戸川1~3丁目・4丁目1~14、谷河内2丁目、下篠崎町、篠崎町3~6丁目、南篠崎町、東篠崎町、東篠崎、瑞江
鹿骨	新堀、春江町1丁目、谷河内1丁目、鹿骨町、鹿骨、上篠崎、篠崎町1・2・7・8丁目、西篠崎、北篠崎、東松本

※ただし、本調査においては、西瑞江4丁目及び江戸川4丁目は、すべて区民課圏域に分類・集計を行っている

(2) 手段的日常生活動作(IADL)、日常生活動作(ADL)について

本調査では、厚生労働省が推奨する「日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目に準じ、高齢者の生活機能を評価するため、手段的日常生活動作(IADL)、日常生活動作(ADL)の自立度の把握を行っている。

①手段的日常生活動作(IADL)の点数化

手段的日常生活動作(IADL)とは、交通機関の利用、家事、金銭管理など、日常生活を送るために必要な比較的高次の動作のことである。

本報告書においては、手段的日常生活動作(IADL)に関する以下の5項目への回答を、合計が5点満点となるよう配点・点数化し、集計を行っている。

項目	配点	選択肢
①バスや電車で一人で外出する	1	「1. している」または「2. できるがしていない」
	0	「3. できない」
②日用品の買い物をする	1	「1. している」または「2. できるがしていない」
	0	「3. できない」
③自分で食事の用意をする	1	「1. している」または「2. できるがしていない」
	0	「3. できない」
⑤請求書の支払いをする	1	「1. している」または「2. できるがしていない」
	0	「3. できない」
⑥預貯金の出し入れをする	1	「1. している」または「2. できるがしていない」
	0	「3. できない」

※丸付き数字は調査票における選択肢の番号

②日常生活動作(ADL)の点数化

日常生活動作(ADL)とは、食事、移動、整容、トイレ動作、入浴など、日常生活を送るために必要な基本的な身体動作のことである。

本報告書においては、日常生活動作(ADL)に関する次ページの10項目への回答を、ADL評価指標として広く用いられているバーセルインデックスの評価方法に従って、合計が100点満点となるよう配点・点数化し、集計を行っている。

目安として、40点以下ならほぼすべての動作に介助が必要、60点以下では起居移動(寝返り、起き上がり、座位、立ち上がり、立位、歩行)動作を中心に介助が必要だと推測でき、完全に自立している場合は100点になる。

項目	配点	選択肢
⑦ 自分でご飯を食べる	10	「1. できる」
	5	「2. 介助があればできる」
	0	「3. できない」
⑧ ベッド(寝床)へ移動する	15	「1. できる」
	10	「2. 介助があればできる」
	5	「3. できない」 (⑩座っていることが「1. できる」「2. 支えが必要」の場合)
	0	「3. できない」(⑩座っていることが「3. できない」の場合)
⑨ 洗面や歯磨きをする	5	「1. できる」
	0	「2. 介助があればできる」 または 「3. できない」
⑪ トイレで排泄をする	10	「1. できる」
	5	「2. 介助があればできる」
	0	「3. できない」
⑫ 自分で入浴をする	5	「1. できる」
	0	「2. 介助があればできる」 または 「3. できない」
⑬ 50メートル以上歩く	15	「1. できる」
	10	「2. 介助があればできる」
	0	「3. できない」
⑭ 階段を昇り降りする	10	「1. できる」
	5	「2. 介助があればできる」
	0	「3. できない」
⑮ 自分で着替えをする	10	「1. できる」
	5	「2. 介助があればできる」
	0	「3. できない」
⑯ 大便の失敗	10	「1. ない」
	5	「2. ときどきある」
	0	「3. よくある」
⑰ 小便の失敗	10	「1. ない」
	5	「2. ときどきある」
	0	「3. よくある」

※丸付き数字は調査票における選択肢の番号

【2】調査結果の詳細

第 1 章

健康と生きがいに関する調査

< 調査概要 >

調査方法	郵送配付、郵送回収
調査対象者	60歳以上65歳未満の要介護認定を受けていない区民（平成22年11月1日現在）
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
調査期間	平成22年11月22日～12月15日
対象者数 及び 回収率	対象者数：2,000 有効回収数：1,219 有効回収率：61.0%

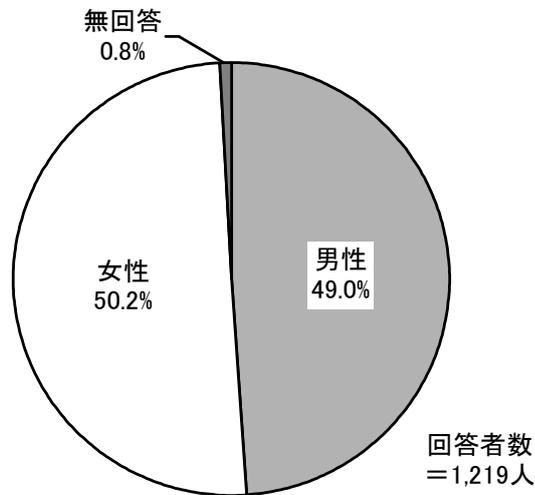
1. 基本的属性

(1) 性別、現在の満年齢

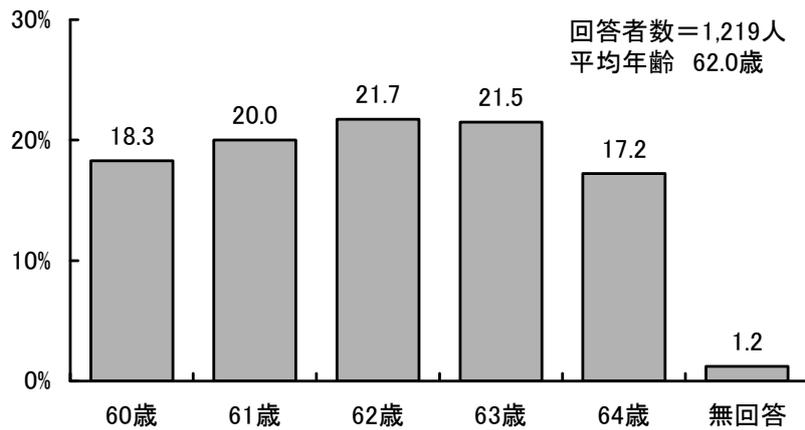
問1 あなたの性別、平成22年11月1日現在の満年齢をお答えください。

性別は、「男性」49.0%、「女性」50.2%と、ほぼ半数ずつである。
年齢は、各歳2割前後を占め、平均62.0歳となっている。

図表1-1 性別(単数回答)



図表1-2 年齢(単数回答)

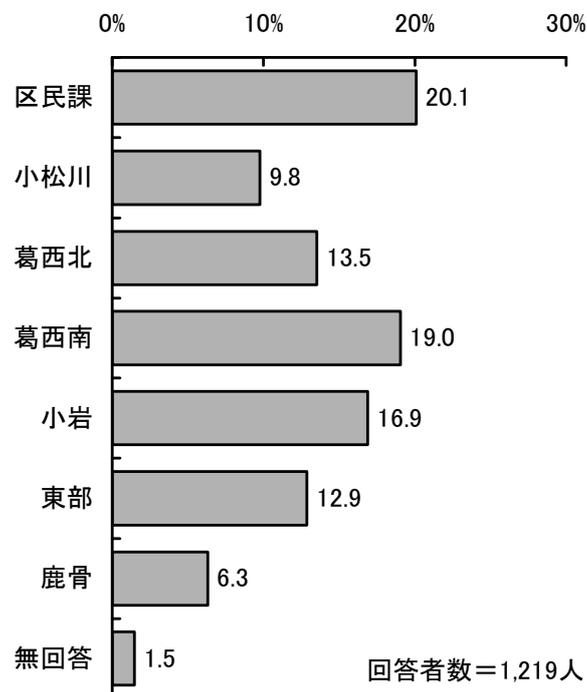


(2)居住地(日常生活圏域)

問2 あなたのお住まいはどこですか。【比較調査 239 参照】

居住地(日常生活圏域)をみると、「区民課」20.1%、「葛西南」19.0%、「小岩」16.9%、「葛西北」13.5%、「東部」12.9%、「小松川」9.8%、「鹿骨」6.3%の順となっている。もっとも割合の高い「区民課」ともっとも低い「鹿骨」の差は、13.8ポイントである。

図表1-3 居住地(日常生活圏域)(単数回答)



(3) 世帯構成

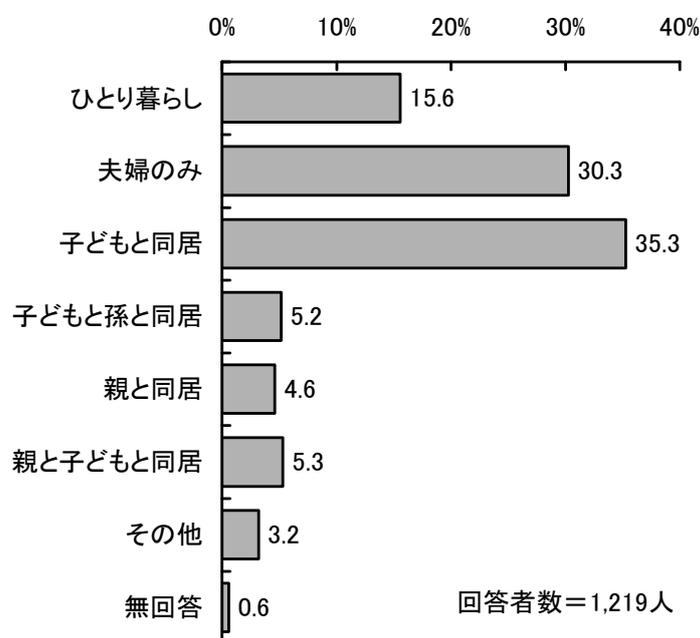
問3 あなたの現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)

【比較調査 240 参照】

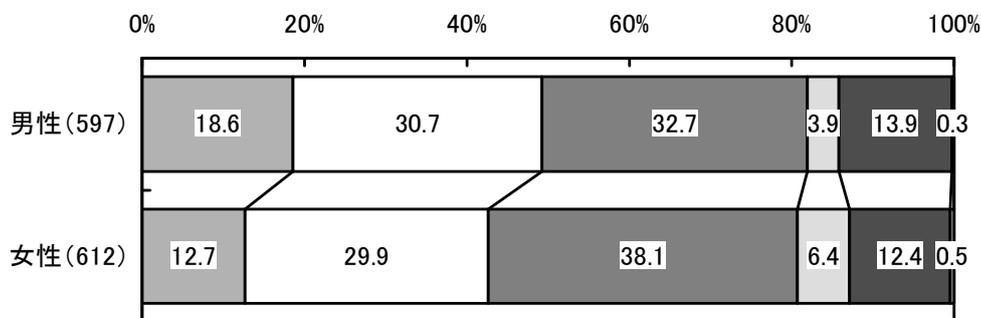
世帯構成は、「子どもと同居」35.3%がもっとも高く、次いで「夫婦のみ」30.3%、「ひとり暮らし」15.6%の順となっている。「親と同居」4.6%、「親と子どもと同居」5.3%をあわせた親と同居している世帯は全体の約1割を占める。

性別にみると、「ひとり暮らし」の割合は、男性18.6%、女性12.7%と、男性の方が高くなっている。

図表1-4 世帯構成(単数回答)



図表1-5 世帯構成



()は回答者数 ■ひとり暮らし □夫婦のみ ■子どもと同居 □子どもと孫と同居 ■その他 ■無回答

※「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

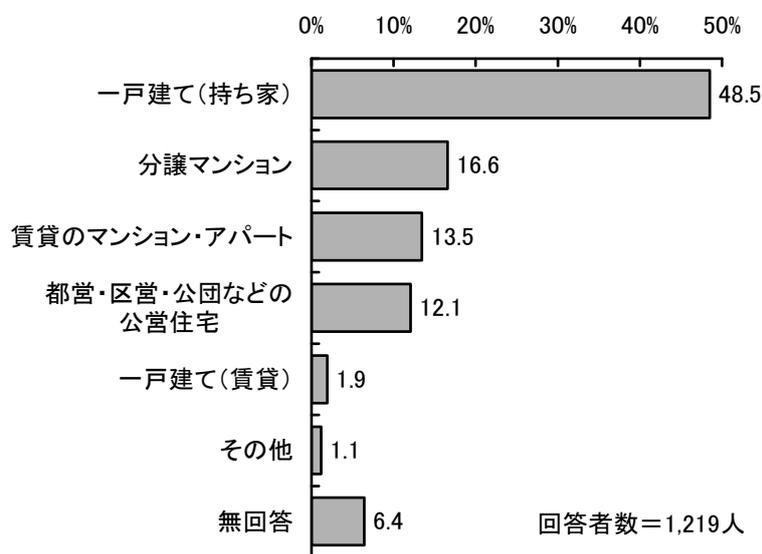
(4)住居の形態

問4 あなたの現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

住居の形態は、「一戸建て（持ち家）」が48.5%と半数近くを占める。次いで、「分譲マンション」16.6%、「賃貸のマンション・アパート」13.5%、「都営・区営・公団などの公営住宅」12.1%と続いている。

日常生活圏域別にみると、区民課、小岩、東部、鹿骨は「一戸建て（持ち家）」が5～6割台を占めており、他に比べて一戸建て（持ち家）の割合が高い。一方、葛西南は、「分譲マンション」「都営・区営・公団などの公営住宅」の割合が高く、「一戸建て（持ち家）」は1割台となっている。

図表1-6 住居の形態(単数回答)



図表1-7 住居の形態

	回答者数(人)	一戸建て(持ち家)	分譲マンション	賃貸のマンション・アパート	都営・区営・公団などの公営住宅	一戸建て(賃貸)	その他	無回答
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体	1,219	48.5	16.6	13.5	12.1	1.9	1.1	6.4
日常生活圏域別	区民課	245	62.0	8.6	16.3	1.2	2.0	8.2
	小松川	119	38.7	20.2	10.9	21.0	1.7	3.4
	葛西北	165	46.7	20.6	9.7	15.2	1.8	0.6
	葛西南	232	15.1	36.6	12.5	26.3	1.7	0.9
	小岩	206	61.7	8.3	17.0	3.4	1.5	1.5
	東部	157	65.6	8.3	10.2	10.8	1.3	0.0
	鹿骨	77	54.5	5.2	18.2	10.4	5.2	0.0

(5) 居住階数、エレベーターの有無

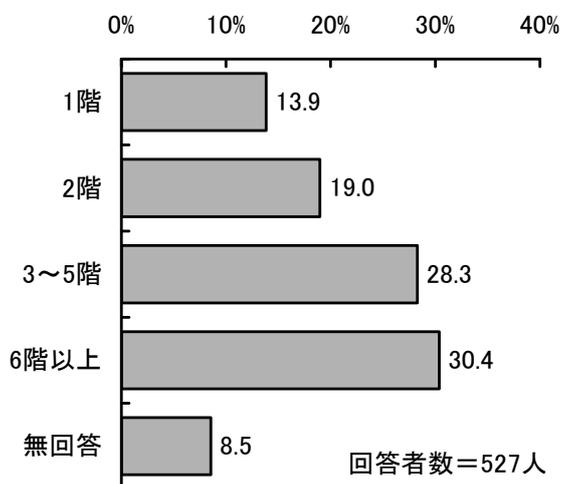
マンションやアパート等にお住まいの方(問4で3~6に○)におうかがいします。

問4-1 現在、何階で生活していますか。また、2階以上で生活している場合、エレベーターはありますか。(それぞれ1つに○)

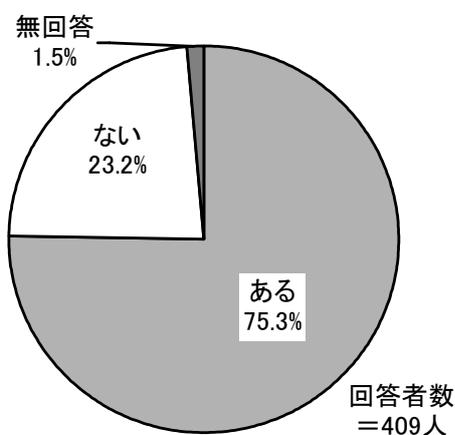
マンションやアパート等に居住している人の居住階数は、「6階以上」が30.4%と約3割を占める。次いで、「3~5階」28.3%、「2階」19.0%、「1階」13.9%となっている。

2階以上に居住している場合のエレベーターの有無をみると、75.3%と約4人に3人が「ある」と回答している。

図表1-8 居住階数(単数回答)



図表1-9 エレベーターの有無(単数回答)



(6) 本人と配偶者の収入源、年収

問5 あなたと配偶者(ひとり暮らしの方は、あなたのみ)の収入は、次のうちどれですか。

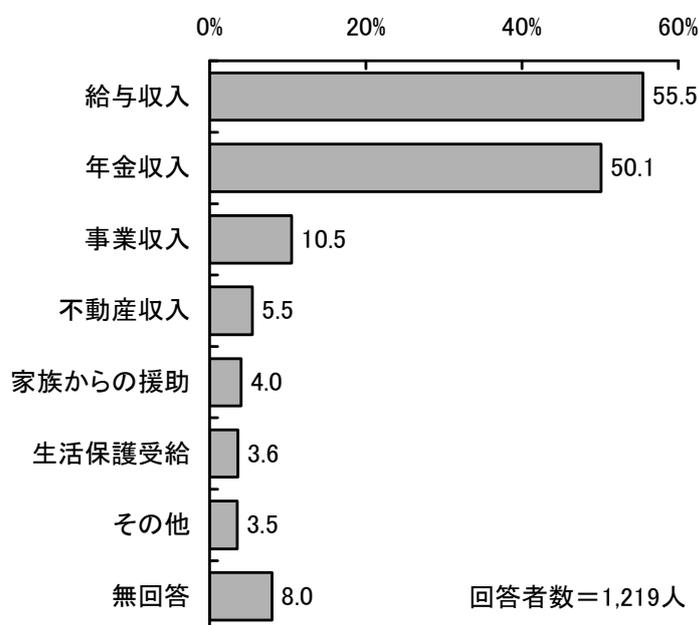
(あてはまるものすべてに○)

問6 あなたと配偶者(ひとり暮らしの方は、あなたのみ)の税込みの年収(年金を含む)の合計は、次のうちどれですか。(1つに○)

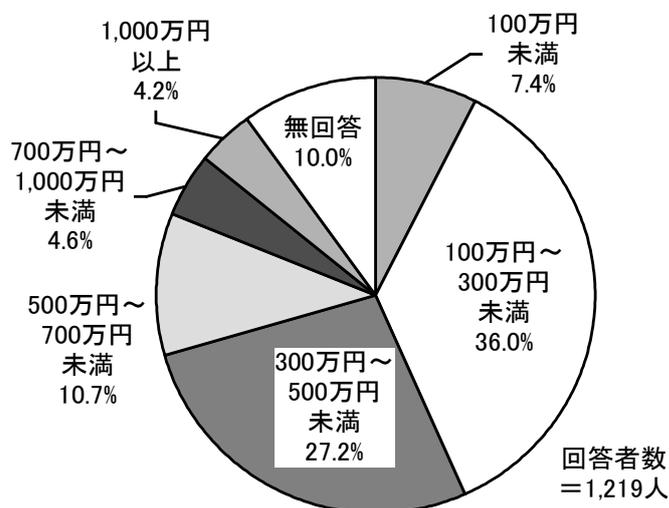
本人と配偶者の収入源は、「給与収入」が55.5%、「年金収入」が50.1%などとなっている。

本人と配偶者の税込みの年収の合計は、「100万円～300万円未満」36.0%がもっとも高く、次いで「300万円～500万円未満」27.2%であり、500万円未満である人の割合が約7割を占める。

図表1-10 本人と配偶者の収入源(複数回答)



図表1-11 本人と配偶者の年収(単数回答)



2. 健康について

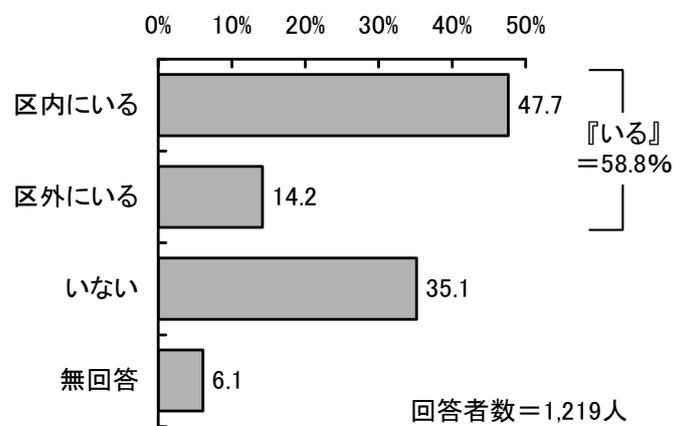
(1) かかりつけ医の有無

問7 あなたには、かかりつけの医師がいますか。(あてはまるものすべてに○)

【比較調査 242 参照】

かかりつけ医の有無は、「区内にいる」が47.7%、「区外にいる」が14.2%であり、58.8%が『いる』と回答している。

図表1-12 かかりつけ医の有無(複数回答)



※『いる』=100% - 「いない」 - 「無回答」

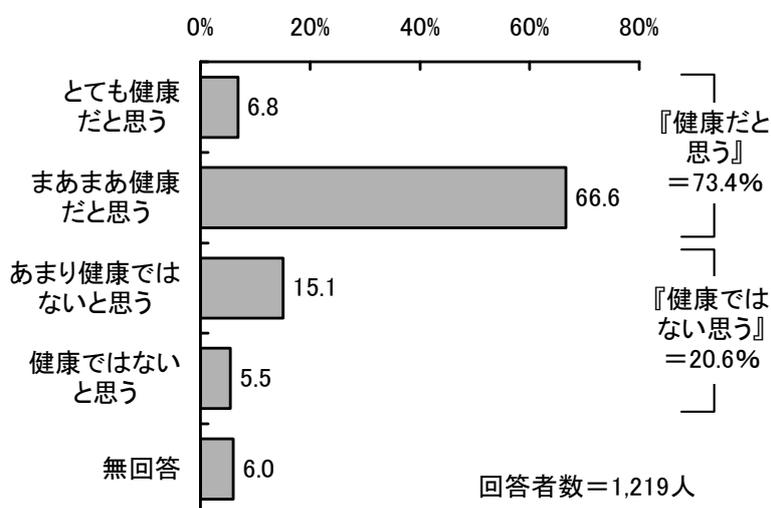
(2)健康状態

問 8 あなたは、ご自分の健康状態について、どのように感じていますか。(1つに○)

【比較調査 241 参照】

健康状態については、「まあまあ健康だと思う」66.6%、「とても健康だと思う」6.8%をあわせた『健康だと思う』が73.4%を占める。一方、「あまり健康ではないと思う」は15.1%、「健康ではないと思う」は5.5%であり、これらをあわせた約2割が『健康ではないと思う』と回答している。

図表1-13 健康状態(単数回答)



※『健康だと思う』 = 「とても健康だと思う」 + 「まあまあ健康だと思う」

※『健康ではないと思う』 = 「あまり健康ではないと思う」 + 「健康ではないと思う」

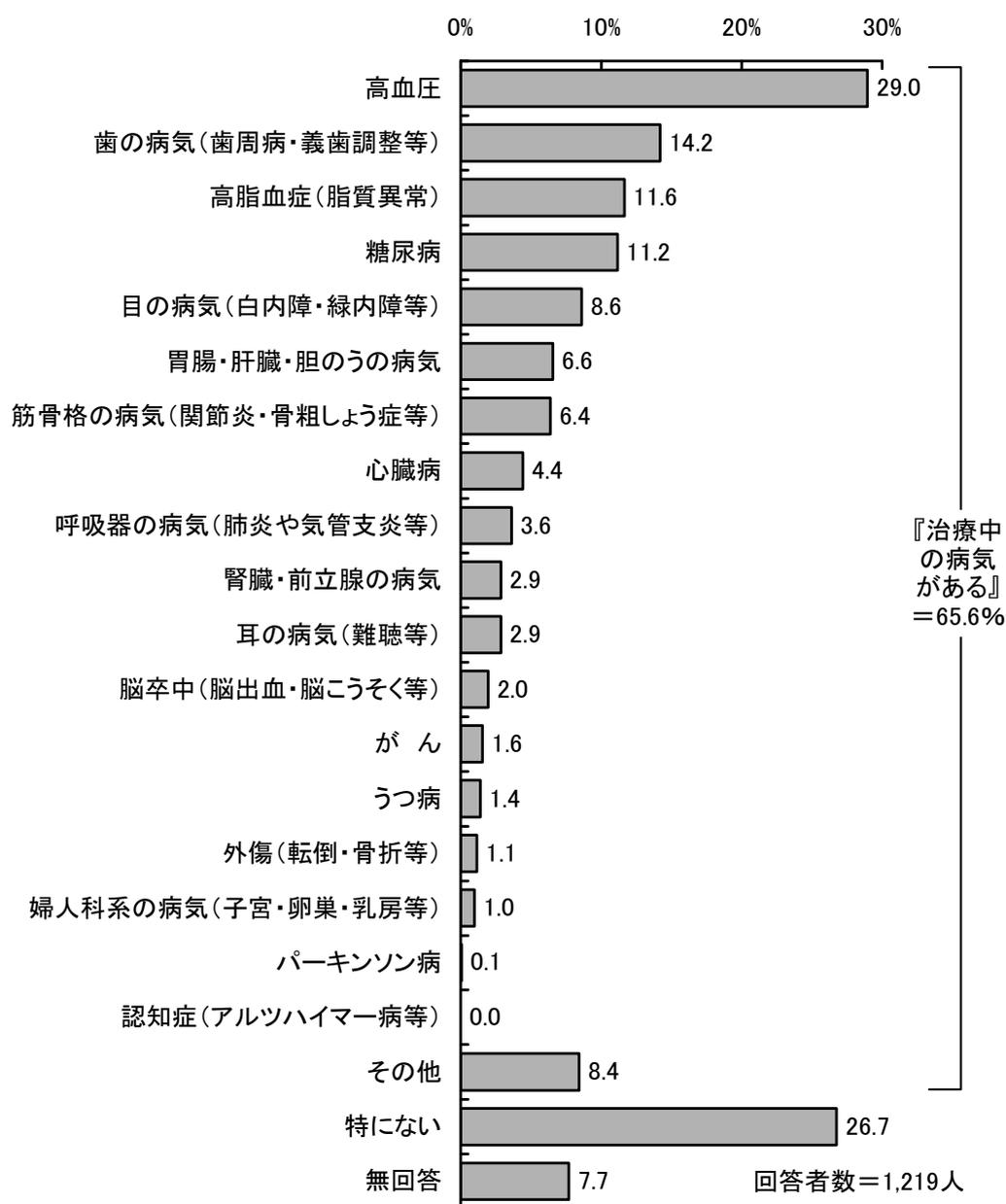
(3) 現在治療中の病気

問9 あなたは、現在かかっている、または治療中の病気がありますか。

(あてはまるものすべてに○)

現在治療中の病気をみると、65.6%が『治療中の病気がある』と回答している。具体的には、「高血圧」29.0%がもっとも高く、次いで「歯の病気(歯周病・義歯調整等)」14.2%、「高脂血症(脂質異常)」11.6%、「糖尿病」11.2%の順となっている。

図表1-14 現在治療中の病気(複数回答)



※『治療中の病気がある』=100%－「特にない」－「無回答」

3. 健康づくり・介護予防について

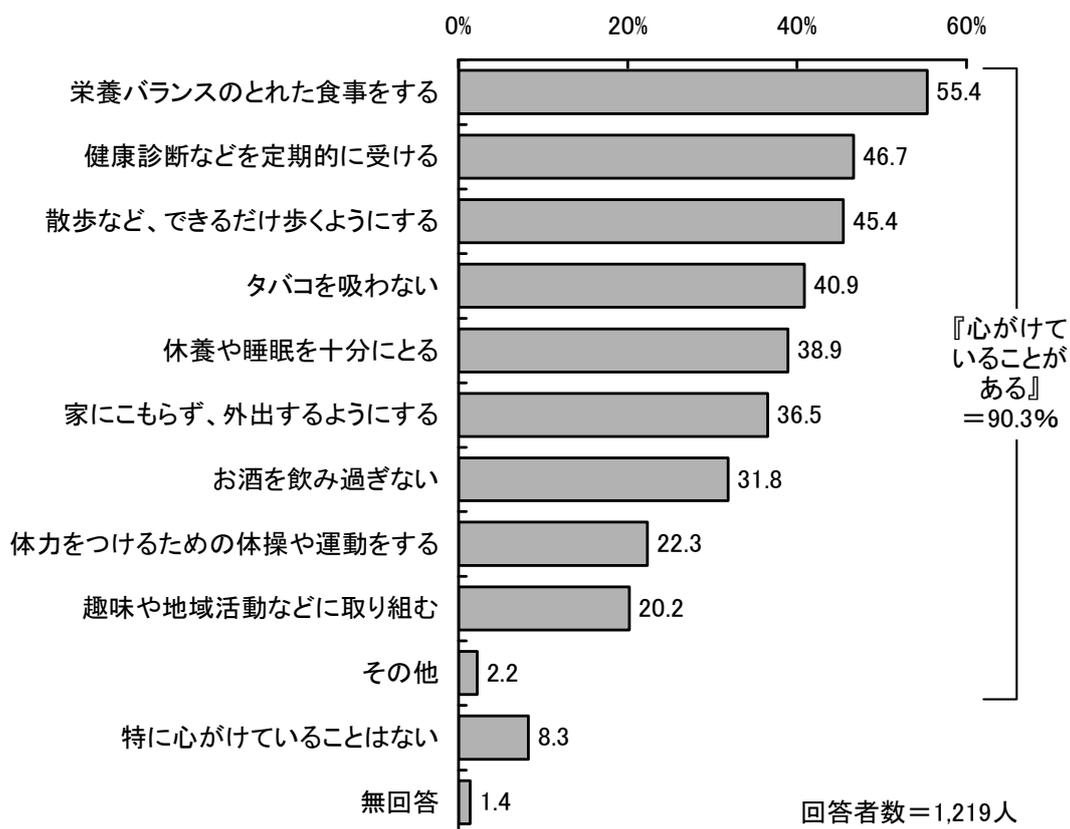
(1) 健康のために心がけていること

問 10 あなたは、健康な生活を送るために、日ごろから心がけていることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

健康のために心がけていることをみると、90.3%と約9割が『心がけていることがある』と回答している。具体的な取り組みとしては、「栄養バランスのとれた食事をする」55.4%がもっとも高く、次いで「健康診断などを定期的に受ける」「散歩など、できるだけ歩くようにする」「タバコを吸わない」が4割台、「休養や睡眠を十分にとる」「家にこもらず、外出するようにする」「お酒を飲み過ぎない」が3割台となっている。

図表1-15 健康のために心がけていること(複数回答)



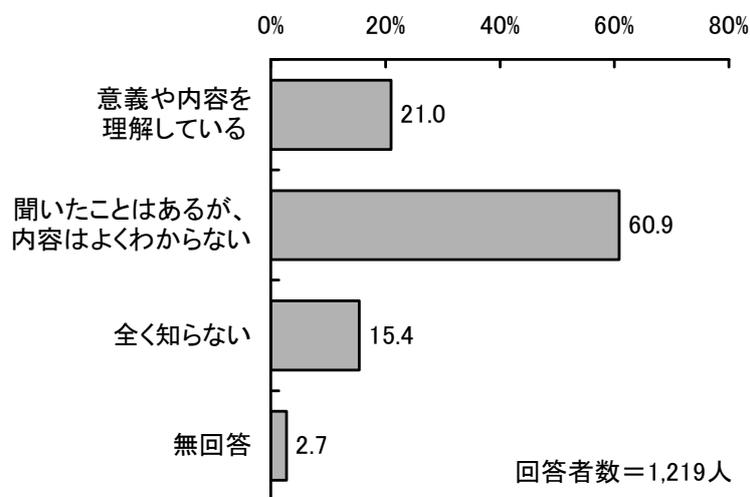
※『心がけていることがある』 = 100% - 「特に心がけていることはない」 - 「無回答」

(2) 介護予防の理解度

問 11 あなたは「介護予防」について、どのくらい知っていますか。(1つに○)

介護予防の理解度は、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が 60.9%と約 6割を占める。「意義や内容を理解している」は 21.0%であり、15.4%が「全く知らない」と回答している。

図表1-16 介護予防の理解度(単数回答)



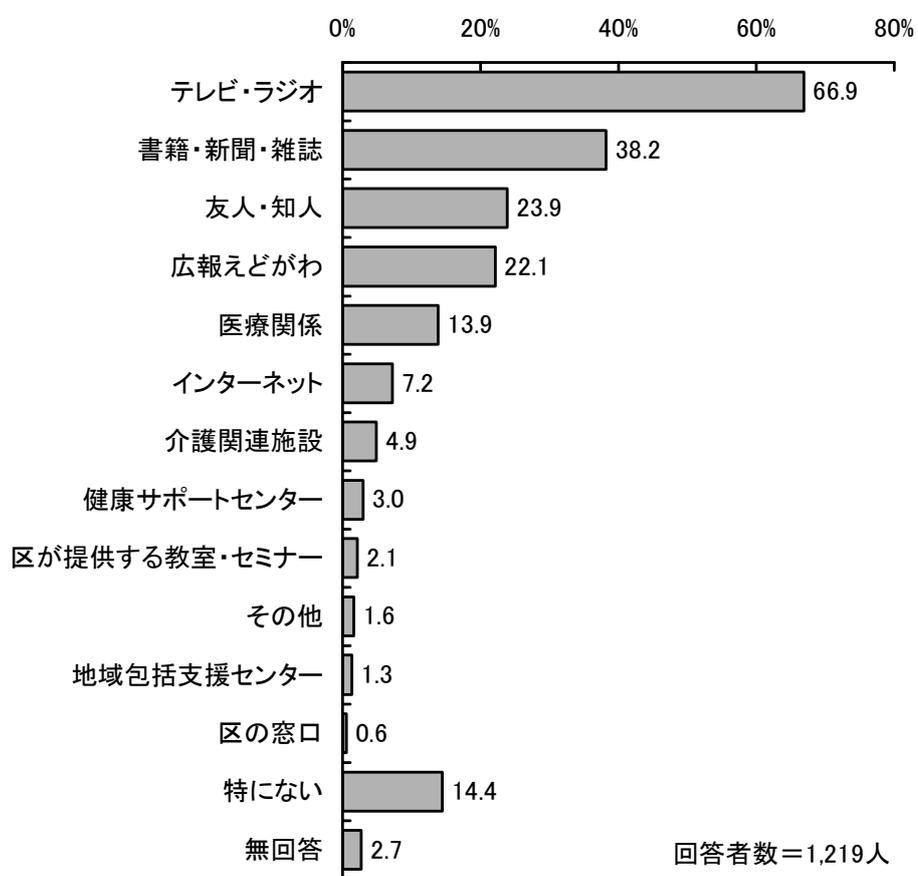
(3)健康づくり・介護予防の情報入手方法

問 12 あなたは、健康づくりや介護予防について、どちらから情報を得ていますか。

(あてはまるものすべてに○)

健康づくりや介護予防の情報入手方法としては、「テレビ・ラジオ」66.9%、「書籍・新聞・雑誌」38.2%、「友人・知人」23.9%が上位3項目となっている。次いで、「広報えどがわ」22.1%、「医療関係」13.9%と続いている。

図表1-17 健康づくり・介護予防の情報入手方法(複数回答)



(4) 健康づくり・介護予防の講座への参加状況、参加したことがない理由

問 13 区では健康づくりや介護予防のためのセミナーや講座、イベントなどを実施していますが、あなたは参加したことがありますか。(1つに○)

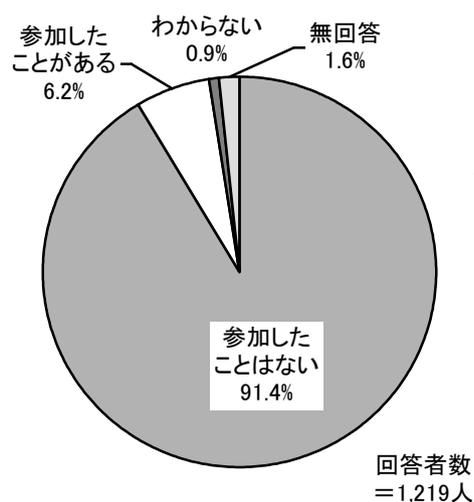
参加したことがない方(問 13 で 1 に○)におうかがいします。

問 13-1 参加したことがない理由は、次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

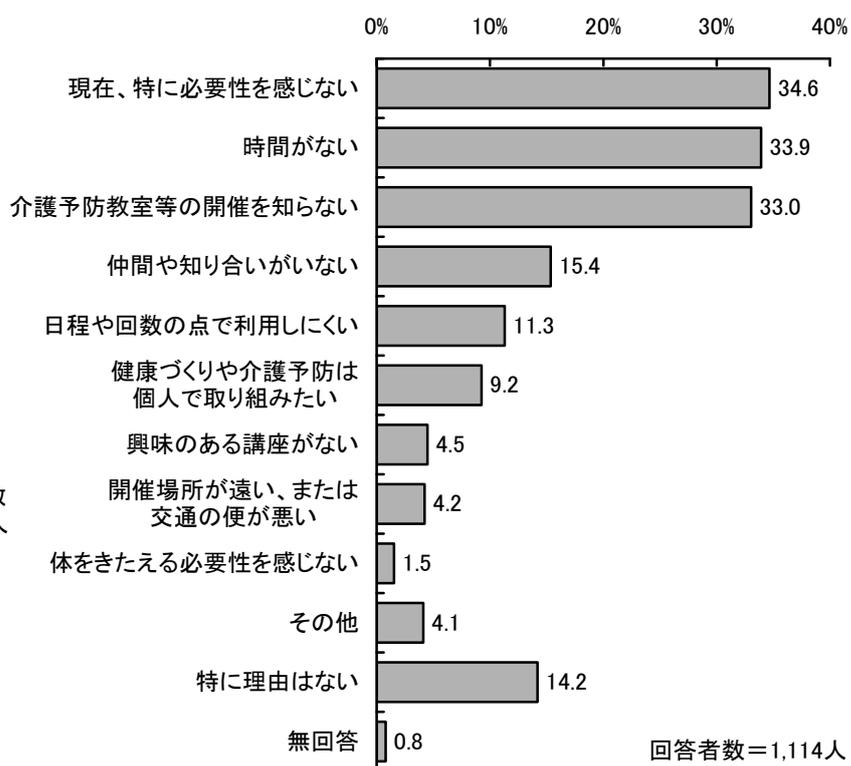
区の健康づくり・介護予防の講座への参加状況をみると、「参加したことはない」が 91.4%を占め、「参加したことがある」は 6.2%であった。

参加したことがない理由は、「現在、特に必要性を感じない」34.6%、「時間がない」33.9%、「介護予防教室等の開催を知らない」33.0%が上位3項目となっている。

図表1-18 参加状況(単数回答)



図表1-19 参加したことがない理由(複数回答)



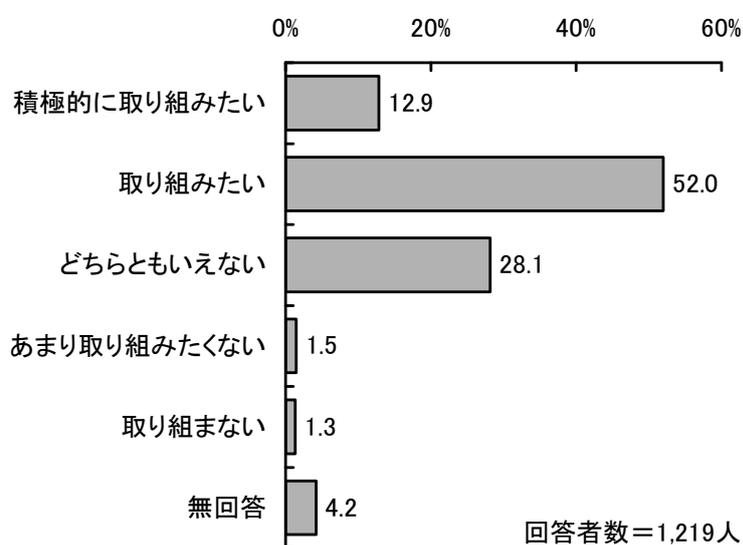
(5) 介護予防の取り組み意向

問 14 あなたは、今後、自分らしく介護を必要としない健康な生活を送るための「介護予防」の取り組みを、していきたいと考えていますか。(もっとも近い考え1つに○)

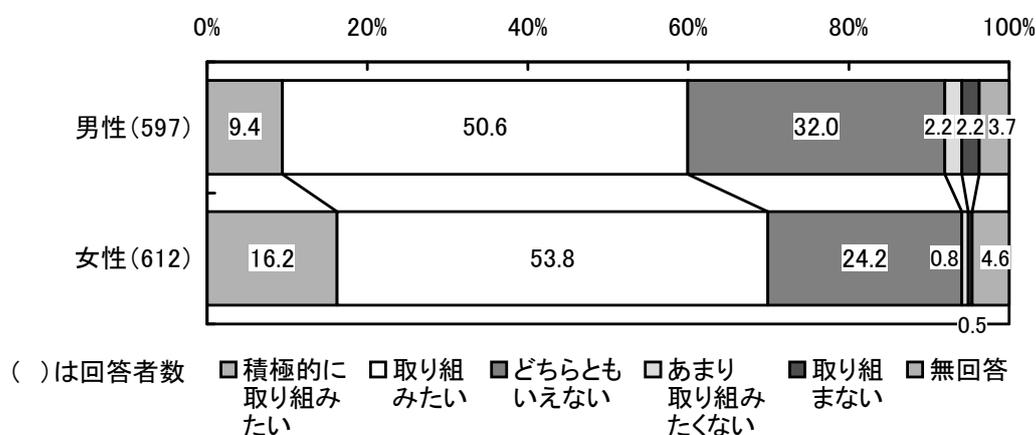
介護予防の取り組み意向をみると、「取り組みたい」52.0%、「積極的に取り組みたい」12.9%をあわせた64.9%が取り組み意向を示している。

性別にみると、「積極的に取り組みたい」「取り組みたい」をあわせた取り組み意向を示している人の割合は、男性60.0%、女性70.0%と、女性の方が10ポイント高い。

図表1-20 介護予防の取り組み意向(単数回答)



図表1-21 介護予防の取り組み意向



4. 就労、社会参加、生きがいづくりについて

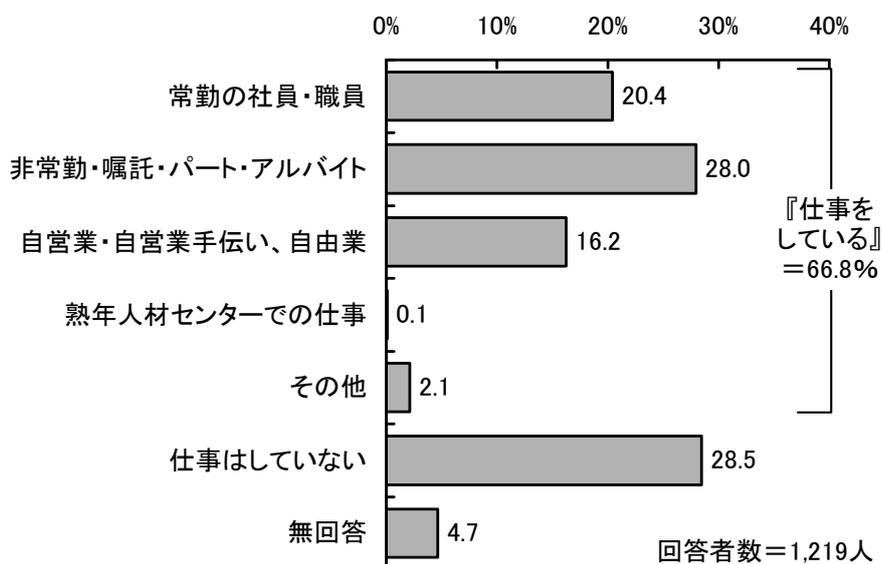
(1) 現在の就労状況

問 15 あなたは、現在、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

現在の就労状況を見ると、『仕事をしている』人の割合は全体の66.8%を占める。具体的には、「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」28.0%、「常勤の社員・職員」20.4%、「自営業・自営業手伝い、自由業」16.2%の順となっている。

性別にみると、『仕事をしている』は、男性75.6%、女性58.5%となっている。男性は「常勤の社員・職員」、女性は「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」の割合がもっとも高い。

図表1-22 現在の就労状況(単数回答)



図表1-23 現在の就労状況

		回答者数(人)	常勤の社員・職員	非常勤・嘱託・パート・アルバイト	自営業・自営業手伝い、自由業	熟年人材センターでの仕事	その他	仕事はしていない	無回答	『仕事をしている』
全体		1,219	20.4	28.0	16.2	0.1	2.1	28.5	4.7	66.8
性別	男性	597	32.2	21.4	19.3	0.2	2.5	19.9	4.5	75.6
	女性	612	8.8	34.3	13.6	0.0	1.8	36.8	4.7	58.5

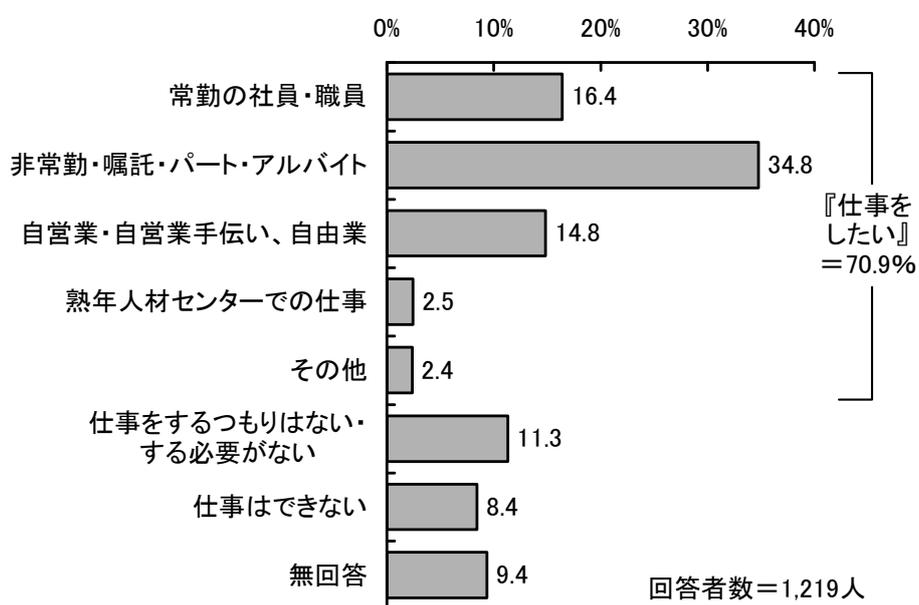
※『仕事をしている』=100%－「仕事はしていない」－「無回答」

(2) 今後の就労意向

問 16 あなたは、今後、収入のある仕事をしたい・続けたいと考えていますか。(1つに○)
【比較調査 250 参照】

今後の就労意向をみると、70.9%が『仕事をしたい』と回答している。希望する就労形態は、「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」34.8%、「常勤の社員・職員」16.4%、「自営業・自営業手伝い、自由業」14.8%の順で続いている。

図表1-24 今後の就労意向(単数回答)



※『仕事をしたい』 = 100% - 「仕事をするつもりはない・する必要がない」
- 「仕事はできない」 - 「無回答」

性別にみると、男性の77.2%、女性の64.8%が『仕事をしたい』と回答している。男性が希望する就労形態は、「常勤の社員・職員」「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」が各26.1%、女性は「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」が42.8%を占める。

現在の就労状況別にみると、常勤の社員・職員は「常勤の社員・職員」69.9%に次いで、16.1%が「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」を希望している。非常勤・嘱託・パート・アルバイト及び自営業・自営業手伝い、自由業の人は8割台が現状の仕事の継続を希望している。また、現在、仕事はしていない人では、36.3%が『仕事をしたい』と回答している。

図表1-25 今後の就労意向

		回答者数(人)	常勤の社員・職員	非常勤・嘱託・パート・アルバイト	自営業・自営業手伝い、自由業	熟年人材センターでの仕事	その他	仕事をするつもりはない・する必要がない	仕事はできない	無回答	『仕事をしたい』
全体		1,219	16.4	34.8	14.8	2.5	2.4	11.3	8.4	9.4	70.9
性別	男性	597	26.1	26.1	19.1	3.2	2.7	8.0	5.9	8.9	77.2
	女性	612	7.0	42.8	10.9	1.8	2.1	14.5	10.9	9.8	64.8
現在の就労状況別	常勤の社員・職員	249	69.9	16.1	1.6	2.0	0.8	4.0	0.0	5.6	90.4
	非常勤・嘱託・パート・アルバイト	341	4.4	86.5	0.9	1.8	0.9	1.5	0.0	4.1	94.4
	自営業・自営業手伝い、自由業	198	0.5	1.5	84.3	1.0	0.0	2.5	2.0	8.1	87.4
	熟年人材センターでの仕事	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	その他	26	7.7	26.9	3.8	0.0	23.1	15.4	15.4	7.7	61.5
	仕事はしていない	347	2.0	22.8	1.7	4.6	5.2	32.9	27.1	3.7	36.3

※『仕事をしたい』=100%－「仕事をするつもりはない・する必要がない」－「仕事はできない」－「無回答」

(3) 今後就労を希望する理由、就労を継続したい年齢

今後仕事をしたいと考えている方(問 16 で 1～5 に○)におうかがいします。

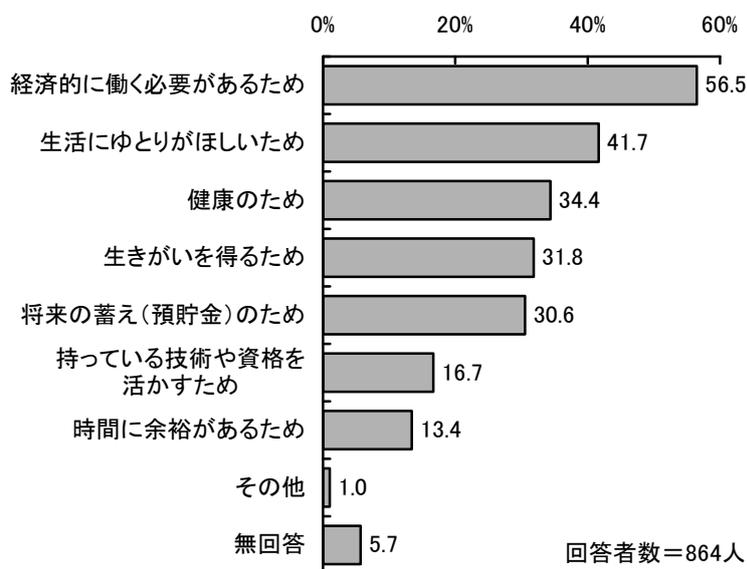
問 16-1 それはどのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

問 16-2 何歳くらいまで働きたいと思いますか。(1つに○)【比較調査 250 参照】

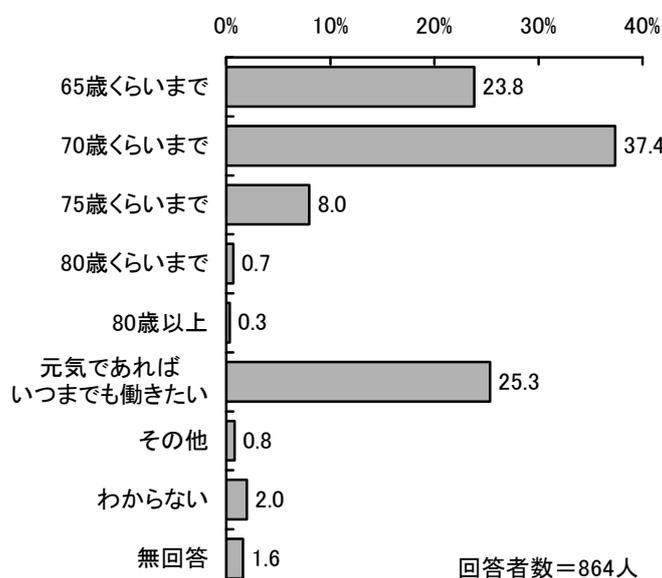
『仕事をしたい』と回答した人が今後就労を希望する理由は、「経済的に働く必要があるため」56.5%がもっとも高く、次いで「生活にゆとりがほしいため」41.7%、「健康のため」34.4%、「生きがいを得るため」31.8%、「将来の蓄え(預貯金)のため」30.6%と続いている。

就労を継続したい年齢は、「70歳くらいまで」37.4%がもっとも高く、次いで「元気であればいつまでも働きたい」が25.3%、「65歳くらいまで」が23.8%となっている。

図表1-26 今後就労を希望する理由(複数回答)



図表1-27 就労を継続したい年齢(単数回答)



(4) 現在参加している余暇活動・社会参加活動

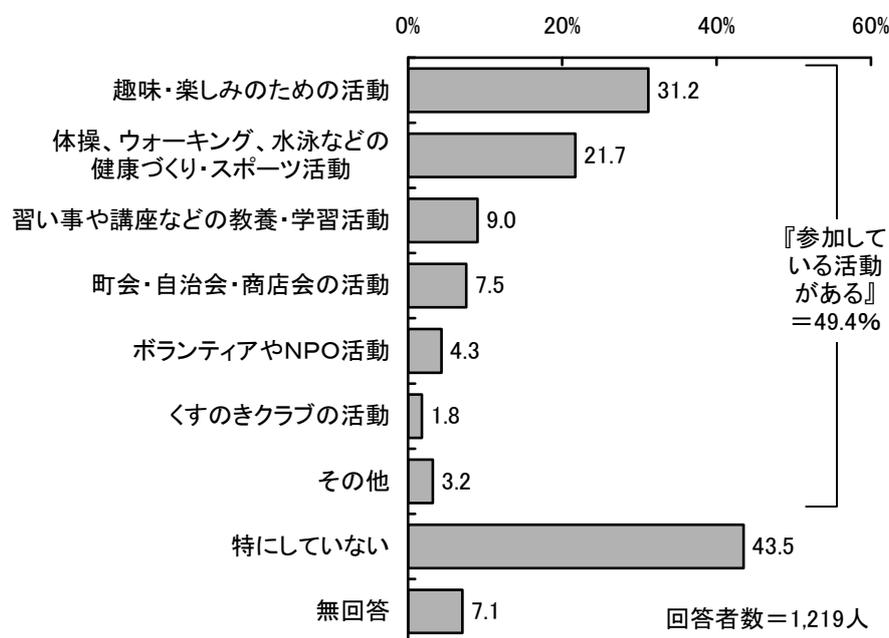
問 17 あなたは、現在、どのような余暇活動や社会参加活動をしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

余暇活動・社会参加活動について、現在『参加している活動がある』人の割合は49.4%と約半数を占める。具体的には、「趣味・楽しみのための活動」31.2%がもっとも高く、次いで「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」21.7%、「習い事や講座などの教養・学習活動」9.0%、「町会・自治会・商店会の活動」7.5%と続いている。

性別にみると、『参加している活動がある』は、男性47.6%、女性51.0%となっている。

図表1-28 現在参加している余暇活動・社会参加活動(複数回答)



図表1-29 現在参加している余暇活動・社会参加活動

		回答者数(人)	趣味・楽しみのための活動	体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動	習い事や講座などの教養・学習活動	町会・自治会・商店会の活動	ボランティアやNPO活動	くすのきクラブの活動	その他	特にしていない	無回答	『参加している活動がある』
全体		1,219	31.2	21.7	9.0	7.5	4.3	1.8	3.2	43.5	7.1	49.4
性別	男性	597	30.7	19.6	3.2	8.5	2.3	0.5	3.4	45.9	6.5	47.6
	女性	612	31.4	23.7	14.7	6.5	6.4	3.1	2.9	41.5	7.5	51.0

※『参加している活動がある』 = 100% - 「特にしていない」 - 「無回答」

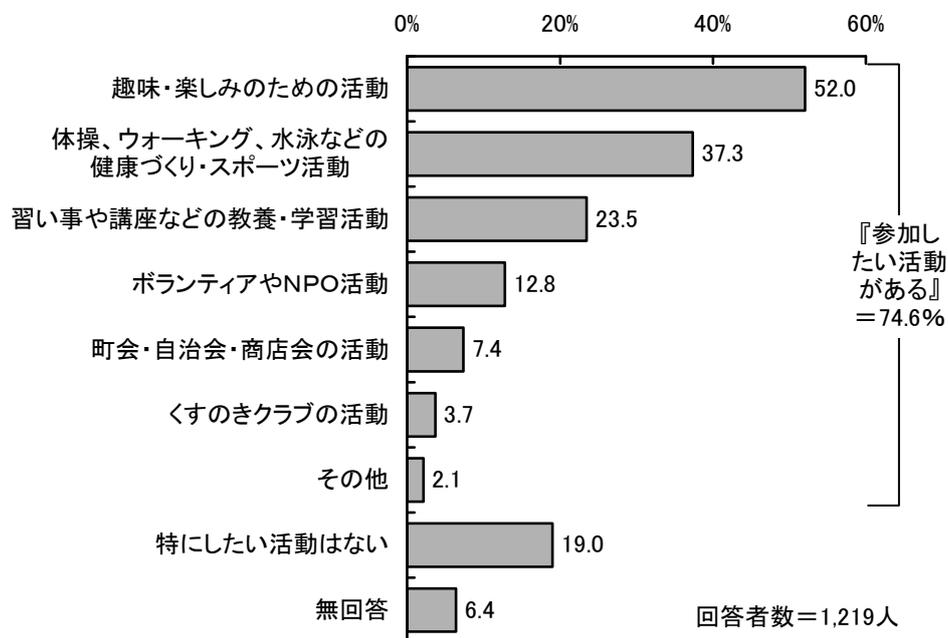
(5) 今後参加したい余暇活動・社会参加活動

問 18 あなたは、今後、どのような余暇活動や社会参加活動をしていきたいと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○) 【比較調査 251 頁参照】

今後参加したい余暇活動・社会参加活動をみると、74.6%が『参加したい活動がある』と回答している。具体的には、「趣味・楽しみのための活動」に 52.0%、「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」に 37.3%、「習い事や講座などの教養・学習活動」に 23.5%、「ボランティアやNPO活動」に 12.8%が参加意向を示している。

性別にみると、『参加したい活動がある』割合は、男性 69.7%、女性 79.4%と、女性の方が約 10 ポイント高くなっている。

図表1-30 今後参加したい余暇活動・社会参加活動(複数回答)



図表1-31 今後参加したい余暇活動・社会参加活動

		回答者数(人)	趣味・楽しみのための活動	体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動	習い事や講座などの教養・学習活動	ボランティアやNPO活動	町会・自治会・商店会の活動	くすのきクラブの活動	その他	特にしたい活動はない	無回答	『参加したい活動がある』
全体		1,219	52.0	37.3	23.5	12.8	7.4	3.7	2.1	19.0	6.4	74.6
性別	男性	597	49.6	30.8	13.7	10.1	9.0	1.5	2.3	24.6	5.7	69.7
	女性	612	54.4	43.8	33.2	15.4	5.7	5.9	2.0	13.6	7.0	79.4

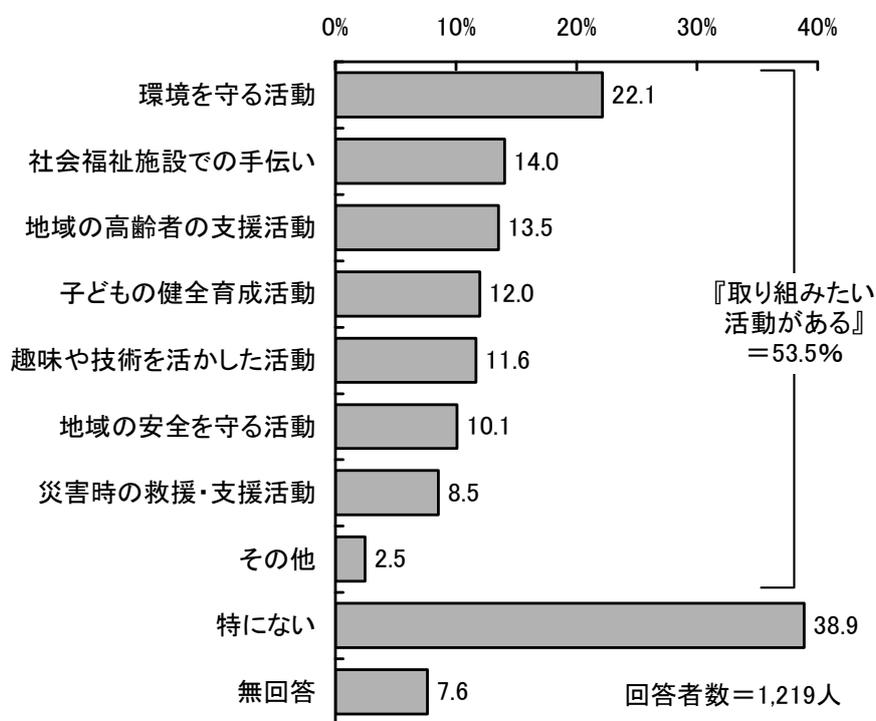
※『参加したい活動がある』 = 100% - 「特にしたい活動はない」 - 「無回答」

(6) 取り組んでみたいボランティア活動

問 19 次のようなボランティア活動について、あなたが取り組んでみたいと思う活動はありますか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 252 頁参照】

取り組みたいボランティア活動をみると、53.5%と半数強が『取り組みたい活動がある』と活動意向を示している。具体的には、「環境を守る活動」22.1%、「社会福祉施設での手伝い」14.0%、「地域の高齢者の支援活動」13.5%、「子どもの健全育成活動」12.0%の順で続いている。

図表1-32 取り組んでみたいボランティア活動(複数回答)



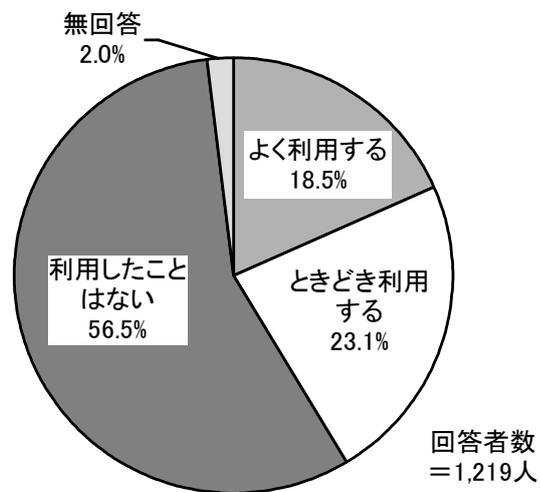
※『取り組みたい活動がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

(7) インターネットの利用状況

問 20 あなたは、趣味や生活に必要な情報を得るために、パソコンなどのインターネットを利用することがありますか。(1つに○)

インターネットの利用状況については、「ときどき利用する」23.1%、「よく利用する」18.5%をあわせた41.6%が利用していると回答している。

図表1-33 インターネットの利用状況(単数回答)



5. 地域とのかかわりについて

(1) 近所の人とのつきあいの程度

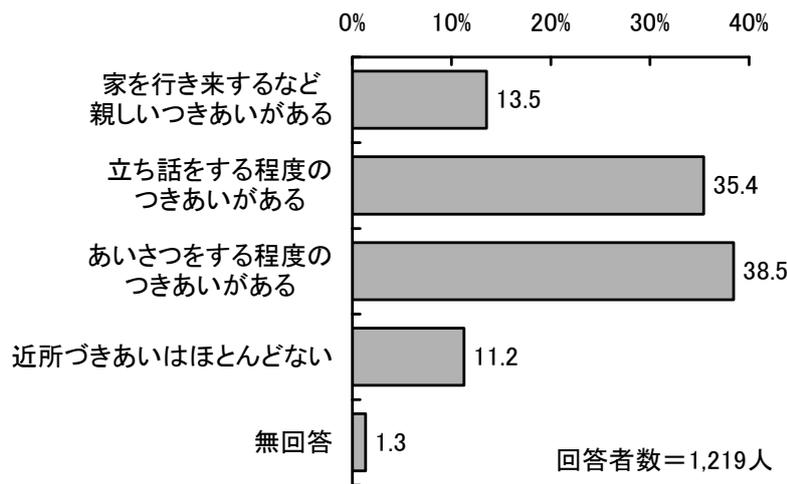
問 21 あなたは、ご近所の方との程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

【比較調査 253 参照】

近所の人とのつきあいの程度をみると、「あいさつをする程度のつきあいがある」が 38.5%ともっとも高く、次いで「立ち話をする程度のつきあいがある」35.4%となっている。「家を行き来するなど親しいつきあいがある」は 13.5%であった。

性別にみると、男性は「あいさつをする程度のつきあいがある」が 47.9%と約半数を占め、14.4%が「近所づきあいはほとんどない」と回答している。女性は「立ち話をする程度のつきあいがある」41.7%がもっとも高い。

図表1-34 近所の人とのつきあいの程度(単数回答)



図表1-35 近所の人とのつきあいの程度

		回答者数(人)	家を行き来するなど親しいつきあいがある	立ち話をする程度のつきあいがある	あいさつをする程度のつきあいがある	近所づきあいはほとんどない	無回答
全体		1,219	13.5	35.4	38.5	11.2	1.3
性別	男性	597	7.4	29.0	47.9	14.4	1.3
	女性	612	19.8	41.7	29.1	8.3	1.1

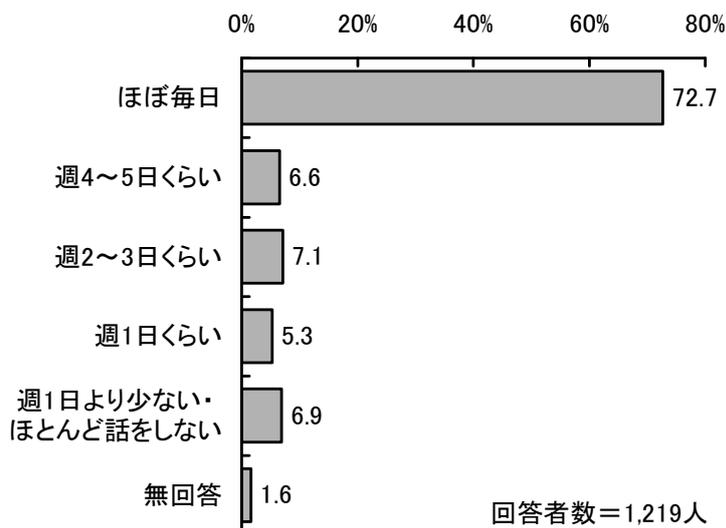
(2) 家族等との会話の頻度

問 22 あなたは、ふだん、どのくらいご家族(同居を含む)・ご親族や知人等と話をしていますか(電話やメールを含む)。(1つに○)

家族等との会話の頻度は、「ほぼ毎日」が72.7%を占めている。一方、「週1日くらい」5.3%、「週1日より少ない・ほとんど話をしない」6.9%をあわせた12.2%は会話の頻度が週に1回以下となっている。

性別にみると、「ほぼ毎日」会話をする人の割合は、女性77.6%に対して男性は67.5%と低い。また、「週1日より少ない・ほとんど話をしない」は男性11.4%と、女性の約4倍になっている。

図表1-36 家族等との会話の頻度(単数回答)



図表1-37 家族等との会話の頻度

		回答者数(人)	ほぼ毎日	週4~5日くらい	週2~3日くらい	週1日くらい	週1日より少ない・ほとんど話をしない	無回答
全体		1,219	72.7	6.6	7.1	5.3	6.9	1.6
性別	男性	597	67.5	7.0	7.4	5.4	11.4	1.3
	女性	612	77.6	6.2	6.7	5.2	2.6	1.6

6. 今後の暮らしや介護について

(1) 将来の生活で不安を感じること

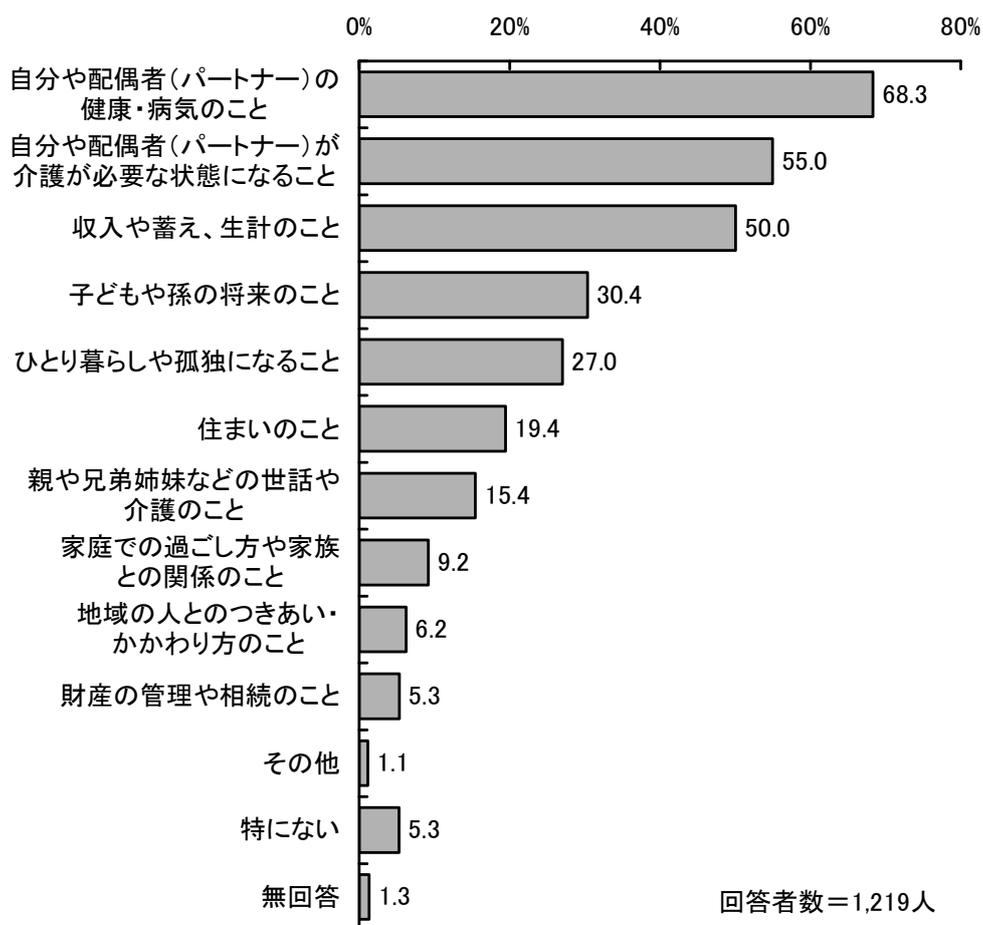
問 23 あなたは、将来の生活で不安を感じることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

将来の生活で不安を感じることとしては、「自分や配偶者（パートナー）の健康・病気のこと」68.3%、「自分や配偶者（パートナー）が介護が必要な状態になること」55.0%、「収入や蓄え、生計のこと」50.0%が上位3項目であり、いずれも半数以上からあげられている。

次いで、「子どもや孫の将来のこと」30.4%、「ひとり暮らしや孤独になること」27.0%、「住まいのこと」19.4%が続いている。

図表1－38 将来の生活で不安を感じること(複数回答)



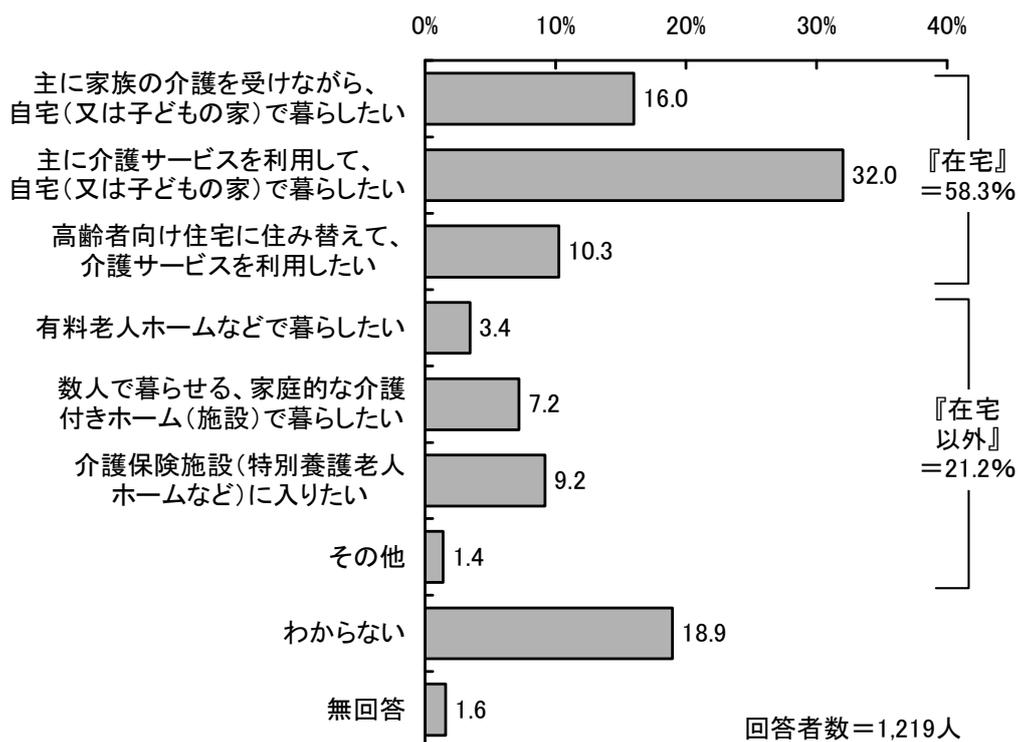
(2) 今後介護を受けたい場所

問 24 あなたは、将来介護が必要になった場合、どのように暮らしたいですか。(もっとも近い考え1つに○) 【比較調査 254 参照】

今後介護を受けたい場所をみると、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」32.0%、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」16.0%、「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」10.3%の順であり、これらをあわせた58.3%が『在宅』での暮らしを希望している。

一方、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」9.2%、「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」7.2%、「有料老人ホームなどで暮らしたい」3.4%などをあわせた『在宅以外』は21.2%となっている。

図表1-39 今後介護を受けたい場所(単数回答)

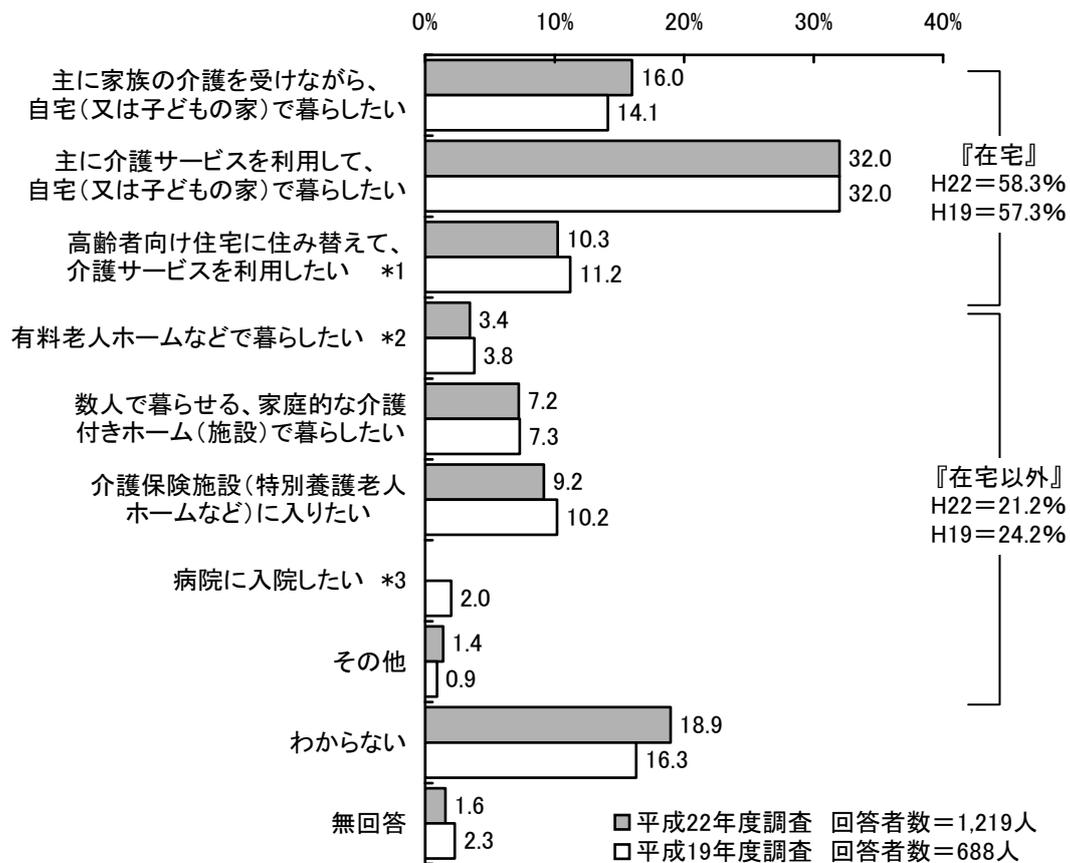


※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
+ 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
+ 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」
+ 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
+ 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」
+ 「その他」

今後介護を受けたい場所について、平成19年度調査と比較してみると、選択肢が異なるため単純な比較はできないが、『在宅』を希望している人が1.0ポイント増加し、『在宅以外』が3.0ポイント減少している。その内訳をみると、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が1.9ポイント増加し、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」が1.0ポイント減少している。

図表1-40 今後介護を受けたい場所<平成19年度調査との比較>



※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 + 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 + 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」
 + 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
 + 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」
 + 「病院に入院したい」
 + 「その他」

※*1 の選択肢は平成19年度調査では「主に介護サービスを利用して、高齢者向け住宅に住み替えて暮らしたい」

※*2 の選択肢は平成19年度調査では「有料老人ホームに入りたい」

※*3 「病院に入院したい」の選択肢は平成19年度調査のみ

※平成19年度調査の対象者は55歳～64歳

性別にみると、男女とも「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」がもっとも高いが、男性は女性に比べて「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」と回答した人の割合が高くなっている。

世帯構成別にみると、『在宅』を希望する割合は、夫婦のみの人では約6割、子どもや孫との同居世帯の人では6割を超えている。ひとり暮らしの人では、他に比べて「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」の割合が高くなっている。

図表1-41 今後介護を受けたい場所

		回答者数(人)	主に家族の介護を受けながら、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい	主に介護サービスを利用して、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい	高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい	有料老人ホームなどで暮らしたい	数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム(施設)で暮らしたい	介護保険施設(特別養護老人ホームなど)に入りたい	その他	わからない	無回答	『在宅』	『在宅以外』
全体		1,219	16.0	32.0	10.3	3.4	7.2	9.2	1.4	18.9	1.6	58.3	21.2
性別	男性	597	19.8	27.1	10.1	3.4	6.9	8.5	1.7	21.3	1.3	57.0	20.5
	女性	612	12.3	36.8	10.3	3.6	7.5	9.8	1.1	17.0	1.6	59.4	22.0
世帯構成別	ひとり暮らし	190	5.8	19.5	14.2	2.6	8.9	12.1	2.6	32.6	1.6	39.5	26.2
	夫婦のみ	369	19.5	26.8	13.6	3.8	7.6	8.9	0.8	18.2	0.8	59.9	21.1
	子どもと同居	430	17.2	37.9	7.4	4.2	7.0	7.9	1.2	15.6	1.6	62.5	20.3
	子どもと孫と同居	63	19.0	44.4	4.8	4.8	7.9	3.2	1.6	12.7	1.6	68.2	17.5
	その他	160	15.6	38.1	8.1	1.3	5.0	11.9	1.9	16.3	1.9	61.8	20.1

※『在宅』＝「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」＋「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」＋「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』＝「有料老人ホームなどで暮らしたい」＋「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」＋「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」＋「その他」

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(3) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと

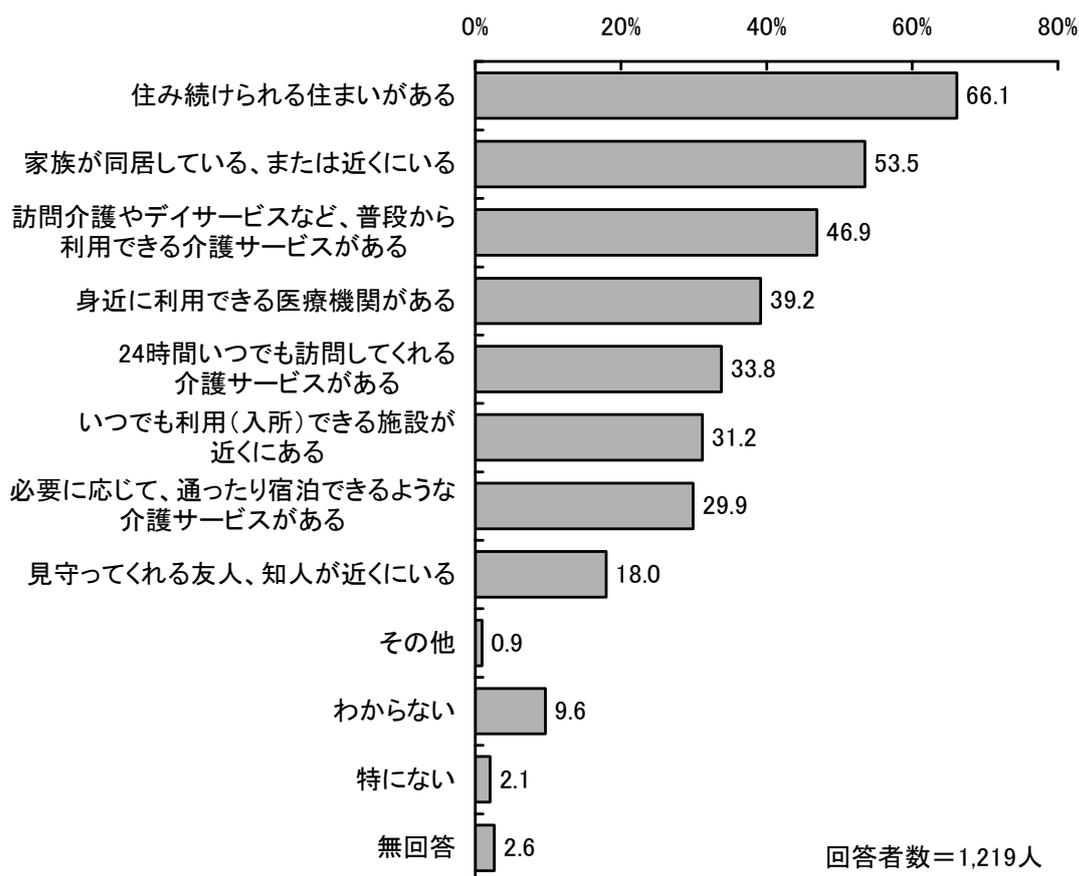
問 25 あなたは、介護が必要になっても在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことであると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【比較調査 255 参照】

在宅で暮らし続けるために必要と思うことをみると、「住み続けられる住まいがある」66.1%、「家族が同居している、または近くにいる」53.5%、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」46.9%と、住まい、家族、普段から利用できる介護サービスが上位3項目となっている。

次いで、「身近に利用できる医療機関がある」「24時間いつでも訪問してくれる介護サービスがある」「いつでも利用(入所)できる施設が近くにある」が3割台で続いている。

図表1-42 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと(複数回答)



(4)健康サポートセンターの認知度、利用経験

問 26 あなたは、健康サポートセンターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

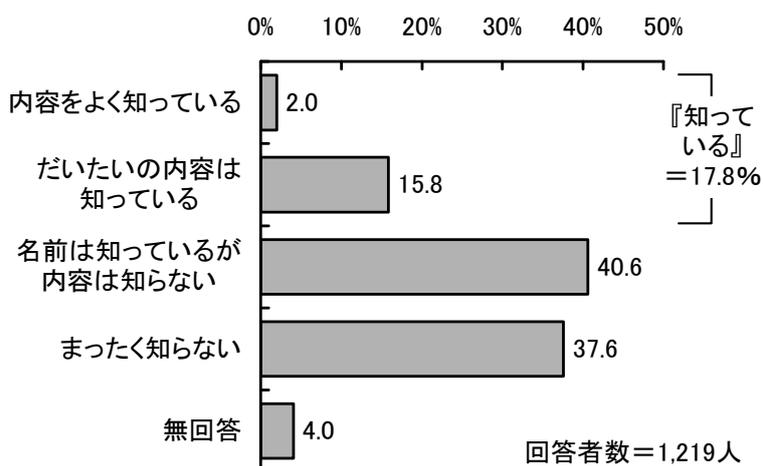
内容や名前を知っている方(問 26 で 1～3 に○)におうかがいします。

問 26-1 健康サポートセンターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

健康サポートセンターについて、「内容をよく知っている」2.0%、「だいたいの内容は知っている」15.8%をあわせた『知っている』は17.8%であり、「名前は知っているが内容は知らない」40.6%、「まったく知らない」37.6%となっている。

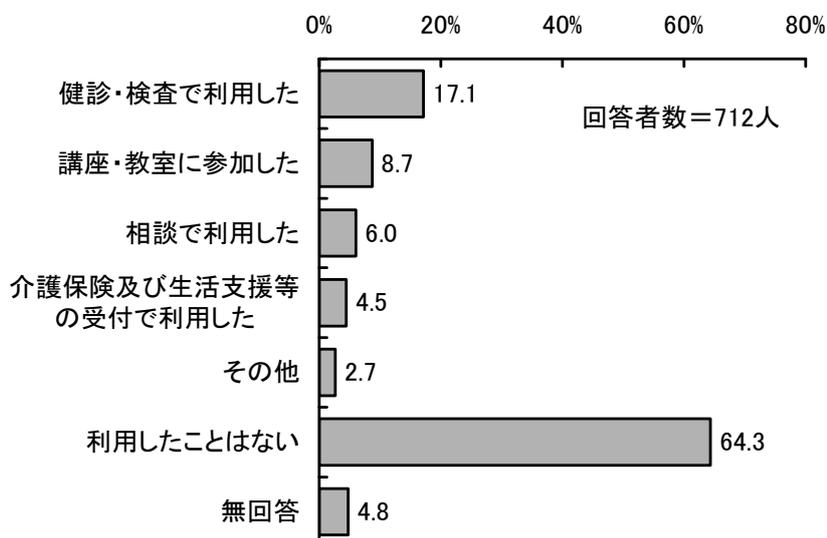
内容や名前を知っている人の利用経験としては、「利用したことはない」が64.3%であり、利用した場合としては、「健診・検査で利用した」17.1%、「講座・教室に参加した」8.7%、「相談で利用した」6.0%、「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」4.5%となっている。

図表1-43 健康サポートセンターの認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

図表1-44 健康サポートセンター利用経験(複数回答)

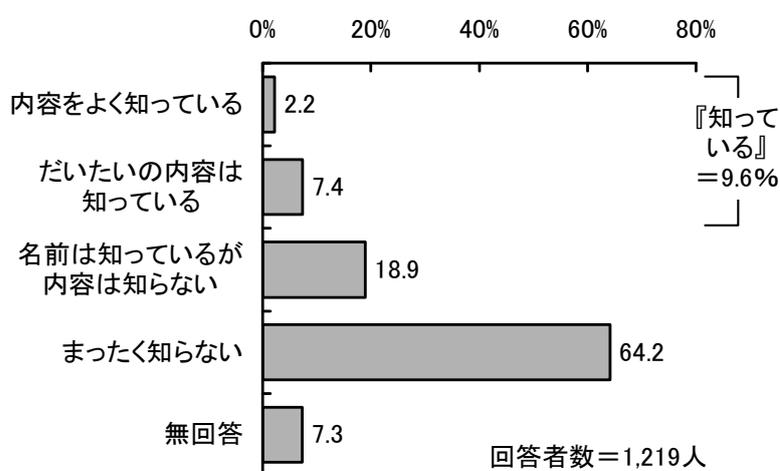


(5) 地域包括支援センターの認知度

問 27 あなたは、地域包括支援センターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

地域包括支援センターについて、「内容をよく知っている」2.2%、「だいたいの内容は知っている」7.4%をあわせた『知っている』は9.6%と約1割である。「まったく知らない」が64.2%であり、次いで「名前は知っているが内容は知らない」18.9%となっている。

図表1-45 地域包括支援センターの認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

(6) 地域包括支援センター利用経験、利用したことがない理由

内容や名前を知っている方(問 27 で 1~3 に○)におうかがいします。

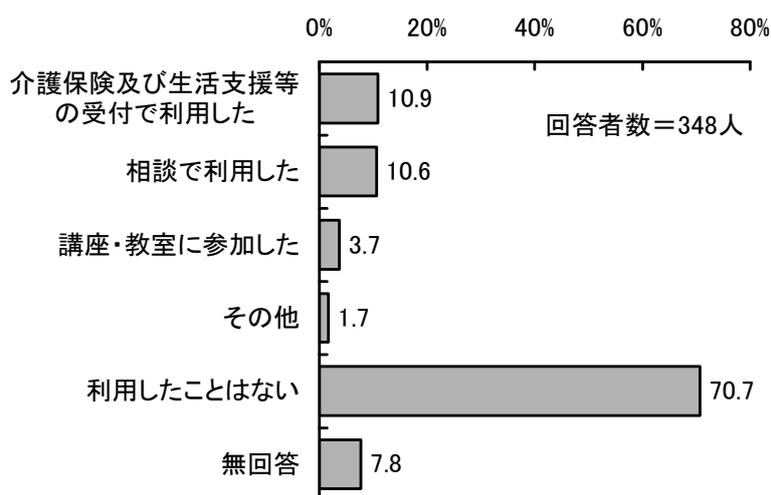
問 27-1 地域包括支援センターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

問 27-2 「利用したことはない」方におうかがいします。利用したことがない理由は次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

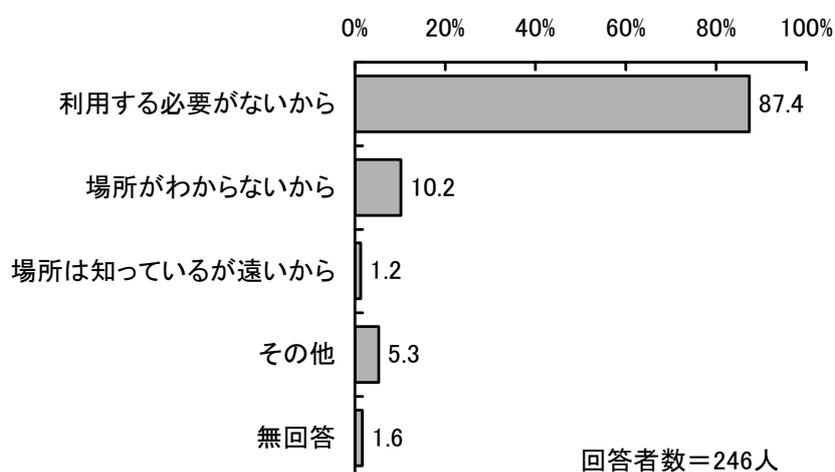
内容や名前を知っている人の地域包括支援センターの利用経験は、「利用したことはない」が 70.7%を占める。利用した場合としては、「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」10.9%、「相談で利用した」10.6%、「講座・教室に参加した」3.7%となっている。

利用したことがない理由としては、「利用する必要があるから」が 87.4%と 9 割近い。「場所がわからないから」は 10.2%、「場所は知っているが遠いから」は 1.2%となっている。

図表 1-46 地域包括支援センター利用経験(複数回答)



図表 1-47 利用したことがない理由(複数回答)



(7) 介護保険サービスの利用に対する考え、介護保険料の家計への影響

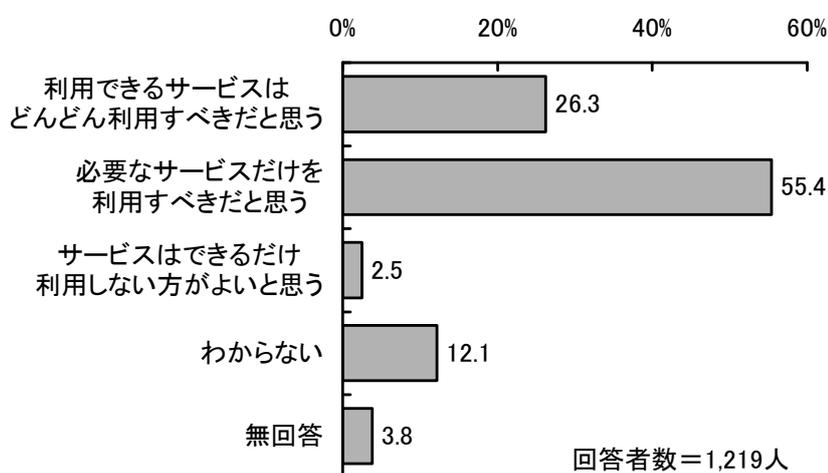
問 28 あなたは、介護保険サービスの利用のあり方について、どのようなお考えをお持ちですか。(1つに○)

問 29 介護保険の保険料について、家計への影響は次のうちどれに近いですか。(1つに○)【比較調査 256 参照】

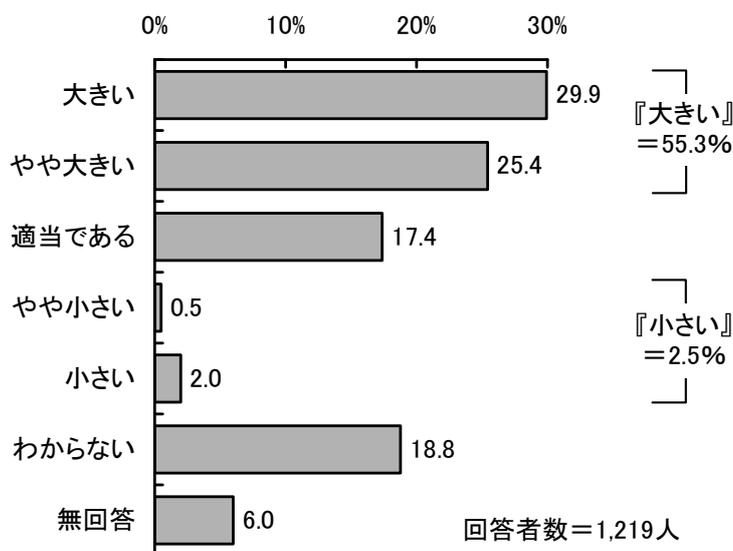
介護保険サービスの利用に対する考え方は、「必要なサービスだけを利用すべきだと思う」が 55.4%と過半数を占め、次いで「利用できるサービスはどんどん利用すべきだと思う」26.3%となっている。

介護保険料の家計への影響をみると、「大きい」29.9%、「やや大きい」25.4%をあわせた『大きい』が 55.3%と 5 割台を占める。

図表1-48 介護保険サービスの利用に対する考え(単数回答)



図表1-49 介護保険料の家計への影響(単数回答)



※『大きい』 = 「大きい」 + 「やや大きい」

※『小さい』 = 「やや小さい」 + 「小さい」

7. 介護状況について

(1) 介護経験の有無、介護した人の続柄

問 32 あなたは、ご家族またはご親族の介護をしたことがありますか。(1つに○)

介護経験がある方(問 32 で 1 または 2 に○)におうかがいします。

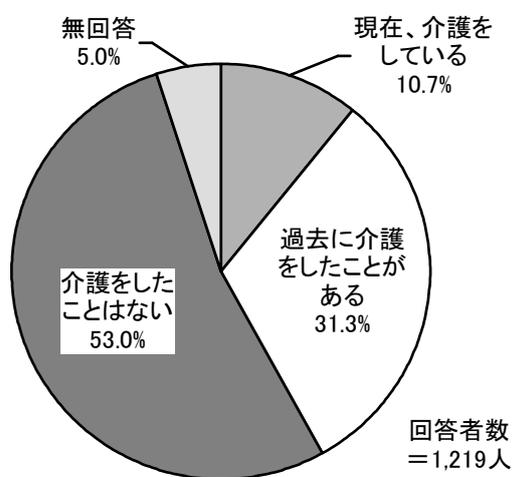
問 32-1 どなたを介護していますか、またはしましたか。あなたからみた続柄でお答えください。(あてはまるものすべてに○)

介護経験の有無をみると、「現在、介護をしている」が 10.7%、「過去に介護をしたことがある」が 31.3%と、これらをあわせた 42.0%が介護経験があると回答している。

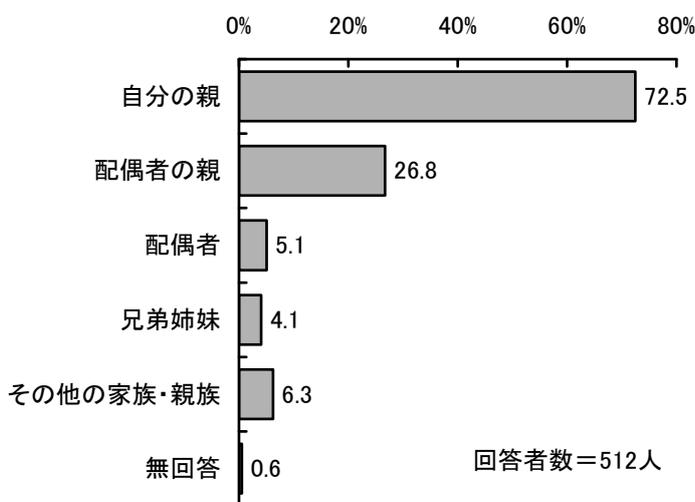
介護経験がある人が介護した人の続柄は、「自分の親」72.5%がもっとも高く、次いで「配偶者の親」26.8%となっている。

介護経験の有無を性別にみると、介護経験がある人の割合は男性 35.0%に対して、女性は 48.9%と約半数を占める。

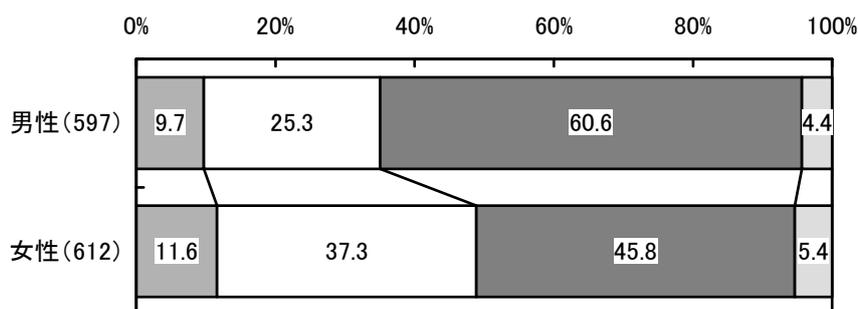
図表1-50 介護経験の有無(単数回答)



図表1-51 介護した人の続柄(複数回答)



図表1-52 介護経験の有無



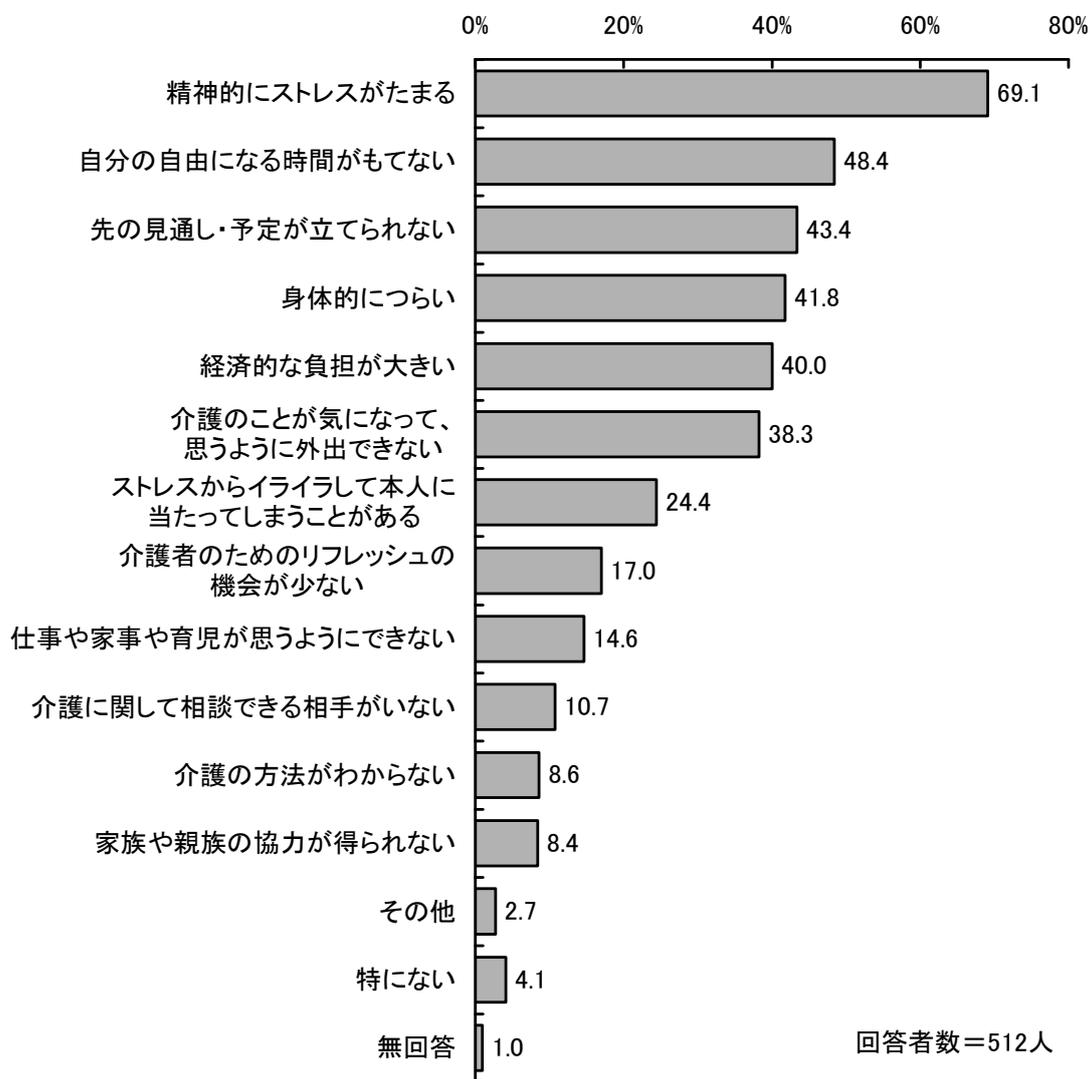
()は回答者数 □ 現在、介護をしている □ 過去に介護をしたことがある ■ 介護をしたことはない □ 無回答

(2) 介護をするうえで困ること

問 32-2 介護をするうえで、困ることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

介護をするうえで困ることは、「精神的にストレスがたまる」69.1%がもっとも高く約7割からあげられている。次いで、「自分の自由になる時間がもてない」「先の見通し・予定が立てられない」「身体的につらい」「経済的な負担が大きい」が4割台で続いている。

図表1-53 介護をするうえで困ること(複数回答)

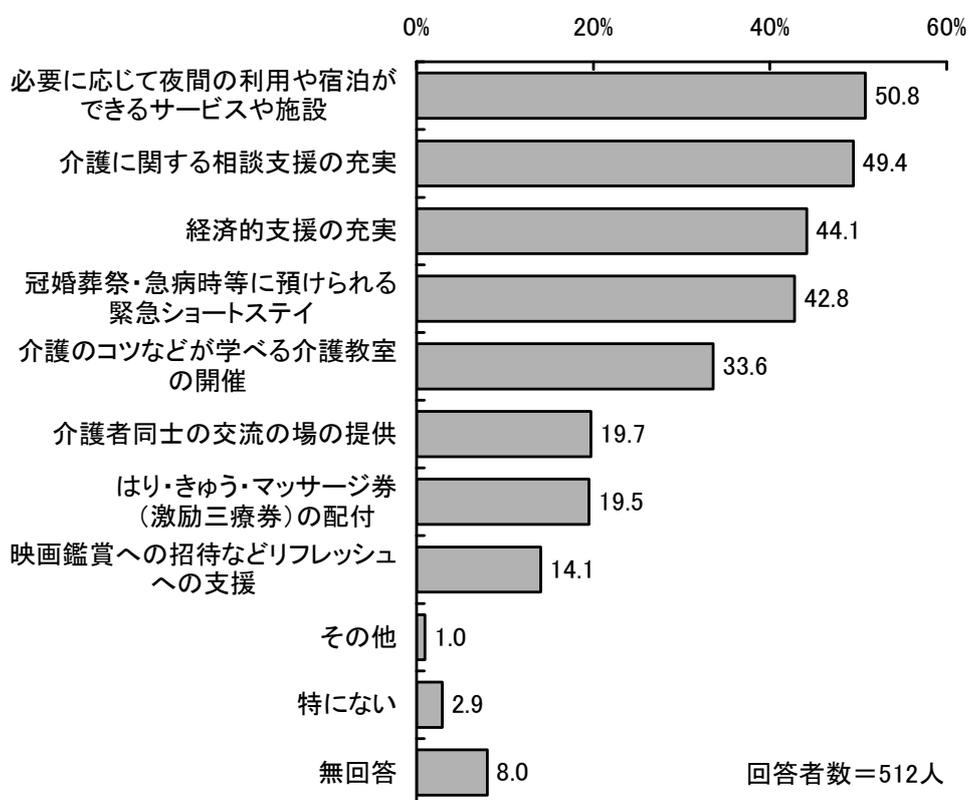


(3) 介護者にとって必要な支援

問 32-3 介護をしているご家族に対して、どのような支援やサービスがあるとよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

介護者にとって必要な支援としては、「必要に応じて夜間の利用や宿泊ができるサービスや施設」50.8%に次いで、「介護に関する相談支援の充実」49.4%、「経済的支援の充実」44.1%、「冠婚葬祭・急病時等に預けられる緊急ショートステイ」42.8%などとなっている。

図表1-54 介護者にとって必要な支援(複数回答)



8. 江戸川区の熟年者施策について

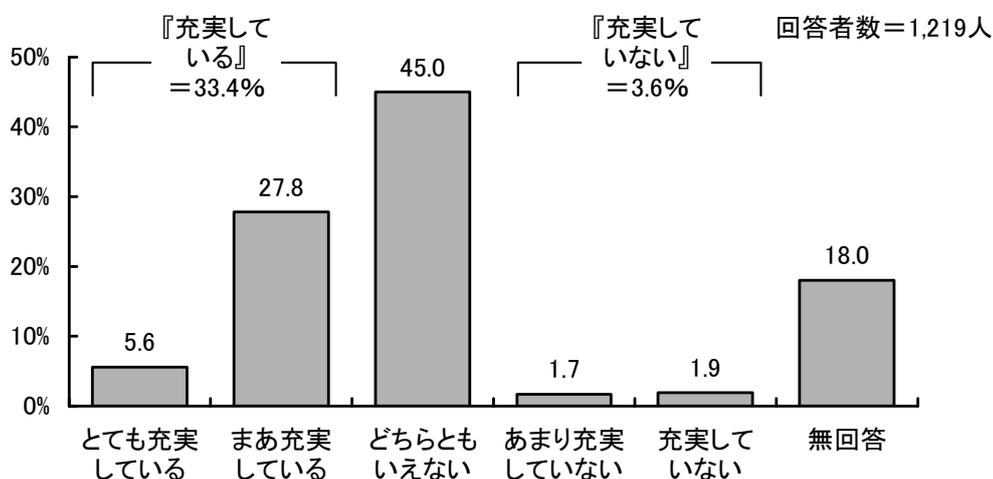
(1) 区の熟年者施策の充実度

問 30 江戸川区の熟年者施策について、あなたはどのように感じますか。(1つに○)

【比較調査 257 参照】

区の熟年者施策の充実度は、「とても充実している」は5.6%、「まあ充実している」は27.8%と、これらをあわせた『充実している』は33.4%となっている。「あまり充実していない」1.7%、「充実していない」1.9%をあわせた『充実していない』は3.6%であった。

図表1-55 区の熟年者施策の充実度(単数回答)



(『充実していない』理由：35件より抜粋して記載)

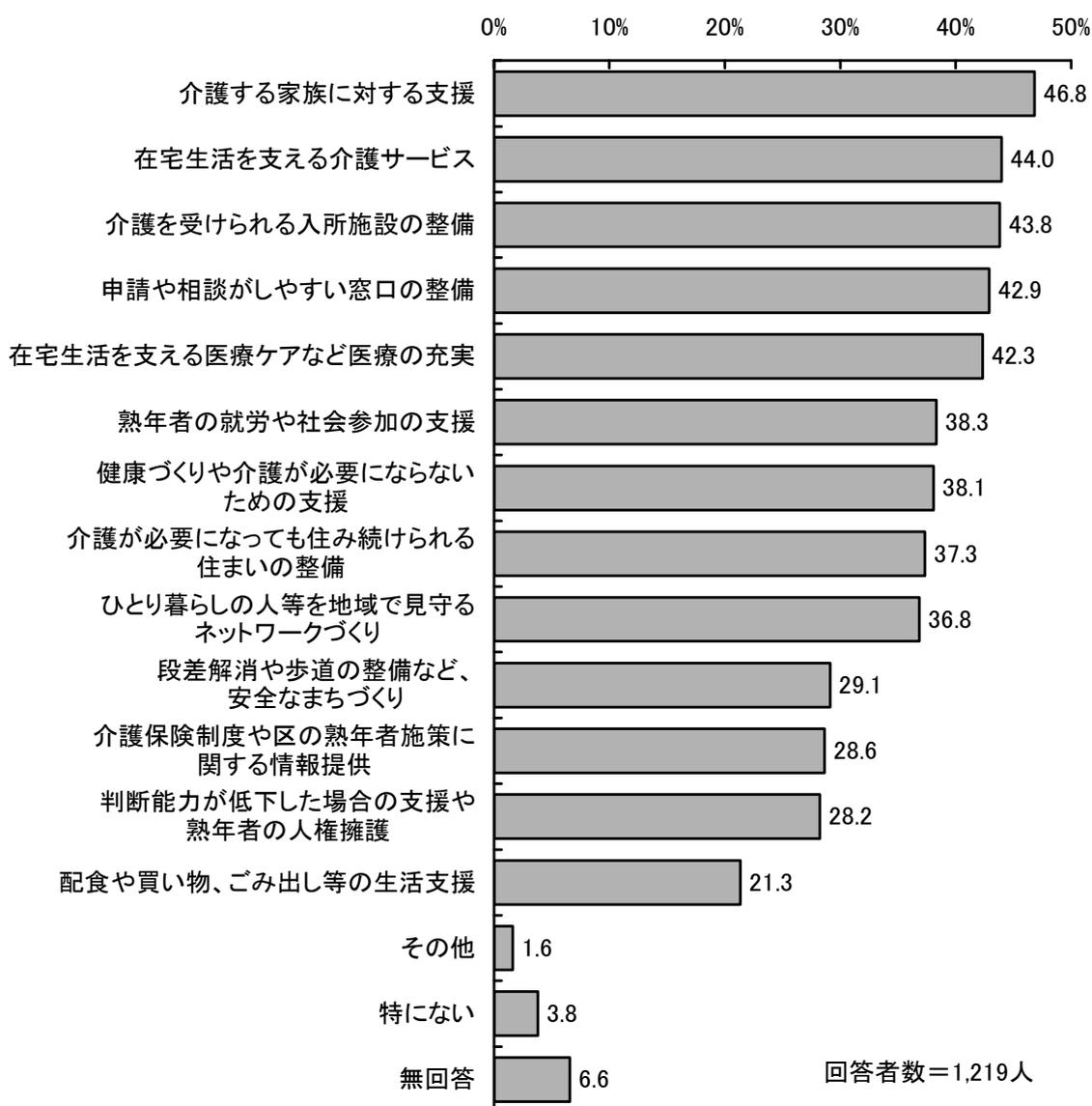
- ・高齢者施設をもっと充実してほしい。順番待ちの人が多数いる。
- ・必要な人が必要な時、いつでも安心して利用できる所や物がないような気がする。
- ・何かあった時に、どこへ、どのようなことを、どのように相談したらいいかわからない。
- ・施策の内容がわからない。積極的に知ろうとしない面があるが、広報にも問題があるのではないか。
- ・これからは医療費が大きな負担になる。子ども手当や医療費の負担などと同じく、熟年者への細やかな配慮がすぐにでも必要と思う。

(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと

問 31 江戸川区が今後充実すべきと思う熟年者施策は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 258 参照】

区の熟年者施策で充実してほしいことをみると、「介護する家族に対する支援」が一番多い。次いで、「在宅生活を支える介護サービス」「介護を受けられる入所施設の整備」「申請や相談がしやすい窓口の整備」「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」と続いております、いずれも4割を超えている。

図表1-56 区の熟年者施策で充実してほしいこと(複数回答)



(3) 区への意見・要望

江戸川区へのご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

(395 件について分類・要約して記載)

【1】介護保険・区の介護支援等に対する意見・要望(135 件より抜粋)

- ・ひとり暮らしで身体が不自由な場合など、介護を必要とする人が保険制度を利用するための手続きをとることが困難な場合がある。もっと利用しやすくしてほしい。
- ・介護保険の申請から、実際にサービスを受けるまでの期間について、もっと短期間に認定、通知と進む事を強く望む。
- ・介護を必要とする時に相談しやすい窓口をつくってほしい。
- ・地域包括支援センターについて、そういうセンターがあることさえ分からなかった。もう少し積極的に広報活動をしてほしい。
- ・「くらしの便利帳」は今まで便利に使っていたが、歳とともに面倒になってきている。電話で「助っ人電話」みたいな便利窓口があるとよい。
- ・介護保険料が高すぎる。生活が苦しくなる。
- ・介護保険料の現行水準はできるだけ維持してほしい。
- ・ヘルパーの資格を持っているが、家に介護する人がいて働けない。そういう人のために、介護仕事量に応じた支援金制度があったらと思う。
- ・国民年金生活者でも安心して生活できる施設がほしい。
- ・特別養護老人ホームなど、公的介護施設の増設を希望したい。
- ・特別養護老人ホームへ入れず、有料老人ホームへ入所するしかない場合は、所得制限をした上で補助金を出していただきたい。
- ・ショートステイや宿泊できる施設、ホームをこれからも増やしてほしい。
- ・近い将来、所得の低い高齢者が入居可能な施設の供給が必要不可欠になるので、増設を希望する。
- ・地域の人たちのグループホームをつくり、介護の手助けのできる元気な高齢者やボランティアの人たちの助けを借りる。その繰り返しで、ひとり暮らしの人や子どもの世話になれない人などをお世話したらよいと思う。
- ・ショートステイ、デイサービスなど、各施設との個別の契約があらかじめ必要などところが大変不便を感じる。ケアマネジャーを通じて、どの施設でも空いていれば利用できるようなったらよい。
- ・デイサービスの送り迎えに家人が必要だと、家人がフルタイム勤務だとサービスを活用できない。送り迎えなしでもひとりで自宅にいられる場合、家人がいなくてもよいのではと思う。
- ・同居人（世話をする人がいる）がいると、要介護状態区分が軽くなるようだ。その分、家族の負担が多くなるので、家族への何らかのサービスがあってもいいのではないか。
- ・家族の負担にならない介護が絶対必要と思う。行政でできることからどんどんやってほしい。
- ・介護する家族に対する支援を充実してほしい。
- ・介護士の方たちの賃金を、仕事内容に見合ったものにすることが急務だと思う。

【2】保健医療福祉施策に対する意見・要望(94 件より抜粋)

- ・江戸川区の区報の紙面を工夫してほしい。「医療面」「介護面」等のコーナーをわかりやすく、読みやすく掲載してほしい。
- ・高齢者のみの家庭が急速に多くなって、新聞を取らない家庭が増えている。区報の配布方法を

検討してほしい。

- ・ 今回の調査で、初めて江戸川区のホームページを見た。かなりのボリュームがあるが、ポイントが不明（目的が不明確）なものが散見される。
- ・ インターネットがかなり普及しているが、我々の世代以上では少ないと思う。もっと別の広報についても検討してほしい。
- ・ 区民への情報提供は、地区別、回覧等もあったらよいと思う。
- ・ 「健康サポートセンター」「地域包括支援センター」などを利用するにあたって、情報が少ない。
- ・ いろいろな申請の手続きを、わかりやすくしてほしい。
- ・ これから歳をとってくると事務手続きが大変になる。いろいろな手続きが1か所で済むようなシステムにしてほしい。
- ・ 西小岩地区に公共施設が少ないため、不公平感がある。
- ・ 大きな病院が少ない。
- ・ 訪問診療をしてくれる医院の充実を希望する。訪問診療を明記していても、実際にはなかなか出向いてもらえず、無理して病院に通っていた。
- ・ マンションの1室などを借りるなどし、もっと身近で気軽に利用できる「場（目的は様々あるが）」の整備も必要ではないか。マンションに住む高齢者が益々多くなることも考え、マンション等の施設で、福祉、医療、健康、社会参加等への活用を。
- ・ 家の近くのアパートに、ひとり暮らしのおばあさんがいて、近所で声かけをしたり、食事を届けたりしていた。町会で助け合いができるような仕組みをつくらないと。民生委員に任せるより、近隣の人たちの方が目が届くのではないか。
- ・ 歳をとって、体が不自由になった人にやさしい区であってほしい。高齢者にもっと手当を出してほしい。
- ・ 福祉や生活保護ばかりに目を向けなくて、まじめに働き続けた方々にもゆとりの生活が維持できるように希望する。

【3】就労・生きがい・社会参加に対する意見・要望(31件より抜粋)

- ・ 現在グラウンドゴルフに参加しているが、指導者が親切で、楽しく運動している。このように高齢者が気軽に参加できる趣味、スポーツなどをたくさん計画してほしい。
- ・ 高齢者のパソコン教室がいつも同じ時間で参加できない。午後だけでなく、午前中にもやってほしい。
- ・ くすのきカルチャーセンターでパソコン教室をつくってほしい。
- ・ 私たちが高齢者になるころは、高齢者がすごく増えると思うので、元気な年寄りの生きがいのための活動の場をつくってほしい。
- ・ 狭い土地で野菜づくりをしていると、通りすがりの高齢の人たちが声をかけてくれる。そのほとんどが、田舎で畑仕事をやったことがあり、機会があればやりたいといっている。高齢者専用の貸し畑（農園）があればと思う。
- ・ 元気な高齢者をサポーターとして採用する事で活気づくかも知れない。
- ・ 江戸川区はボランティア育成に積極的に取り組まれ、成果も挙げていると思うが、ボランティアを必要とされている側としたい側とのコーディネートがいまだ弱いように思う。
- ・ 年齢を重ねるとともに活動範囲が狭くなっていくので、各種講座等を開いて、たくさんの人と知り合っていくことが大切だと思う。できるだけ情報を届ける工夫をしてほしい。
- ・ 余暇活動、社会参加活動など、これから進んで参加していきたいと考えているが、活動窓口、活動内容の分かる資料がほしい。
- ・ マンションの集会室について、熟年者のコミュニケーションの場、介護支援の場としての活用・支援を考えてほしい。
- ・ ボランティアのみではなく、高齢者がいつまでも働ける施設が多くあるとよい。

- ・ 65 歳以上の労働情報を提供してほしい。広報、またはホームページで。

【4】健康づくり・介護予防について(11 件より抜粋)

- ・ 心身ともに健康に暮らせるために、病院通いのない人へのごほうびがあれば、体に気をつける人はそれを励みに楽しみが増すと思う。
- ・ 現在、葛西健康サポートセンターで、ひざ、腰の痛みの改善教室に通っている。1 週間に 1 度だが、きちんと教えて頂き助かっている。
- ・ 健康を増進するための区の施設が、区内に均等に分布しているようには感じられない。葛西地区の施設設置が貧弱なように思われる。
- ・ 健康づくりに関する講演会等の開催は、公会堂大ホール中心ではなく、できるだけ各地域で行い、土日開催をより多くしてほしい。
- ・ 足腰のためにプール歩行をしたいが、少ないので増やしてほしい。
- ・ 介護予防として、陶芸、囲碁教室等があるとうれしい。

【5】道路・公園等のまちづくり、住宅に対する意見・要望(64 件より抜粋)

- ・ 河川緑地、公園、野球場等があつて心が癒される。
- ・ 自転車道、または歩道専用道の整備。江戸川区は車道が広く、歩道には障害物が多い。歩道に電柱が多くある。
- ・ 車いすでどこでも行けるような、段差のない歩道の整備をお願いしたい。
- ・ 区内にマイクロバスの、遠い所に行けるものがあるといい。
- ・ 小岩方面に施設や緑が少ないように思う。広々とした広場がほしい（公園はあるが狭い）。
- ・ 道路、公園等の整備が多く行われている。直さなくてもいいものまで整備している。優先順位が違うのでは。
- ・ 道路の交差点での交通マナーの啓発を続けてほしい（自転車の信号無視）。
- ・ 高齢になり、身体に不自由が生じて遠出が無理になった時、すぐ近くに自然環境の豊かな憩いの場所や、美術館、映画館、コンサートホール等があればと思う。
- ・ 歩道の清掃を徹底していただきたい。動物（犬猫）の汚物を必ず持ち帰って処理する事を徹底して、環境保護に関心を持つ人が増えるよう啓発することが大事と思う。
- ・ 電柱の地中化、歩道、公園の充実など、まち並みの改善に努めてもらいたい。
- ・ 病院に行くとき、交通の便をよくしてほしい。
- ・ 都営住宅や熟年者向け低家賃の住宅などの充実を望む。
- ・ ひとり住まい用の都営住宅をもっと増やして、入居しやすくして頂きたい。
- ・ 老後の住まいの事が不安。少子化で、空きのある学校などを、将来住めるように利用するとよいのではと思う。

【6】その他(60 件より抜粋)

- ・ 65 歳から国民年金をもらっても、介護保険、健康保険といろいろ引かれるものが多く、先の生活が不安である。
- ・ 便利で住みやすいと思う。一生過ごしたい。
- ・ まだ介護の経験がないので身にしみて感じない。
- ・ 治療費がかかり、老後はお金を持っていないと心配だ。
- ・ このようなアンケートはありがたい。切実に感じていることがありうれしかった。今後どのようになっているのか、期待している。

第 2 章

熟年者の健康と生きがい に関する調査

< 調 査 概 要 >

調査方法	郵送配付、郵送回収
調査対象者	65歳以上の要介護認定を受けていない区民 (平成22年11月1日現在)
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
調査期間	平成22年11月22日～12月15日
対象者数 及び 回収率	対象者数 : 2,500 有効回収数 : 1,753 有効回収率 : 70.1%

1. 基本的属性

(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに○)

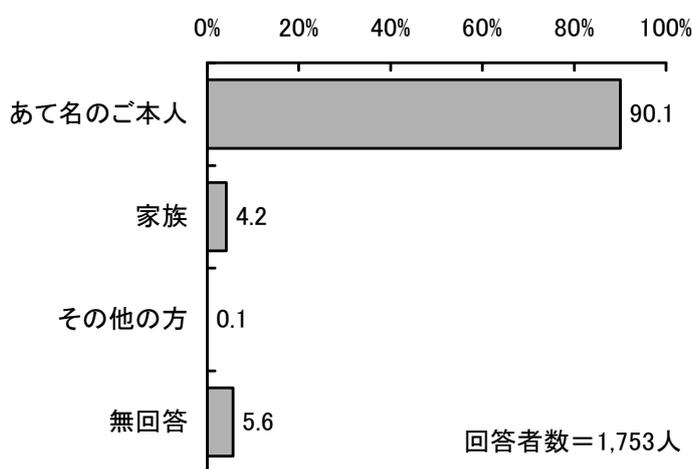
問2 あなた(あて名のご本人)の性別、平成22年11月1日現在の満年齢をお答えください。

調査回答者は、「あて名のご本人」が90.1%を占める。

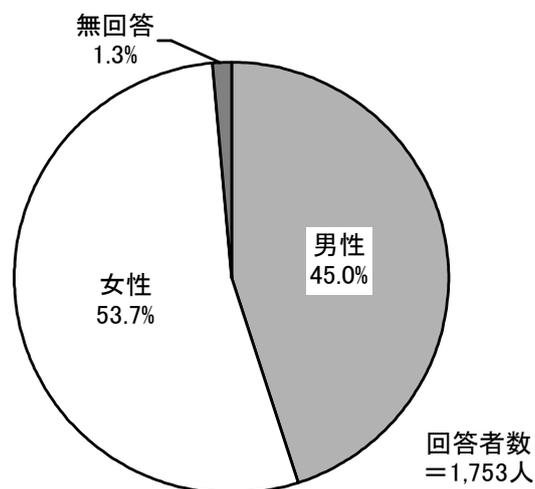
性別は、「男性」45.0%、「女性」53.7%と、女性の方が8.7ポイント高い。

年齢は「65～69歳」35.1%がもっとも高く、次いで「70～74歳」30.6%と、これらをあわせた前期高齢者が全体の65.7%を占める。平均年齢は72.7歳となっている。

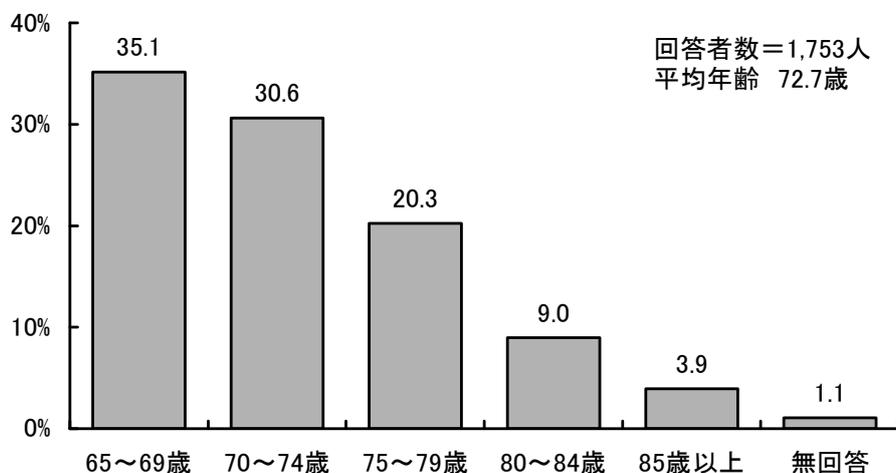
図表2-1 調査回答者(単数回答)



図表2-2 性別(単数回答)



図表2-3 年齢(単数回答)

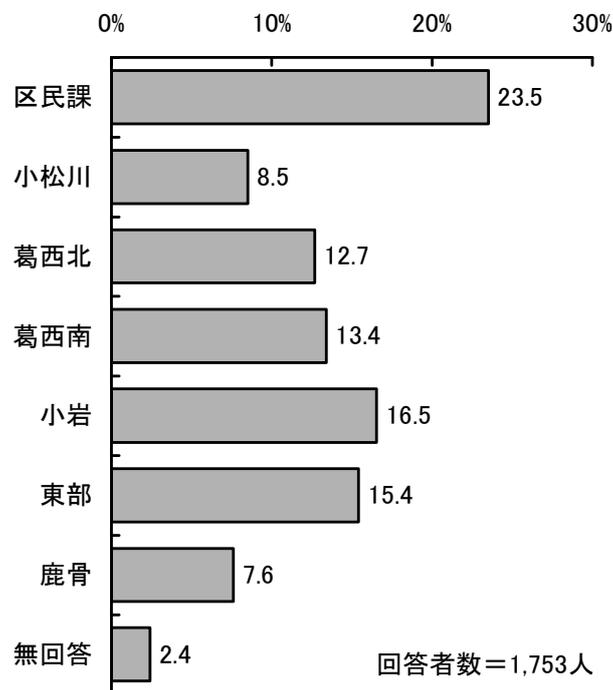


(2)居住地(日常生活圏域)

問3 あなた(あて名のご本人)のお住まいはどこですか。【比較調査 239 参照】

居住地(日常生活圏域)は、「区民課」23.5%がもっとも高い。次いで、「小岩」16.5%、「東部」15.4%と続いている。もっとも割合の高い「区民課」ともっとも低い「鹿骨」の差は15.9ポイントとなっている。

図表2-4 居住地(日常生活圏域)(単数回答)

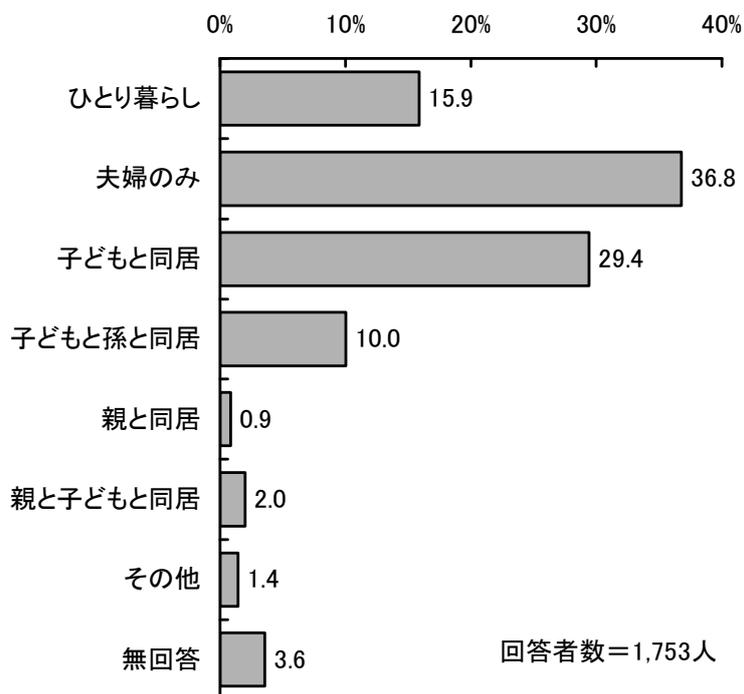


(3) 世帯構成

問4 あなた(あて名のご本人)の現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)
【比較調査 240 参照】

世帯構成は、「夫婦のみ」がもっとも高い 36.8%、次いで「子どもと同居」が 29.4%、「ひとり暮らし」15.9%、「子どもと孫と同居」10.0%の順となっている。

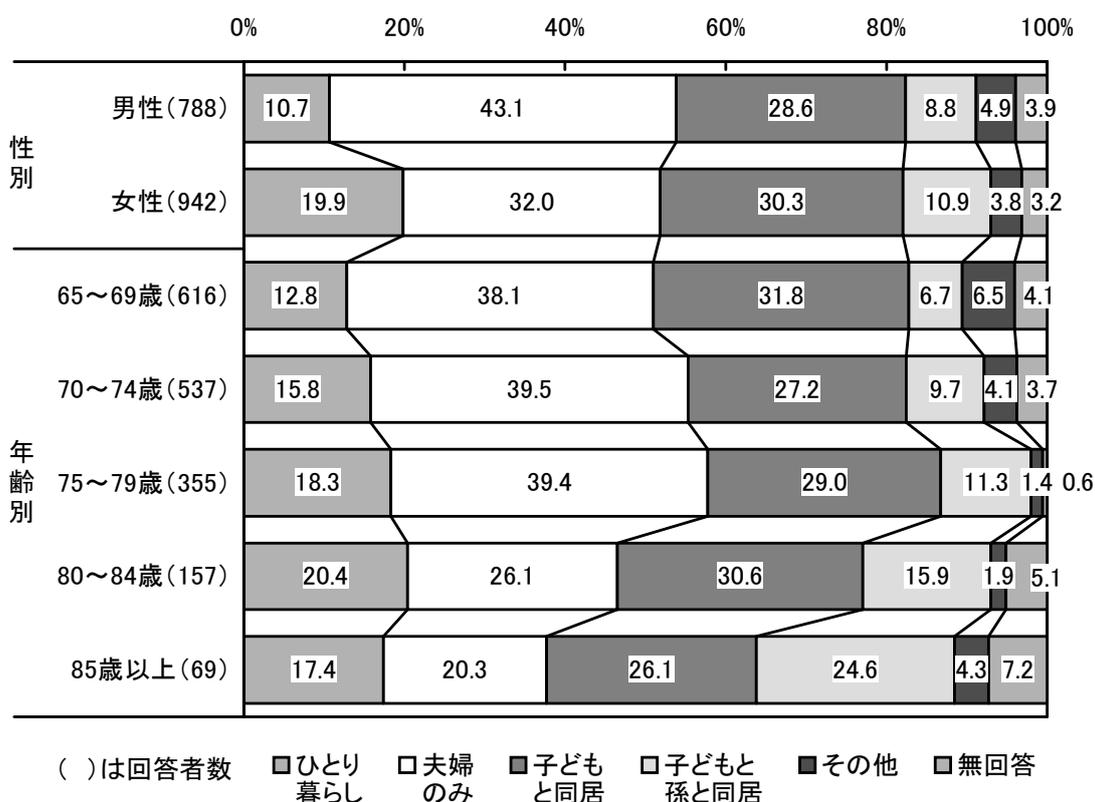
図表2-5 世帯構成(単数回答)



性別にみると、「ひとり暮らし」の割合は、男性 10.7%、女性 19.9%と、女性の方が約 10 ポイント高い。

年齢別にみると、65～79 歳の年齢層では「夫婦のみ」が 3 割台を占めてもっとも高い。80 歳以上では「子どもと同居」や「子どもと孫と同居」の割合が高くなり、「夫婦のみ」は 2 割台となっている。

図表2-6 世帯構成



※「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(4) 日中独居の状況

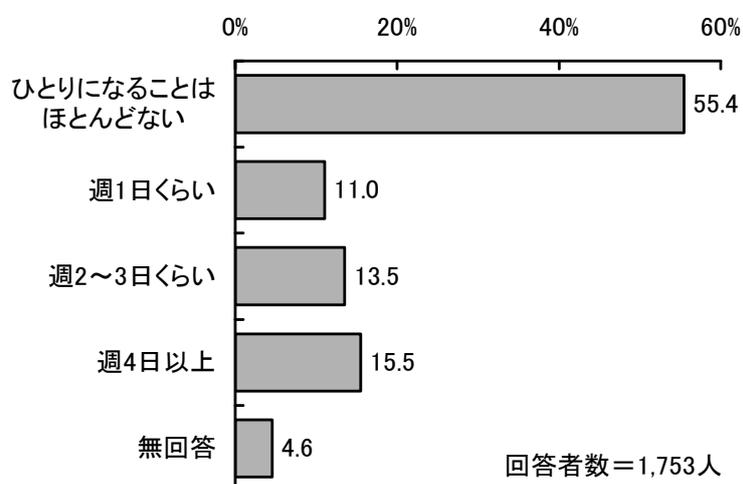
問5 あなた(あて名のご本人)は、日中、家にひとりであることがどのくらいありますか。

(1つに○)

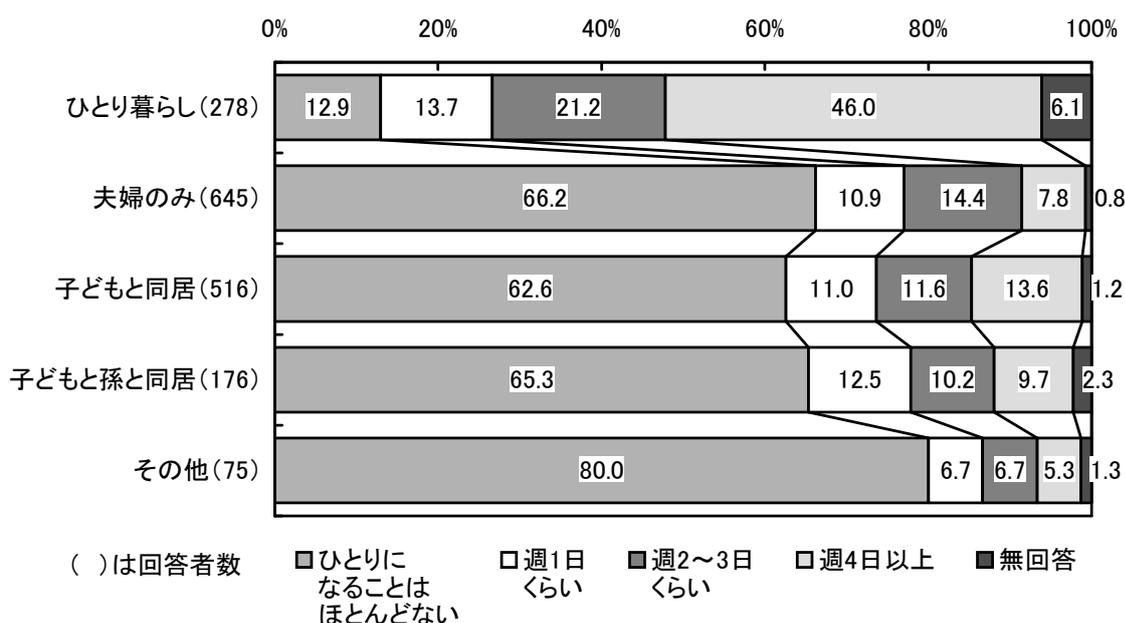
日中独居の状況を見ると、「ひとりになることはほとんどない」が55.4%と過半数を占める一方、「週4日以上」とする回答も15.5%と1割を超える。

世帯構成別にみると、夫婦のみや子どもや孫との同居世帯の人では「ひとりになることはほとんどない」が6割を超える。「週4日以上」ひとりである割合は、ひとり暮らしの人が46.0%、子どもと同居の人が13.6%、その他の世帯の人では1割を下回っている。

図表2-7 日中独居の状況(単数回答)



図表2-8 日中独居の状況



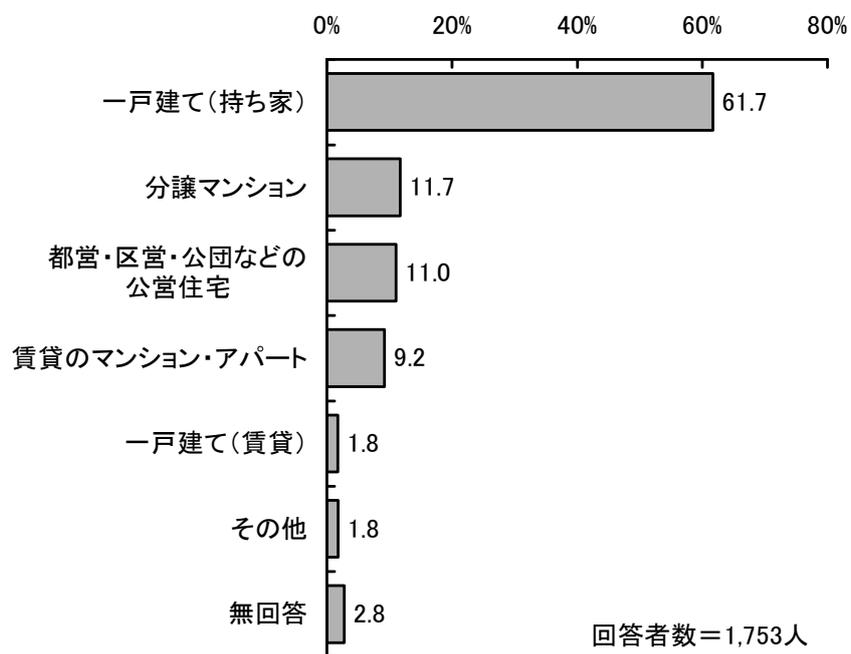
※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(5)住居の形態

問 6 あなた(あて名のご本人)の現在のお住まいは、次のうちどれですか。

住居の形態は、「一戸建て(持ち家)」61.7%がもっとも高く、次いで「分譲マンション」11.7%、「都営・区営・公団などの公営住宅」11.0%、「賃貸のマンション・アパート」9.2%と続いている。

図表2-9 住居の形態(単数回答)



日常生活圏域別にみると、区民課、小岩、東部、鹿骨は「一戸建て（持ち家）」が7割を超える。葛西南は「分譲マンション」が3割を超えてもっとも高い。

世帯構成別にみると、子どもや孫との同居世帯の人では「一戸建て（持ち家）」が7～8割台を占める。一方、ひとり暮らしの人は「一戸建て（持ち家）」は3割台であり、「賃貸のマンション・アパート」が27.0%、「都営・区営・公団などの公営住宅」が20.5%となっている。

図表2-10 住居の形態

		回答者数(人)	一戸建て(持ち家)	分譲マンション	都営・区営・公団などの公営住宅	賃貸のマンション・アパート	一戸建て(賃貸)	その他	無回答
全体		1,753	61.7	11.7	11.0	9.2	1.8	1.8	2.8
日常生活圏域別	区民課	412	74.8	8.0	3.4	7.3	2.4	1.9	2.2
	小松川	149	51.7	13.4	24.8	5.4	0.7	2.7	1.3
	葛西北	222	53.2	14.9	14.0	10.4	1.8	1.8	4.1
	葛西南	235	20.4	35.7	26.8	11.5	0.9	2.6	2.1
	小岩	290	75.2	4.5	1.7	11.0	3.4	0.7	3.4
	東部	270	71.9	5.9	11.5	5.9	1.5	1.5	1.9
	鹿骨	133	72.2	2.3	5.3	14.3	0.0	1.5	4.5
世帯構成別	ひとり暮らし	278	34.9	10.4	20.5	27.0	2.9	4.0	0.4
	夫婦のみ	645	60.9	16.3	14.1	6.2	1.1	1.4	0.0
	子どもと同居	516	72.7	11.0	6.6	6.4	2.3	0.8	0.2
	子どもと孫と同居	176	86.9	4.0	2.8	4.0	0.6	1.1	0.6
	その他	75	70.7	6.7	4.0	8.0	4.0	6.7	0.0

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(6) 居住階数、エレベーターの有無

マンションやアパート等にお住まいの方(問6で3~6に○)におうかがいします。

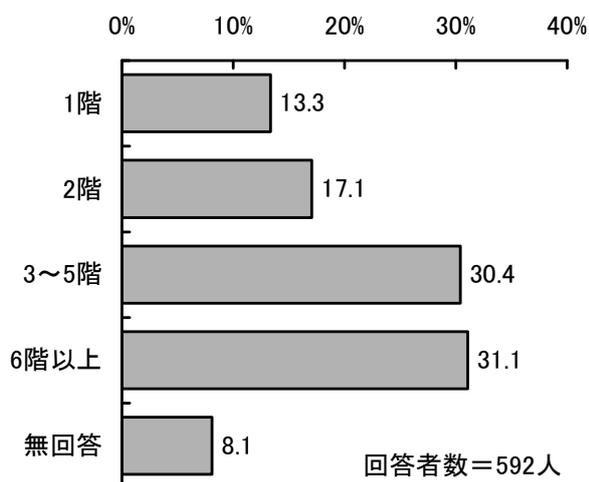
問6-1 現在、何階で生活していますか。また、2階以上で生活している場合、エレベーターはありますか。(それぞれ1つに○)

マンションやアパート等に居住している人の居住階数は、「6階以上」31.1%、「3~5階」30.4%と、3階以上が61.5%を占める。

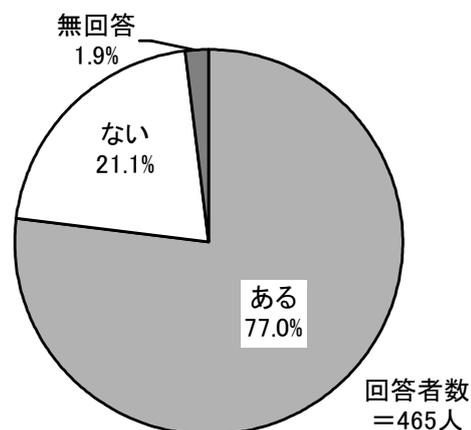
2階以上に居住している場合のエレベーターの有無をみると、「ある」が77.0%となっている。

居住階数を居住地別にみると、区民課、鹿骨は「2階」、葛西北、小岩、東部は「3~5階」、小松川、葛西南は「6階以上」居住者の割合が、それぞれもっとも高い。

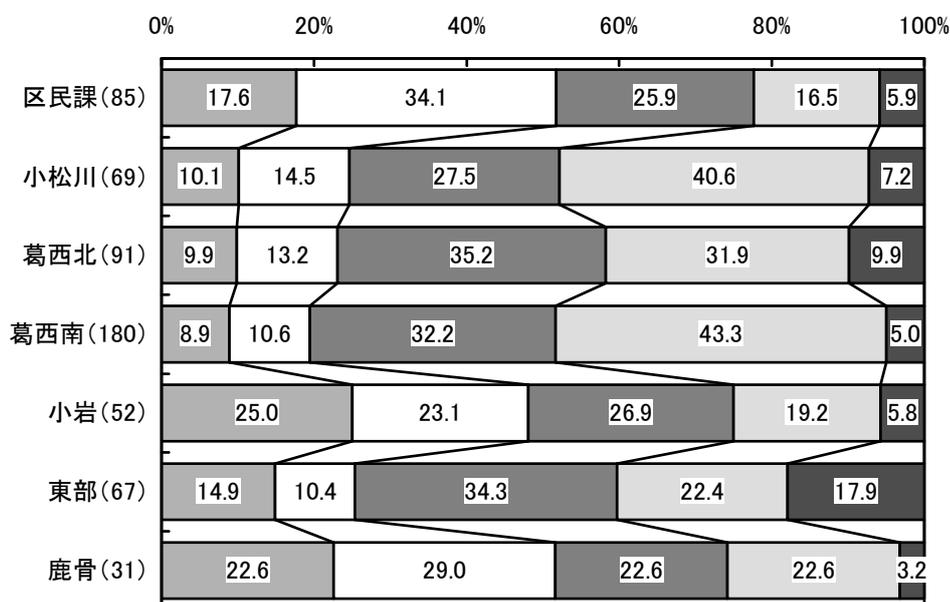
図表2-11 居住階数(単数回答)



図表2-12 エレベーターの有無(単数回答)



図表2-13 居住階数



()は回答者数 ■ 1階 □ 2階 ■ 3~5階 □ 6階以上 ■ 無回答

(7) 本人と配偶者の収入源、年収

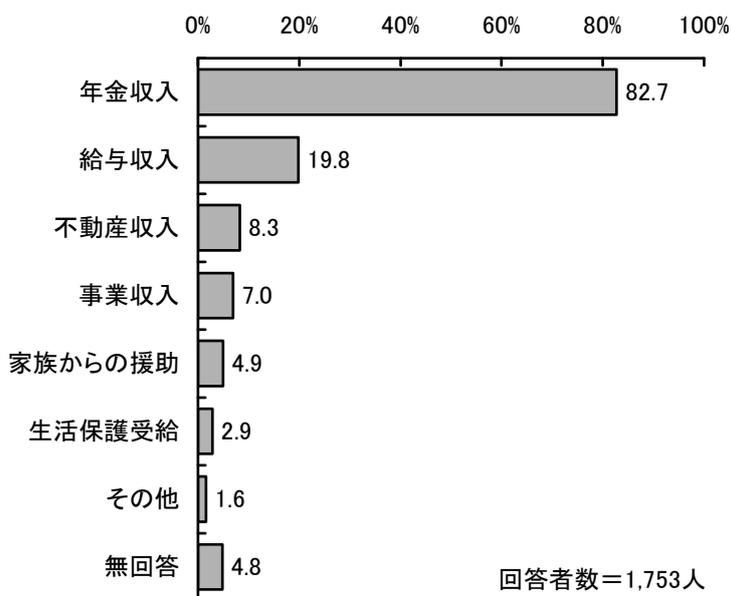
問7 あなた(あて名のご本人)と配偶者(ひとり暮らしの方は、あなたのみ)の収入は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

問8 あなた(あて名のご本人)と配偶者(ひとり暮らしの方は、あなたのみ)の税込みの年収(年金を含む)の合計は、次のうちどれですか。

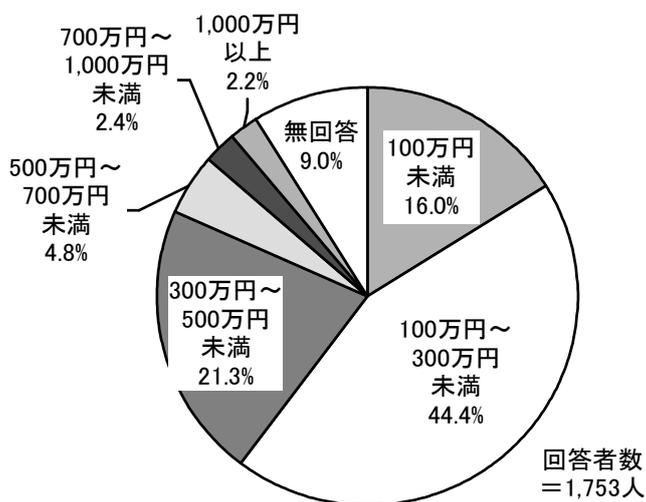
本人と配偶者の収入源は、82.7%が「年金収入」と回答している。「給与収入」がある人は19.8%と約2割である。

本人と配偶者の税込みの年収の合計は、「100万円～300万円未満」44.4%、「300万円～500万円未満」21.3%、「100万円未満」16.0%の順であり、300万円未満の人が約6割を占める。

図表2-14 本人と配偶者の収入源(複数回答)



図表2-15 本人と配偶者の年収(単数回答)



2. 健康について

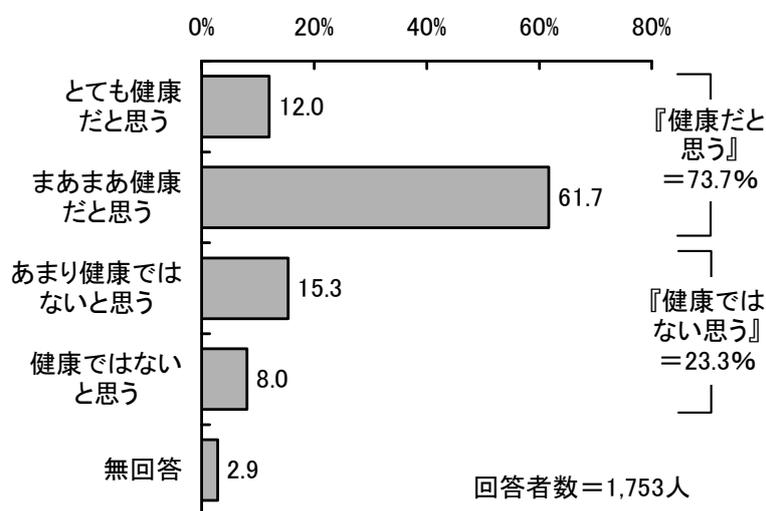
(1) 健康状態

問9 あなた(あて名のご本人)は、ご自分の健康状態について、どのように感じていますか。
(1つに○)【比較調査 241 参照】

健康状態は、「とても健康だと思う」12.0%、「まあまあ健康だと思う」61.7%をあわせた73.7%が『健康だと思う』と回答している。「あまり健康ではないと思う」15.3%、「健康ではないと思う」8.0%をあわせた『健康ではないと思う』は23.3%となっている。

年齢別にみると、65～79歳の年齢層では7割台が『健康だと思う』と回答している。

図表2-16 健康状態(単数回答)



図表2-17 健康状態

		回答者数(人)	『とても健康だ と思う』	『まあまあ健康だ と思う』	『あまり健康では ないと思う』	『健康では ないと思う』	無回答	『健康だ と思う』	『健康では ない と思う』
全体		1,753	12.0	61.7	15.3	8.0	2.9	73.7	23.3
年齢別	65～69歳	616	11.5	66.2	13.1	5.8	3.2	77.7	18.9
	70～74歳	537	12.5	59.4	16.9	8.4	2.8	71.9	25.3
	75～79歳	355	14.4	60.6	13.8	10.4	0.8	75.0	24.2
	80～84歳	157	9.6	56.1	21.7	7.6	5.1	65.7	29.3
	85歳以上	69	10.1	59.4	14.5	13.0	2.9	69.5	27.5

※『健康だと思う』 = 「とても健康だと思う」 + 「まあまあ健康だと思う」

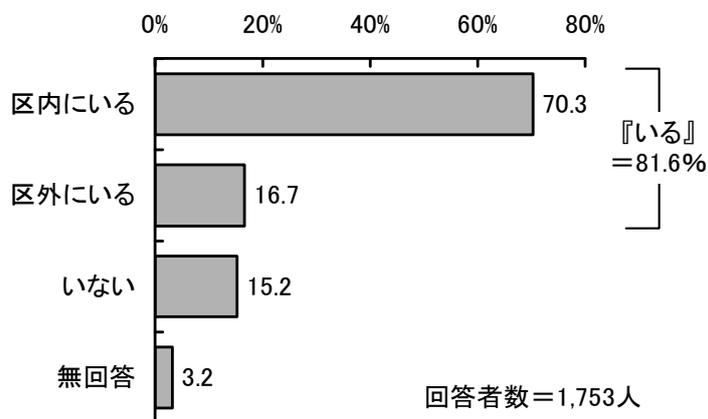
※『健康ではないと思う』 = 「あまり健康ではないと思う」 + 「健康ではないと思う」

(2) かかりつけ医の有無

問 10 あなた(あて名のご本人)には、かかりつけの医師がいますか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 242 頁参照】

かかりつけ医の有無については、「区内にいる」70.3%、「区外にいる」が16.7%であり、81.6%が『いる』と回答している。

図表2-18 かかりつけ医の有無(複数回答)



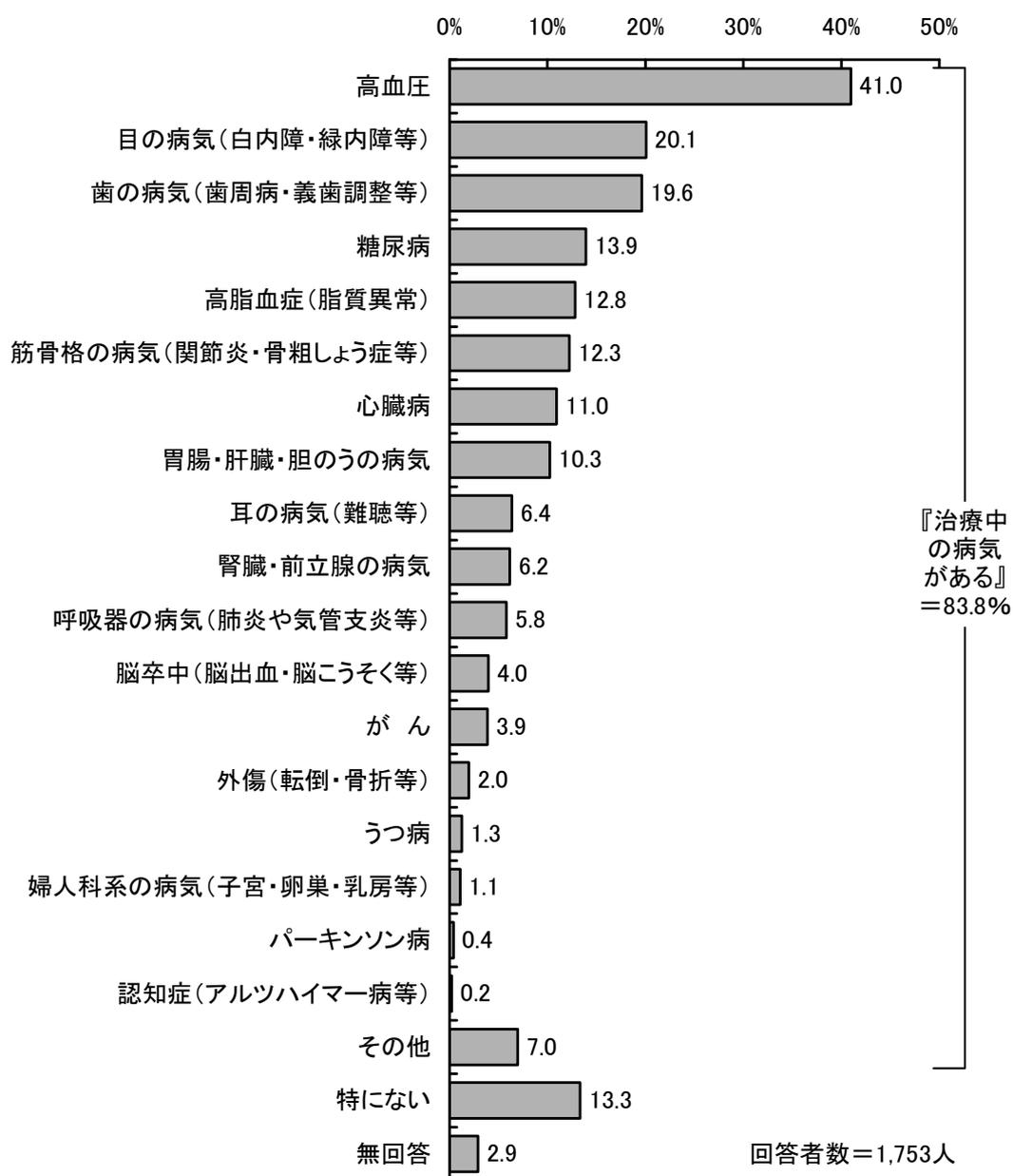
※『いる』 = 100% - 「いない」 - 「無回答」

(3) 現在治療中の病気

問 11 あなた(あて名のご本人)は、現在かかっている、または治療中の病気がありますか。
(あてはまるものすべてに○)

現在治療中の病気をみると、83.8%が『治療中の病気がある』と回答している。具体的には、「高血圧」41.0%に次いで、「目の病気(白内障・緑内障等)」20.1%、「歯の病気(歯周病・義歯調整等)」19.6%、「糖尿病」13.9%、「高脂血症(脂質異常)」12.8%の順となっている。

図表2-19 現在治療中の病気(複数回答)



※『治療中の病気がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

(4) 飲んでいる薬の種類

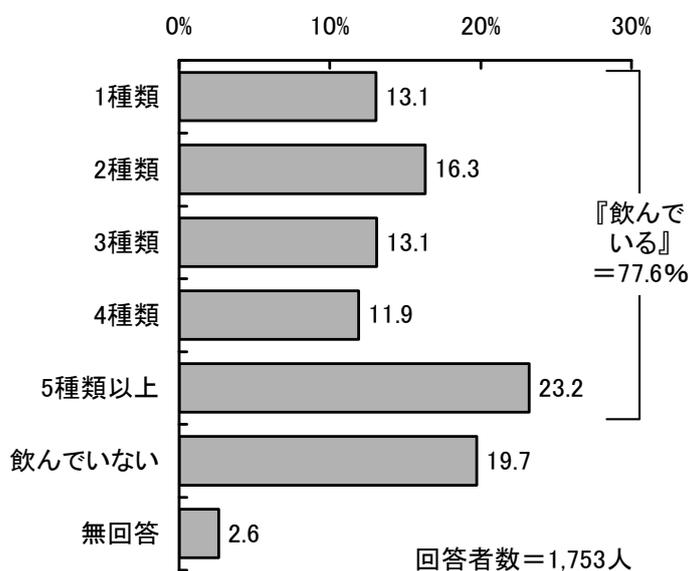
問 12 あなた(あて名のご本人)は、現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか。

(1つに○)

飲んでいる薬の種類をみると、「5種類以上」がもっとも高く 23.2%を占め、一方「飲んでいない」は 19.7%と約2割であった。

年齢別にみると、75歳以上では『飲んでいる』割合が8割を超え、85歳以上では 91.2%になっている。

図表2-20 飲んでいる薬の種類(単数回答)



図表2-21 飲んでいる薬の種類

		回答者数(人)	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類以上	飲んでいない	無回答	『飲んでいる』
全体		1,753	13.1	16.3	13.1	11.9	23.2	19.7	2.6	77.6
年齢別	65～69歳	616	15.3	16.7	11.4	10.4	17.2	27.1	1.9	71.0
	70～74歳	537	14.3	17.5	13.6	11.7	20.5	19.9	2.4	77.6
	75～79歳	355	11.0	14.4	15.2	12.1	31.5	12.7	3.1	84.2
	80～84歳	157	6.4	15.3	13.4	12.7	35.7	13.4	3.2	83.5
	85歳以上	69	10.1	17.4	10.1	26.1	27.5	5.8	2.9	91.2

※『飲んでいる』 = 「1種類」 + 「2種類」 + 「3種類」 + 「4種類」 + 「5種類以上」

3. 介護予防について

(1) 介護予防のための取り組み状況

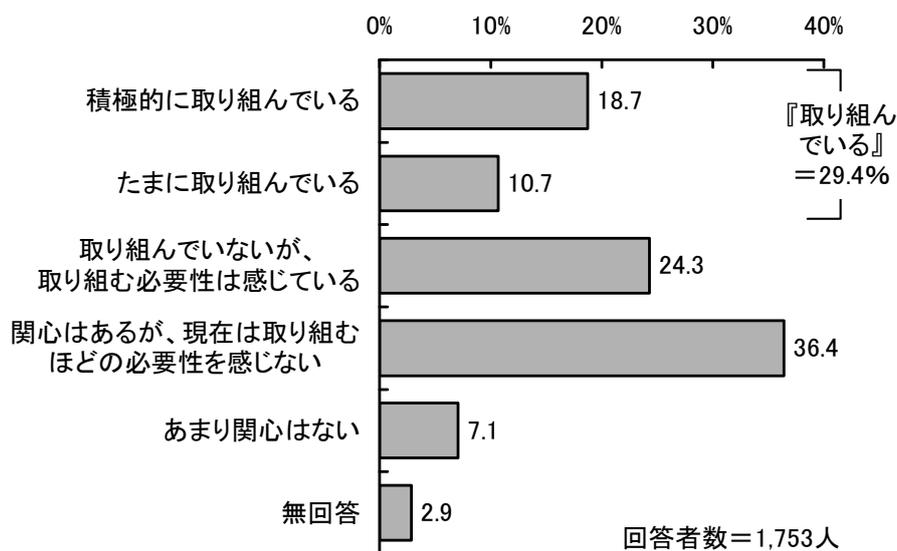
問 13 あなた(あて名のご本人)は、現在、介護予防のための取り組みをしていますか。

(1つに○)

介護予防のための取り組み状況をみると、「関心はあるが、現在は取り組むほどの必要性を感じない」36.4%がもっとも高く、次いで「取り組んでいないが、取り組む必要性は感じている」24.3%が続いている。

「積極的に取り組んでいる」18.7%、「たまに取り組んでいる」10.7%をあわせた『取り組んでいる』人の割合は約3割となっている。

図表2-22 介護予防のための取り組み状況(単数回答)



※『取り組んでいる』 = 「積極的に取り組んでいる」 + 「たまに取り組んでいる」

性別にみると、『取り組んでいる』は、男性 27.3%に比べて女性の方が 31.1%と高い。
 年齢別にみると、80～84 歳は他に比べて『取り組んでいる』割合が低い。80 歳以上の人は 79 歳以下の年齢層の人に比べて「取り組んでいないが、取り組む必要性は感じている」が高くなっている。

図表2-23 介護予防のための取り組み状況

		回答者数(人)	積極的に取り組んでいる	たまに取り組んでいる	取り組んでいないが、取り組む必要性は感じている	関心はあるが、現在は取り組むほどの必要性を感じない	あまり関心はない	無回答	『取り組んでいる』
全体		1,753	18.7	10.7	24.3	36.4	7.1	2.9	29.4
性別	男性	788	16.9	10.4	24.0	37.7	8.2	2.8	27.3
	女性	942	20.2	10.9	24.6	35.7	5.9	2.7	31.1
年齢別	65～69 歳	616	18.3	10.6	25.8	35.4	8.0	1.9	28.9
	70～74 歳	537	19.9	11.2	22.3	38.5	6.0	2.0	31.1
	75～79 歳	355	18.9	12.1	22.8	37.7	5.6	2.8	31.0
	80～84 歳	157	15.3	7.6	27.4	34.4	9.6	5.7	22.9
	85 歳以上	69	20.3	8.7	30.4	30.4	5.8	4.3	29.0

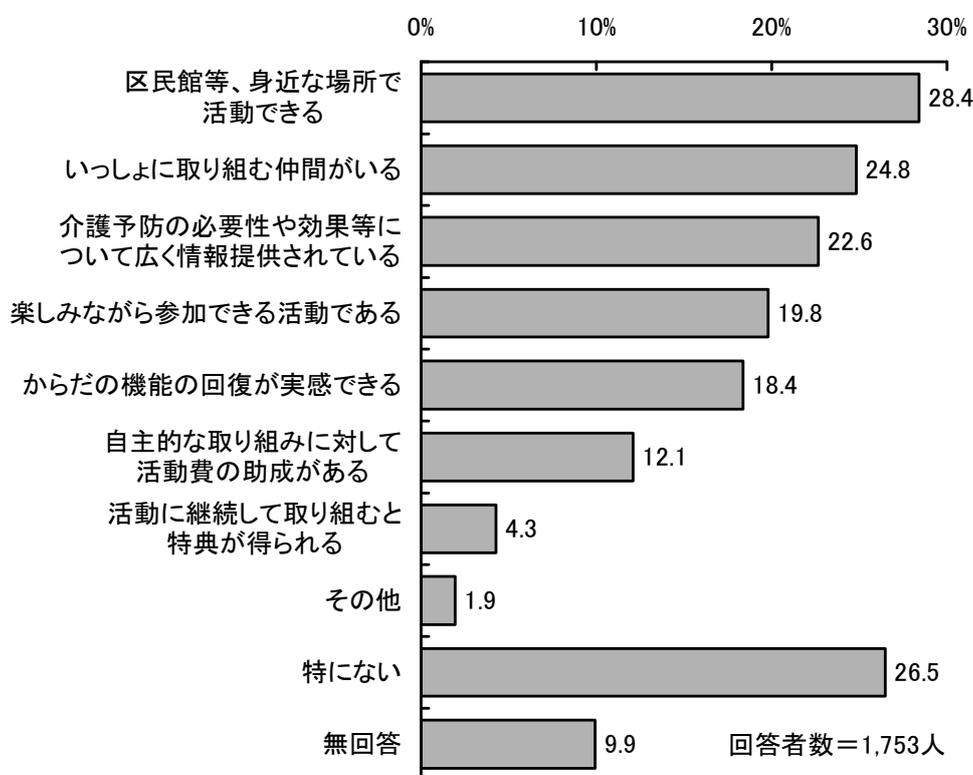
※『取り組んでいる』＝「積極的に取り組んでいる」＋「たまに取り組んでいる」

(2) 介護予防に取り組みやすくするための条件

問 14 介護予防に取り組みやすくするには、どのような環境・条件が必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○) 【比較調査 243 参照】

介護予防に取り組みやすくするための条件をみると、「区民館等、身近な場所で活動できる」28.4%、「いっしょに取り組む仲間がいる」24.8%、「介護予防の必要性や効果等について広く情報提供されている」22.6%と、身近に活動の場があること、仲間がいること、情報があることが上位3項目にあげられている。

図表2-24 介護予防に取り組みやすくするための条件(複数回答)

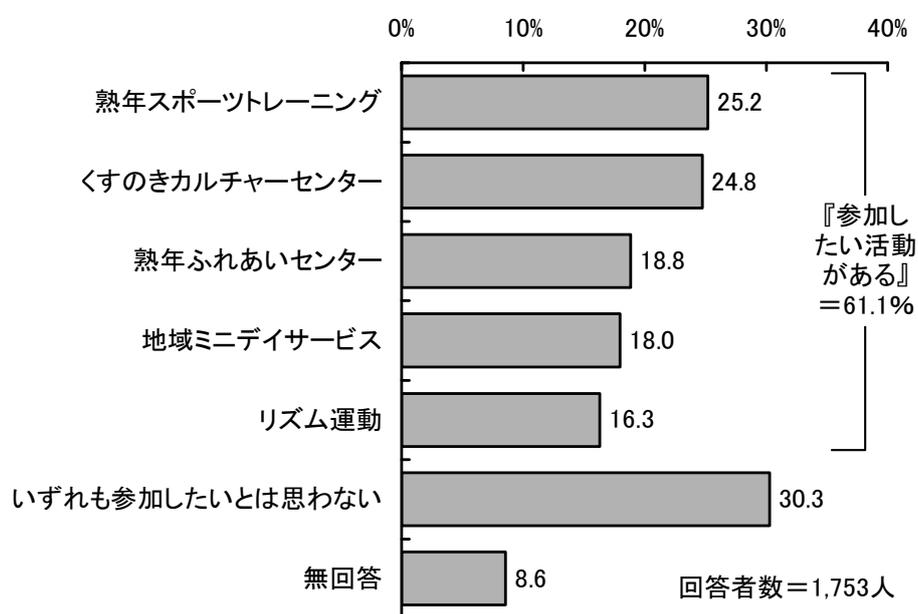


(3) 今後取り組みたい活動

問 15 あなた(あて名のご本人)が、今後、続けたい・新たに参加したいと思う活動が、以下の中にありますか。(あてはまるものすべてに○)

今後取り組みたい活動をみると、61.1%が『参加したい活動がある』と回答している。具体的には、「熟年スポーツトレーニング」25.2%、「くすのきカルチャーセンター」24.8%、「熟年ふれあいセンター」18.8%の順となっている。

図表2-25 今後取り組みたい活動(複数回答)



※『参加したい活動がある』 = 100% - 「いずれも参加したいとは思わない」 - 「無回答」

性別にみると、『参加したい活動がある』は、男性 57.6%に比べて女性の方が 64.8%と高い。男性は「熟年スポーツトレーニング」、女性は「くすのきカルチャーセンター」をあげた人の割合がそれぞれもっとも高い。

年齢別にみると、65～74 歳は 6 割台が『参加したい活動がある』と回答している。年齢層が高くなるとこの割合は低下し、75～79 歳では 5 割台、80 歳以上では 4 割台となっている。

図表2-26 今後取り組みたい活動

		回答者数(人)	熟年スポーツトレーニング	くすのきカルチャーセンター	熟年ふれあいセンター	地域ミニデイサービス	リズム運動	いずれも参加したいとは思わない	無回答	『参加したい活動がある』
全体		1,753	25.2	24.8	18.8	18.0	16.3	30.3	8.6	61.1
性別	男性	788	29.4	21.1	16.2	16.5	9.4	35.5	6.9	57.6
	女性	942	22.1	28.3	21.0	19.3	22.4	25.8	9.4	64.8
年齢別	65～69 歳	616	33.4	27.9	19.2	20.6	15.1	26.8	6.3	66.9
	70～74 歳	537	26.8	27.0	21.8	16.8	19.4	24.4	8.2	67.4
	75～79 歳	355	18.6	22.3	15.5	15.2	16.9	36.9	10.1	53.0
	80～84 歳	157	9.6	16.6	17.2	17.2	12.7	43.9	10.2	45.9
	85 歳以上	69	10.1	14.5	15.9	21.7	8.7	42.0	11.6	46.4

※『参加したい活動がある』=100%－「いずれも参加したいとは思わない」－「無回答」

4. 日常生活の状況について

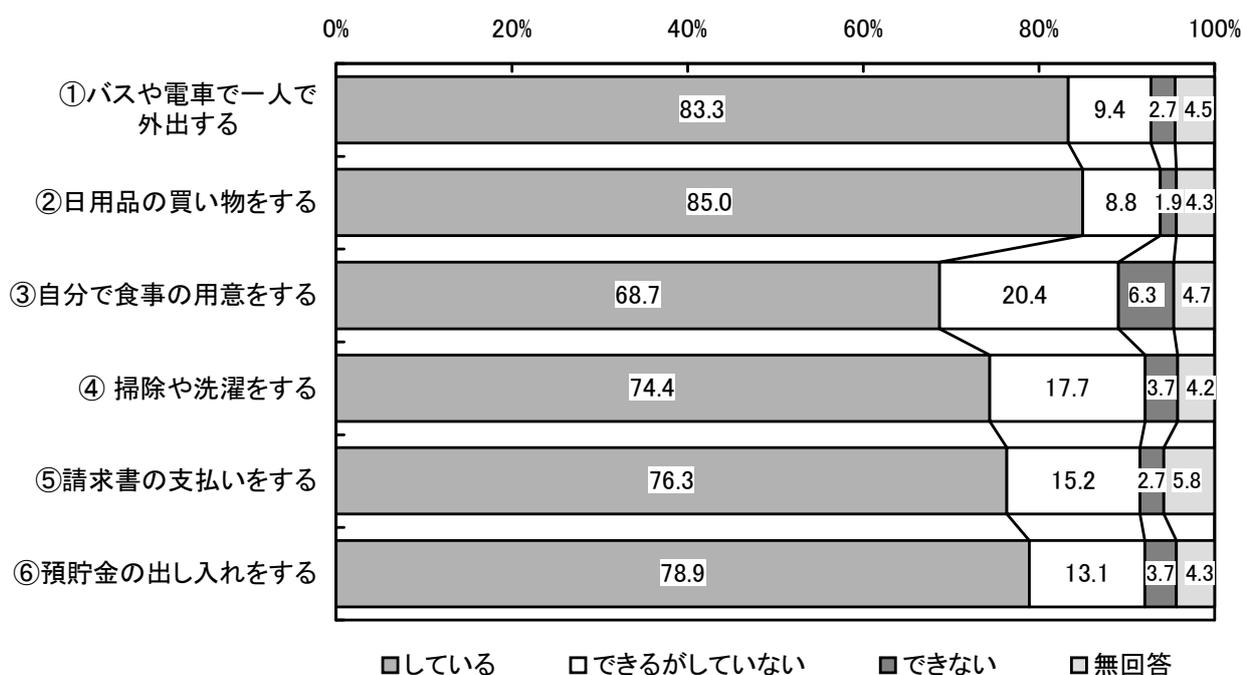
(1) 手段的日常生活動作 (IADL)・日常生活動作 (ADL) の自立度

問 16 あなた(あて名のご本人)の日常生活等についておうかがいします。①～⑦について、それぞれあてはまる番号1つに○をしてください。【比較調査 244 参照】

①手段的日常生活動作 (IADL) の自立度

手段的日常生活動作 (IADL) の自立度をみると、「している」割合は、“②日用品の買い物をする”“①バスや電車で一人で外出する”は8割台、“⑥預貯金の出し入れをする”“⑤請求書の支払いをする”“④掃除や洗濯をする”は7割台、もっとも自立度の低い“③自分で食事の用意をする”は68.7%となっている。

図表2-27 手段的日常生活動作 (IADL) の自立度 (各単数回答)



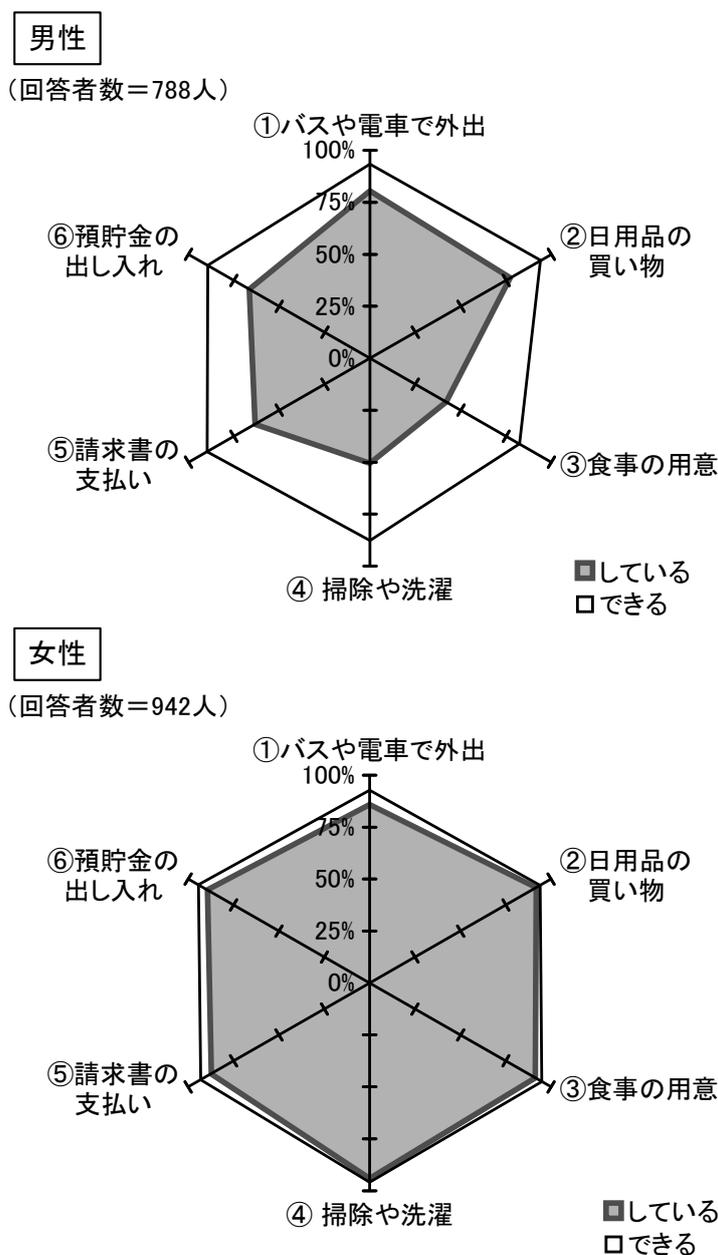
回答者数=1,753人

※手段的日常生活動作 (IADL) については、6 ページ参照

性別にみると、「している」割合（下図のグレーの網掛け部分）は、男性が女性を大きく下回っていることがわかる。女性はいずれも8～9割台であるのに対して、男性はもっとも割合が高い“①バスや電車で外出”が80.6%であり、“③食事の用意”は41.9%、“④掃除や洗濯”は50.5%にとどまっている。

「している」に「できるがしていない」をあわせた『できる』割合（下図の外側の枠）をみると、男性は①・②は9割台、③～⑥は8割台、女性はいずれの項目も9割台となっている。

図表2-28 性別手段的日常生活動作(IADL)の自立度



※各項目の「している」、「できる」(「している」+「できるがしていない」)割合を掲載している

年齢別にみると、年齢層が高くなるほど概ね「している」割合は低くなっており、加齢に伴い手段的日常生活動作（IADL）の自立度が低くなることわかる。

図表2-29 手段的日常生活動作(IADL)の自立度

		回答者数(人)	①バスや電車で外出			②日用品の買い物			③食事の用意		
			している	できないが していない	できない	している	できないが していない	できない	している	できないが していない	できない
全体		1,753	83.3	9.4	2.7	85.0	8.8	1.9	68.7	20.4	6.3
性別	男性	788	80.6	12.8	1.6	77.2	16.9	1.1	41.9	40.6	11.8
	女性	942	85.9	6.8	3.4	91.9	2.1	2.3	91.3	3.5	1.6
年齢別	65～69歳	616	83.0	11.4	1.3	87.2	8.3	1.0	69.6	20.0	6.8
	70～74歳	537	88.1	6.3	0.9	86.4	7.8	1.1	71.3	18.8	5.0
	75～79歳	355	84.5	8.7	2.8	85.6	9.6	1.1	68.7	22.5	4.8
	80～84歳	157	77.1	9.6	7.6	76.4	12.1	5.1	62.4	21.7	8.3
	85歳以上	69	62.3	20.3	15.9	73.9	11.6	11.6	53.6	24.6	14.5

		回答者数(人)	④掃除や洗濯			⑤請求書の支払い			⑥預貯金のおし入れ		
			している	できないが していない	できない	している	できないが していない	できない	している	できないが していない	できない
全体		1,753	74.4	17.7	3.7	76.3	15.2	2.7	78.9	13.1	3.7
性別	男性	788	50.5	37.2	6.9	63.3	26.5	3.6	66.6	23.0	5.3
	女性	942	94.2	1.8	1.1	87.4	5.9	1.9	89.6	4.8	2.1
年齢別	65～69歳	616	75.2	19.5	1.9	78.6	15.1	1.9	79.9	14.1	2.3
	70～74歳	537	75.8	14.9	5.4	75.8	16.2	1.9	79.0	12.5	3.7
	75～79歳	355	71.3	21.1	2.8	78.0	14.1	3.1	80.0	13.0	3.7
	80～84歳	157	73.9	14.0	5.1	71.3	14.6	4.5	79.0	11.5	3.8
	85歳以上	69	71.0	18.8	8.7	66.7	17.4	10.1	71.0	14.5	13.0

※「無回答」は掲載を省略している

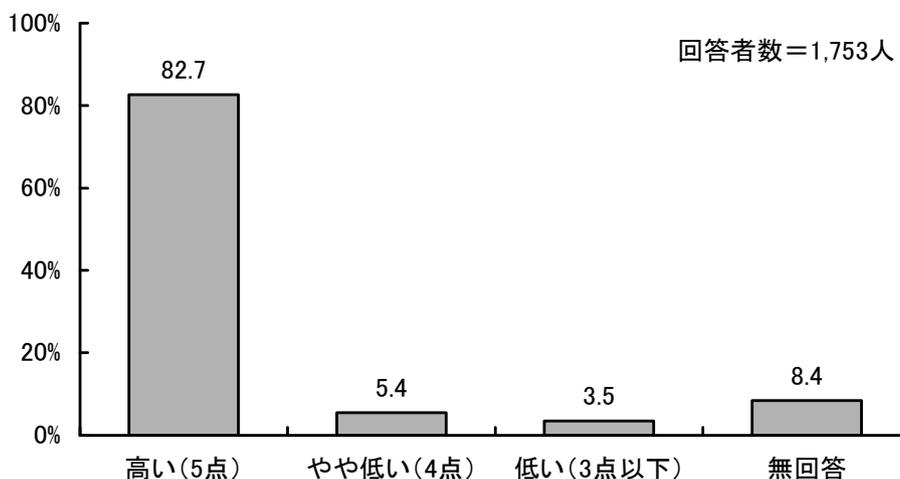
手段的日常生活動作（IADL）に関する①～③・⑤・⑥の項目を5点満点となるよう点数化し、集計したのが、下表である（点数化の基準については6ページ参照）。

結果は、自立度が「高い（5点）」が82.7%を占めており、「やや低い（4点）」が5.4%、「低い（3点以下）」が3.5%となっている。

性別にみると、「高い（5点）」は、男性75.8%、女性88.9%と、女性の方が高くなっている。

年齢別にみると、「高い（5点）」は、79歳までは8割台を占めるが、80～84歳では7割台、85歳以上では6割台と、80歳を境に大きく低下していることがわかる。

図表2-30 手段的日常生活動作(IADL)得点



図表2-31 手段的日常生活動作(IADL)得点

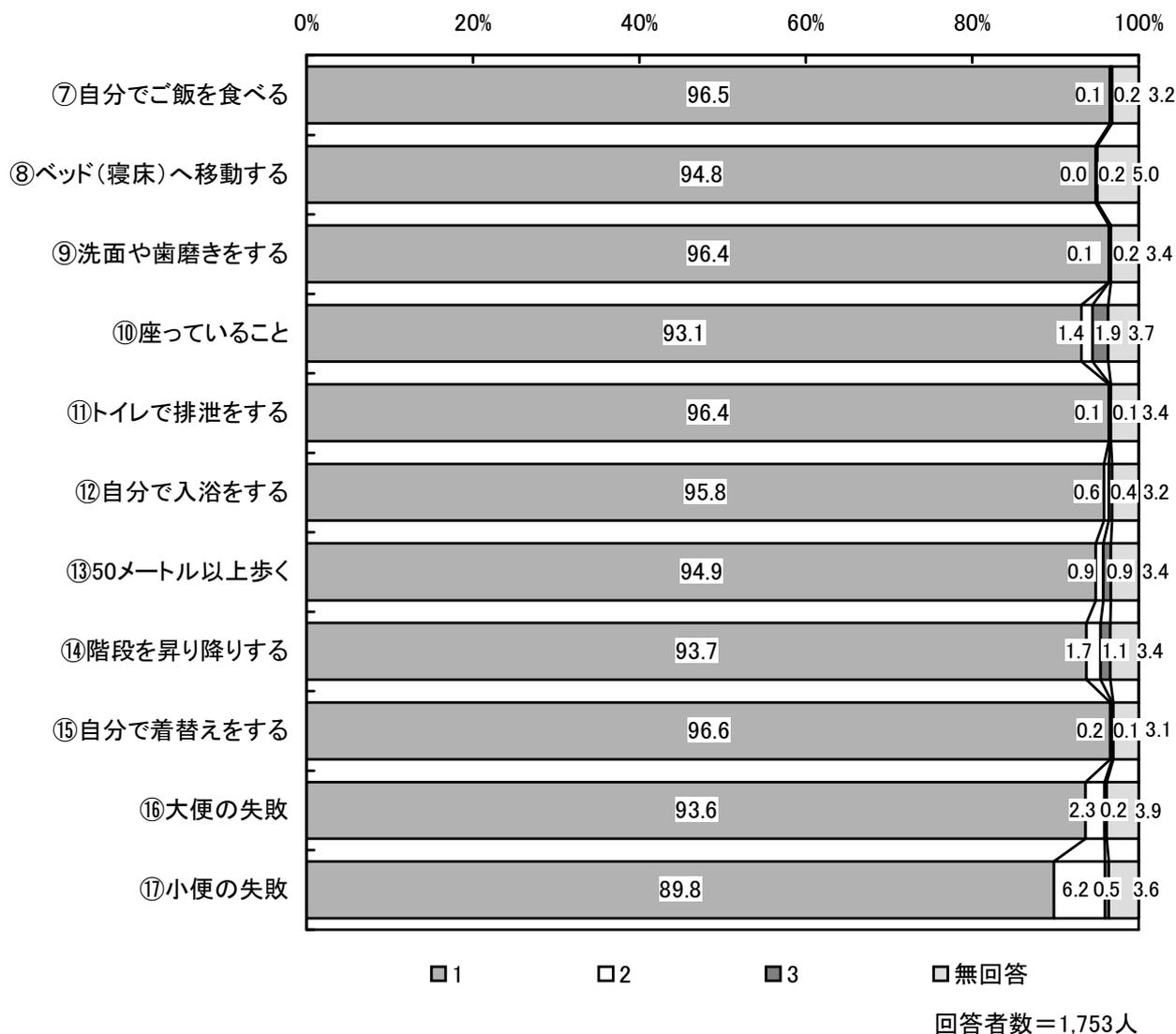
		回答者数(人)	高い(5点)	やや低い(4点)	低い(3点以下)	無回答	平均得点(点)
全体		1,753	82.7	5.4	3.5	8.4	4.82
性別	男性	788	75.8	9.9	4.2	10.2	4.76
	女性	942	88.9	1.7	2.8	6.7	4.88
年齢別	65～69歳	616	85.7	6.2	2.3	5.8	4.86
	70～74歳	537	84.9	4.8	2.4	7.8	4.88
	75～79歳	355	82.8	3.9	3.7	9.6	4.85
	80～84歳	157	72.6	7.6	5.7	14.0	4.67
	85歳以上	69	68.1	4.3	15.9	11.6	4.28

②日常生活動作(ADL)の自立度

日常生活動作(ADL)の自立度をみると、⑦～⑮の各項目については、いずれも「できる」が9割を超えている。また、“⑯大便の失敗”は93.6%、“⑰小便の失敗”は89.8%が「ない」と回答している。

年齢別にみると、“⑩座っていること”“⑫入浴”“⑬50メートル以上歩く”“⑭階段の昇り降り”“⑰小便の失敗”は、概ね年齢が高くなるほど「できる」(⑰については「ない」)割合が低くなっていることがわかる。

図表2-32 日常生活動作(ADL)の自立度(各単数回答)



※⑦～⑨、⑪～⑮の選択肢は、「1. できる」「2. 介助があればできる」「3. できない」

⑩の選択肢は、「1. できる」「2. 支えが必要」「3. できない」

⑯・⑰の選択肢は、「1. ない」「2. ときどきある」「3. よくある」

※日常生活動作(ADL)については、6ページ参照

図表2-33 日常生活動作(ADL)の自立度

		回答者数(人)	⑦食事			⑧ベッドへの移動			⑨洗面や歯磨き			⑩座っていること		
			できる	介助が あ れ ば で き る	できない	できる	介助が あ れ ば で き る	できない	できる	介助が あ れ ば で き る	できない	できる	支えが 必 要	できない
全体		1,753	96.5	0.1	0.2	94.8	0.0	0.2	96.4	0.1	0.2	93.1	1.4	1.9
性別	男性	788	96.2	0.3	0.3	94.2	0.0	0.3	96.1	0.0	0.3	94.3	0.9	0.9
	女性	942	97.1	0.0	0.0	95.8	0.0	0.1	97.0	0.1	0.0	92.6	1.7	2.5
年齢別	65～69歳	616	97.1	0.0	0.0	95.0	0.0	0.0	96.9	0.0	0.0	95.3	0.5	0.8
	70～74歳	537	96.3	0.0	0.2	94.2	0.0	0.6	96.1	0.0	0.2	92.4	1.9	1.9
	75～79歳	355	97.2	0.3	0.0	96.6	0.0	0.0	97.5	0.0	0.0	93.8	1.4	2.3
	80～84歳	157	95.5	0.6	0.0	94.3	0.0	0.0	95.5	0.0	0.0	89.2	1.3	3.8
	85歳以上	69	97.1	0.0	1.4	95.7	0.0	0.0	95.7	1.4	1.4	89.9	4.3	4.3

		回答者数(人)	⑪トイレでの排泄			⑫入浴			⑬50メートル以上歩く			⑭階段の昇り降り		
			できる	介助が あ れ ば で き る	できない	できる	介助が あ れ ば で き る	できない	できる	介助が あ れ ば で き る	できない	できる	介助が あ れ ば で き る	できない
全体		1,753	96.4	0.1	0.1	95.8	0.6	0.4	94.9	0.9	0.9	93.7	1.7	1.1
性別	男性	788	96.1	0.1	0.1	95.9	0.4	0.3	94.9	0.6	0.8	94.5	1.0	0.6
	女性	942	97.1	0.1	0.0	96.1	0.7	0.4	95.1	1.1	1.0	93.3	2.3	1.5
年齢別	65～69歳	616	96.4	0.3	0.0	96.6	0.0	0.3	95.9	0.3	0.5	95.5	1.1	0.3
	70～74歳	537	95.9	0.0	0.2	95.5	0.4	0.4	94.6	0.4	1.1	93.7	0.9	1.1
	75～79歳	355	97.7	0.0	0.0	96.6	1.1	0.0	96.1	1.7	0.0	94.9	1.4	1.1
	80～84歳	157	95.5	0.0	0.0	94.9	1.3	0.0	93.0	1.3	1.3	89.2	5.1	1.9
	85歳以上	69	98.6	0.0	1.4	92.8	2.9	4.3	89.9	4.3	5.8	87.0	7.2	5.8

		回答者数(人)	⑮着替え			⑯大便の失敗			⑰小便の失敗		
			できる	介助が あ れ ば で き る	できない	ない	ある と き ど き	よくある	ない	ある と き ど き	よくある
全体		1,753	96.6	0.2	0.1	93.6	2.3	0.2	89.8	6.2	0.5
性別	男性	788	96.4	0.3	0.0	93.0	3.0	0.3	88.6	7.5	0.1
	女性	942	97.0	0.2	0.1	94.5	1.5	0.2	91.3	4.8	0.7
年齢別	65～69歳	616	96.9	0.2	0.2	95.6	0.8	0.2	95.1	1.5	0.2
	70～74歳	537	96.1	0.0	0.2	93.9	1.3	0.4	87.7	7.8	0.4
	75～79歳	355	97.5	0.3	0.0	93.5	3.4	0.0	89.3	8.2	0.3
	80～84歳	157	96.2	0.0	0.0	88.5	5.7	0.0	82.2	9.6	1.9
	85歳以上	69	97.1	2.9	0.0	91.3	5.8	1.4	82.6	14.5	1.4

※「無回答」は掲載を省略している

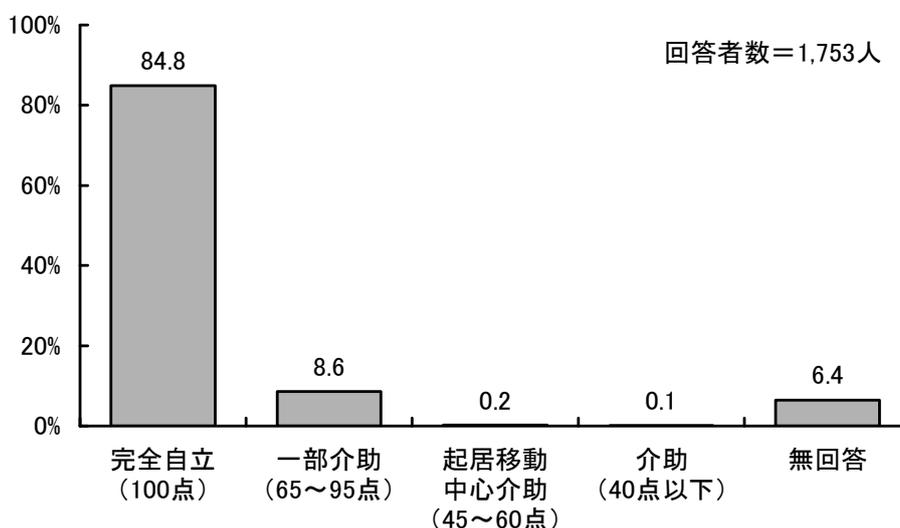
日常生活動作（ADL）の自立度に関する⑦～⑰の項目を100点満点となるよう点数化し、集計したのが、下表である（点数化の基準については6ページ参照）。

結果は、「完全自立（100点）」が84.8%を占めており、「一部介助（65～95点）」が8.6%、「起居移動中心介助（45～60点）」が0.2%、「介助（40点以下）」が0.1%となっている。

性別にみると、「完全自立（100点）」は、男性83.5%、女性86.4%と女性の方が若干高いが、平均得点は男性99.04点、女性98.94点と大きな差はない。

年齢別にみると、概ね年齢層が高くなるほど「完全自立（100点）」の割合が低くなり、平均得点も低下している。80～84歳では17.8%、85歳以上では24.6%が「一部介助（65～95点）」となっている。

図表2-34 日常生活動作(ADL)得点



図表2-35 日常生活動作(ADL)得点

		回答者数(人)	完全自立(100点)	一部介助(65~95点)	起居移動中心介助(45~60点)	介助(40点以下)	無回答	平均得点(点)
全体		1,753	84.8	8.6	0.2	0.1	6.4	98.99
性別	男性	788	83.5	9.3	0.1	0.1	7.0	99.04
	女性	942	86.4	8.0	0.2	0.0	5.4	98.94
年齢別	65~69歳	616	91.4	2.9	0.0	0.0	5.7	99.68
	70~74歳	537	84.2	8.6	0.2	0.0	7.1	99.10
	75~79歳	355	84.5	10.7	0.0	0.0	4.8	98.96
	80~84歳	157	73.2	17.8	0.6	0.0	8.3	97.78
	85歳以上	69	66.7	24.6	1.4	0.0	7.2	95.70

(2)生活機能の状況

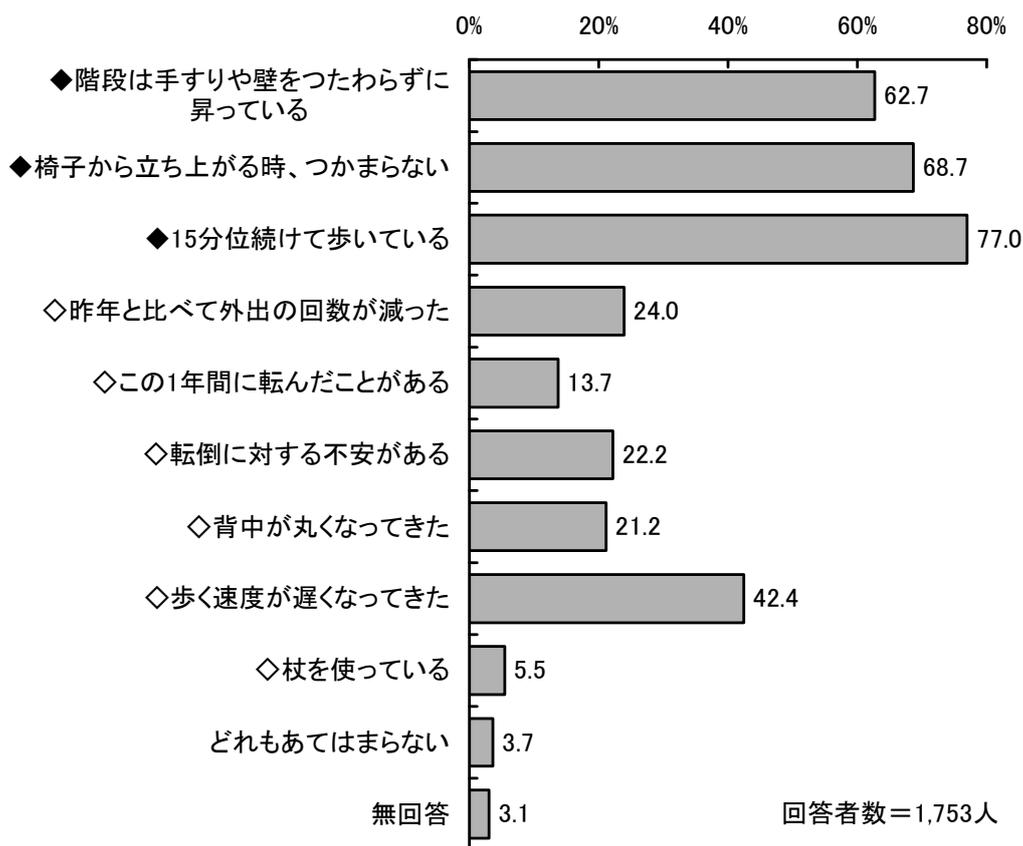
問 17 以下の①～④のすべてについて、あなた(あて名のご本人)に「あてはまる」ことに○をしてください。【比較調査 245～248 参照】

①運動や転倒の状況

運動や転倒の状況に関する質問の選択肢は、前半の3項目が肯定的、以降の6項目が否定的な内容となっている。

肯定的な内容である「15分位続けて歩いている」は7割台、「椅子から立ち上がる時、つかまらない」「階段は手すりや壁をつたわずに昇っている」は6割台となっている。否定的な内容は該当する人の割合が低くなっている中で、「歩く速度が遅くなってきた」は4割台となっている。

図表2-36 運動や転倒の状況(複数回答)



※◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

性別にみると、肯定的な内容である「階段は手すりや壁をつたわずに昇っている」「椅子から立ち上がる時、つかまらない」は男性、否定的な内容に関してはすべて女性の方が割合が高くなっている。

年齢別にみると、肯定的な内容である「階段は手すりや壁をつたわずに昇っている」「椅子から立ち上がる時、つかまらない」は年齢層が高くなるほど割合は低くなる。反対に、否定的な内容に関しては、すべて年齢層が高くなるほど割合が高くなっている。特に、「歩く速度が遅くなってきた」は85歳以上では66.7%と、3人に2人があげている。

図表2-37 運動や転倒の状況

		回答者数(人)	階段は手すりや壁をつたわずに昇っている	椅子から立ち上がる時、つかまらない	15分位続けて歩いている	昨年と比べて外出の回数が減った	この1年間に転んだことがある	転倒に対する不安がある	背中が丸くなってきた	歩く速度が遅くなってきた	杖を使っている	どれもあてはまらない	無回答
全体		1,753	62.7	68.7	77.0	24.0	13.7	22.2	21.2	42.4	5.5	3.7	3.1
性別	男性	788	69.0	74.7	76.5	23.5	10.0	14.6	18.3	42.1	3.8	3.8	3.2
	女性	942	57.9	64.1	77.9	24.4	16.6	28.7	23.5	43.0	6.8	3.3	2.9
年齢別	65～69歳	616	72.1	72.7	78.1	18.5	10.1	14.3	17.2	30.4	1.6	4.5	3.6
	70～74歳	537	64.2	71.5	78.4	19.7	14.0	20.7	20.3	41.5	3.0	3.4	3.5
	75～79歳	355	60.6	69.6	77.7	25.1	14.6	29.3	20.8	52.4	7.3	3.9	1.1
	80～84歳	157	38.9	52.2	68.8	43.9	19.1	33.8	32.5	61.1	14.0	1.3	4.5
	85歳以上	69	36.2	52.2	79.7	52.2	27.5	42.0	36.2	66.7	29.0	0.0	0.0

②栄養や口腔機能の状況

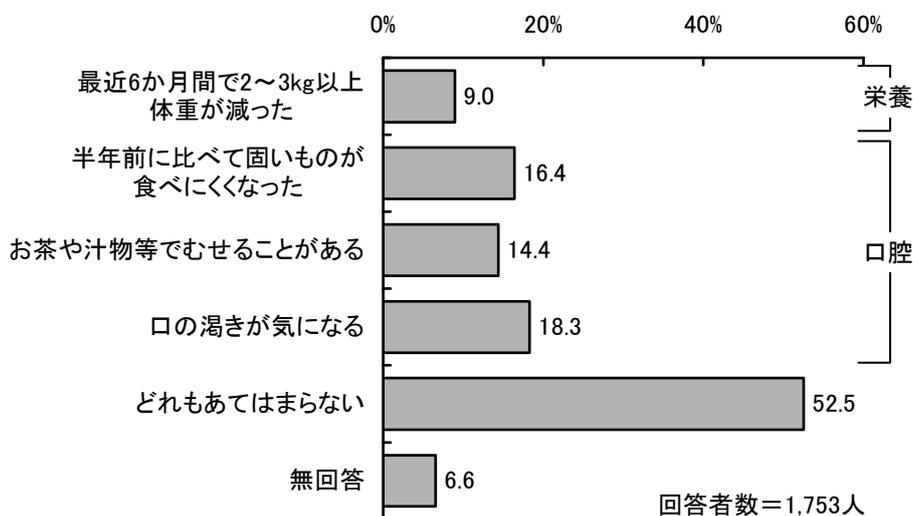
栄養や口腔機能の状況を見ると、栄養に関する「最近6か月間で2～3kg以上体重が減った」は9.0%となっている。

また、口腔機能に関する「口の渇きが気になる」「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」「お茶や汁物等でむせることがある」はいずれも1割台となっている。

栄養に関する「最近6か月間で2～3kg以上体重が減った」は、性別では男性、年齢別では年齢層が高くなるほど割合が高くなっている。

口腔機能に関する3項目については、性別では「口の渇きが気になる」は女性の方が高いが、他の2項目の差は小さい。年齢別では、3項目とも概ね年齢層が高くなるほど割合が高くなっている。

図表2-38 栄養や口腔機能の状況(複数回答)



図表2-39 栄養や口腔機能の状況

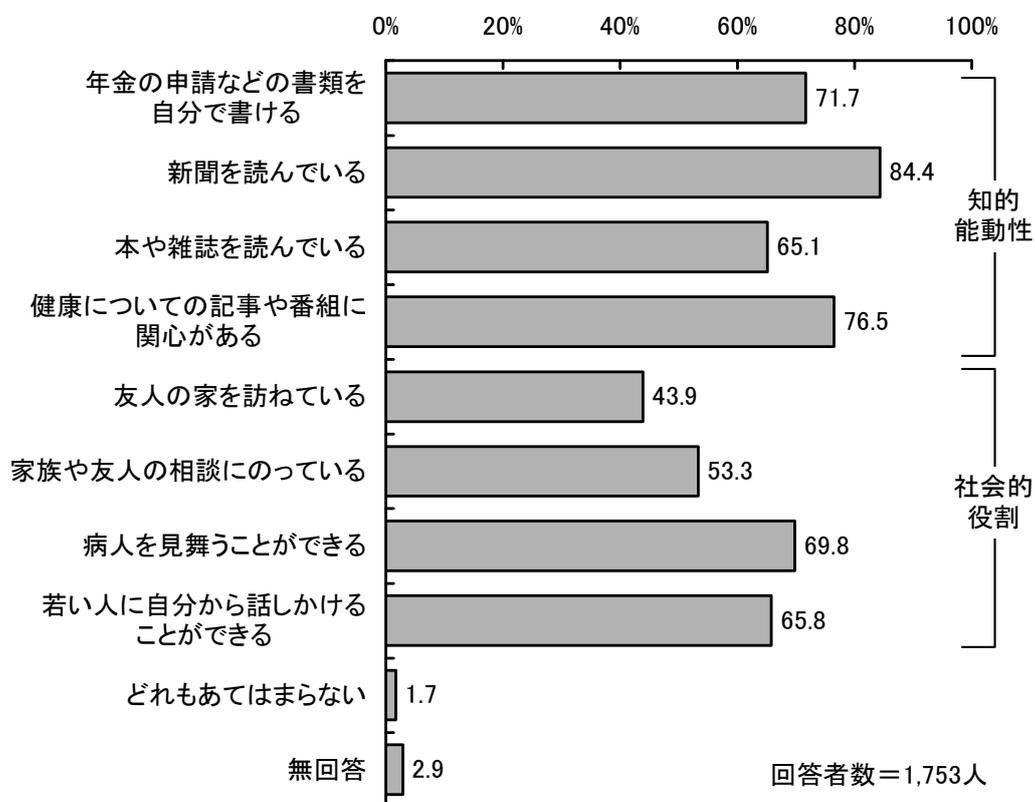
		回答者数(人)	3kg以上体重が減った 最近6か月間で2～	半年前に比べて固いものが 食べにくくなった	お茶や汁物等でむせる ことがある	口の渇きが気になる	どれもあてはまらない	無回答
全体		1,753	9.0	16.4	14.4	18.3	52.5	6.6
性別	男性	788	9.5	16.5	14.0	15.9	53.8	6.5
	女性	942	8.7	16.3	14.8	20.2	51.5	6.5
年齢別	65～69歳	616	7.1	13.3	13.1	15.4	56.2	6.7
	70～74歳	537	7.6	16.9	13.6	18.4	52.5	7.8
	75～79歳	355	9.9	16.6	14.6	20.3	53.0	3.7
	80～84歳	157	14.6	19.1	15.9	17.2	50.3	6.4
	85歳以上	69	18.8	30.4	26.1	30.4	29.0	7.2

③社会活動の状況

前半 4 項目の知的能動性（余暇や創作など生活を楽しむ能力）の状況をみると、「新聞を読んでいる」は 8 割台、「年金の申請などの書類を自分で書ける」「健康についての記事や番組に関心がある」は 7 割台となっている。

後半 4 項目の社会的役割（地域で社会的な役割を果たす能力）の状況は、知的能動性に比べて全体的に該当する人の割合が低い。「病人を見舞うことができる」「若い人に自分から話しかけることができる」が 6 割台となっている一方、「家族や友人の相談にのっている」は 5 割台、「友人の家を訪ねている」は 4 割台となっている。

図表2-40 社会活動の状況(複数回答)



知的能動性に関する4項目について性別にみると、「新聞を読んでいる」は男性、「年金の申請などの書類を自分で書ける」「本や雑誌を読んでいる」「健康についての記事や番組に関心がある」は女性の方が高い。年齢別にみると、「年金の申請などの書類を自分で書ける」「本や雑誌を読んでいる」は、概ね年齢層が高くなるほど割合が低くなっている。

社会的役割に関する4項目について性別にみると、いずれの項目においても女性の方が高い。年齢別にみると、いずれの項目においても、概ね年齢層が高くなるほど割合が低くなっている。

図表2-41 社会活動の状況

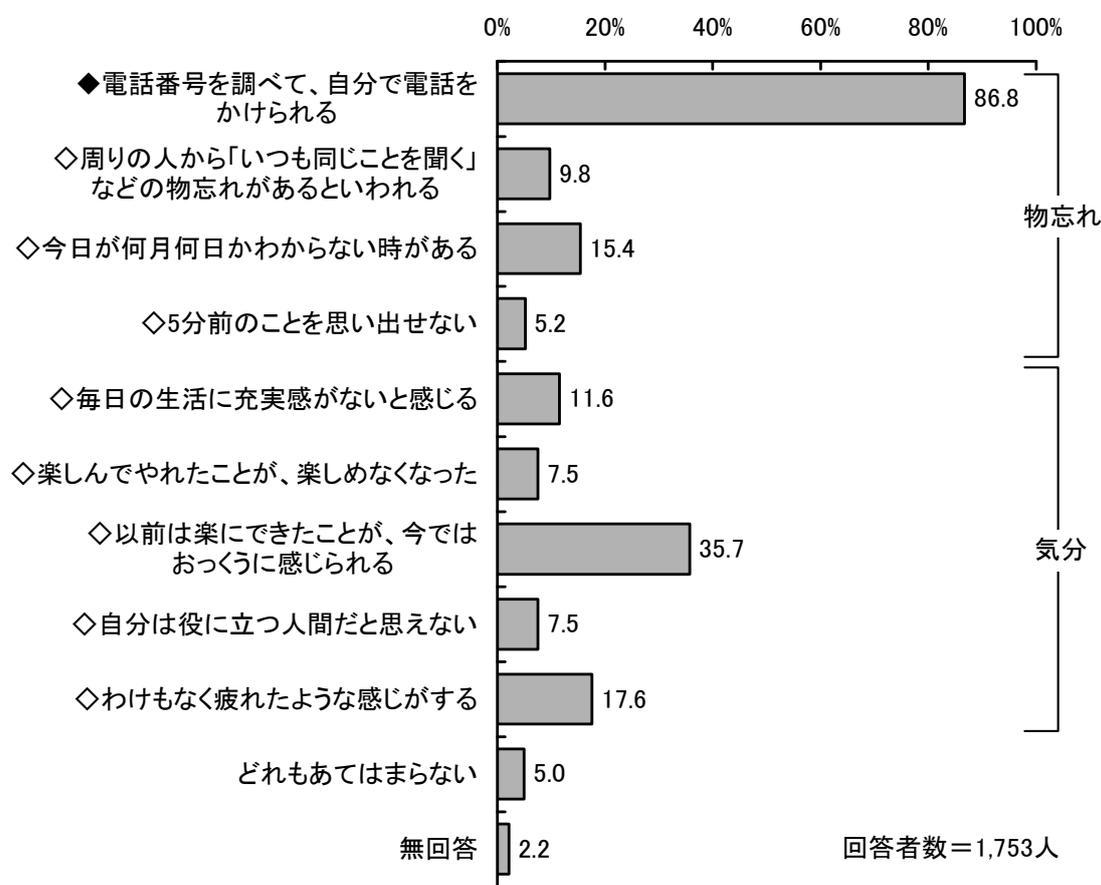
	回答者数(人)	知的能動性				社会的役割				どれもあてはまらない	無回答	
		年金の申請などの書類を自分で書ける	新聞を読んでいる	本や雑誌を読んでいる	健康についての記事や番組に関心がある	友人の家を訪ねている	家族や友人の相談にのっている	病人を見舞うことができる	若い人に自分から話しかけることができる			
全体	1,753	71.7	84.4	65.1	76.5	43.9	53.3	69.8	65.8	1.7	2.9	
性別	男性	788	70.6	89.1	64.1	69.3	31.5	45.7	68.8	61.5	1.6	3.0
	女性	942	73.0	80.9	66.2	83.0	54.6	60.2	71.1	70.0	1.7	2.8
年齢別	65～69歳	616	76.3	84.3	69.3	75.8	42.9	56.8	73.2	67.7	1.0	3.4
	70～74歳	537	70.2	84.2	65.0	75.8	48.0	54.2	72.4	66.1	1.9	3.9
	75～79歳	355	71.8	84.8	62.0	82.3	45.9	52.4	72.4	67.9	1.7	0.8
	80～84歳	157	66.9	86.6	67.5	72.6	35.0	47.1	55.4	62.4	2.5	3.2
	85歳以上	69	59.4	85.5	43.5	75.4	36.2	40.6	47.8	52.2	4.3	0.0

④物忘れや気分の状況

前半4項目の物忘れの状況に関する質問の選択肢のうち、肯定的な内容である「電話番号を調べて、自分で電話をかけられる」は8割台となっている。他の3つの否定的な内容の中では、「今日が何月何日かわからない時がある」15.4%がもっとも高くなっている。

後半5項目の気分の状況に関しては、「以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる」35.7%、「わけもなく疲れたような感じがする」17.6%の割合が高くなっている。

図表2-42 物忘れや気分の状況(複数回答)



※◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

物忘れに関する4項目について性別にみると、「電話番号を調べて、自分で電話をかけられる」は女性の方が高く、また、「今日が何月何日かわからない時がある」「5分前のことを思い出せない」は男性の方が高くなっている。年齢別にみると、「周りの人から“いつも同じことを聞く”などの物忘れがあるといわれる」「今日が何月何日かわからない時がある」は年齢層が高くなるほど、「電話番号を調べて、自分で電話をかけられる」は、概ね年齢層が低いほど、割合が高くなっている。

気分に関する5項目について性別にみると、「毎日の生活に充実感がないと感じる」「楽しんでやれたことが、楽しめなくなった」「自分は役に立つ人間だと思えない」は男性、「以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる」「わけもなく疲れたような感じがする」は女性の方が割合が高い。年齢別にみると、いずれの項目においても、概ね年齢層が高くなるほど割合が高くなっている。

図表2-43 物忘れや気分の状況

		回答者数(人)	物忘れ				気分					どれもあてはまらない	無回答
			電話番号を調べて、自分で電話をかけられる	周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるといわれる	今日が何月何日かわからない時がある	5分前のことを思い出せない	毎日の生活に充実感がないと感じる	楽しんでやれたことが、楽しめなくなった	以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる	自分は役に立つ人間だと思えない	わけもなく疲れたような感じがする		
全体		1,753	86.8	9.8	15.4	5.2	11.6	7.5	35.7	7.5	17.6	5.0	2.2
性別	男性	788	86.0	9.8	15.9	6.5	13.3	7.9	33.8	8.6	17.4	5.1	2.7
	女性	942	88.1	9.9	15.1	4.0	10.2	7.1	37.4	6.5	17.7	4.6	1.7
年齢別	65～69歳	616	87.5	7.6	11.0	3.4	13.0	7.5	31.0	5.4	16.2	6.0	1.8
	70～74歳	537	86.8	9.1	14.3	4.5	11.0	6.9	32.8	7.6	15.6	6.0	1.5
	75～79歳	355	89.0	12.1	16.9	8.2	6.8	4.8	37.2	8.2	16.1	1.1	3.7
	80～84歳	157	86.0	13.4	23.6	7.0	12.7	12.1	48.4	7.0	25.5	5.1	0.6
	85歳以上	69	78.3	14.5	33.3	5.8	27.5	14.5	62.3	21.7	33.3	5.8	4.3

⑤その日の活動の判断の可否、意思の伝達の可否

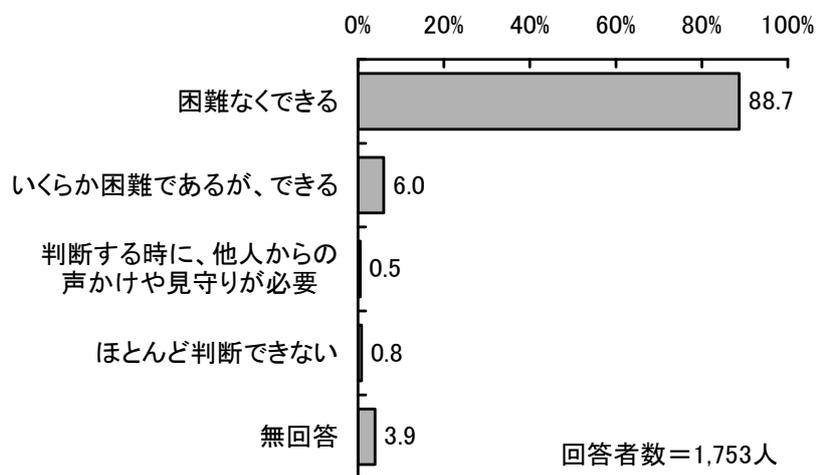
問 18 あなた(あて名のご本人)は、その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか。(1つに○)

問 19 あなた(あて名のご本人)は、人に自分の考えをうまく伝えられますか。(1つに○)

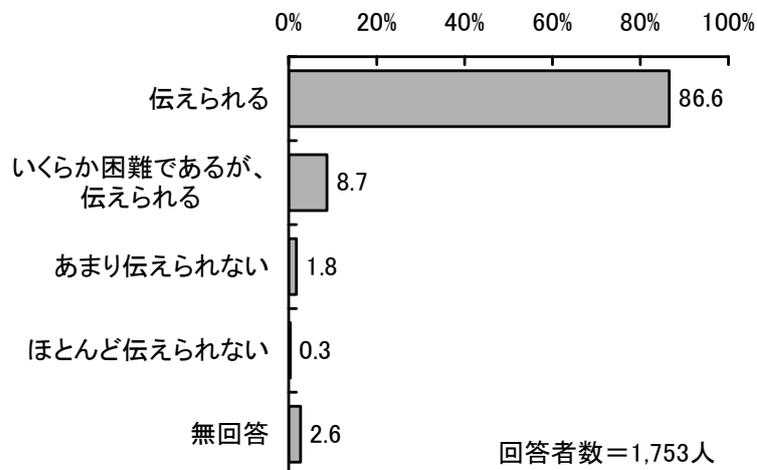
その日の活動の判断については、「困難なくできる」が 88.7%を占める。「いくらか困難であるが、できる」をあわせると、9割以上ができる状況にある。

意思の伝達については、「伝えられる」は 86.6%であり、「いくらか困難であるが、伝えられる」8.7%をあわせると、その日の活動の判断と同様に、9割以上ができる状況にある。

図表2-44 その日の活動の判断の可否(単数回答)



図表2-45 意思の伝達の可否(単数回答)



(3)外出頻度

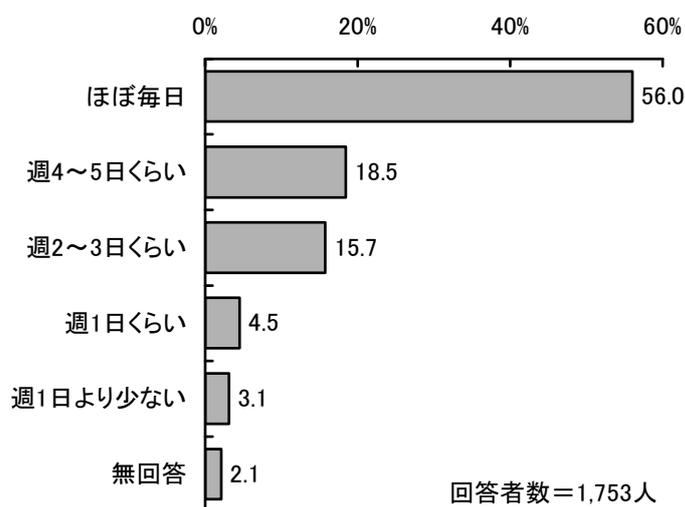
問 20 あなた(あて名のご本人)は、どのくらい外出をしていますか。(1つに○)

外出頻度は、「ほぼ毎日」56.0%、「週4～5日くらい」18.5%となっており、これらをあわせた74.5%、約4人に3人は週4日以上外出していると回答している。閉じこもりリスクのある「週1日より少ない」は3.1%であった。

性別にみると、閉じこもりリスクのある「週1日より少ない」割合は、男性2.7%に比べて女性の方が3.6%と高い。

年齢別にみると、「ほぼ毎日」の割合は年齢層が高くなるほど低くなっており、「週1日より少ない」割合は、65～79歳の年齢層の2%台に対し、80歳以上の人では8%台となっている。

図表2-46 外出頻度(単数回答)



図表2-47 外出頻度

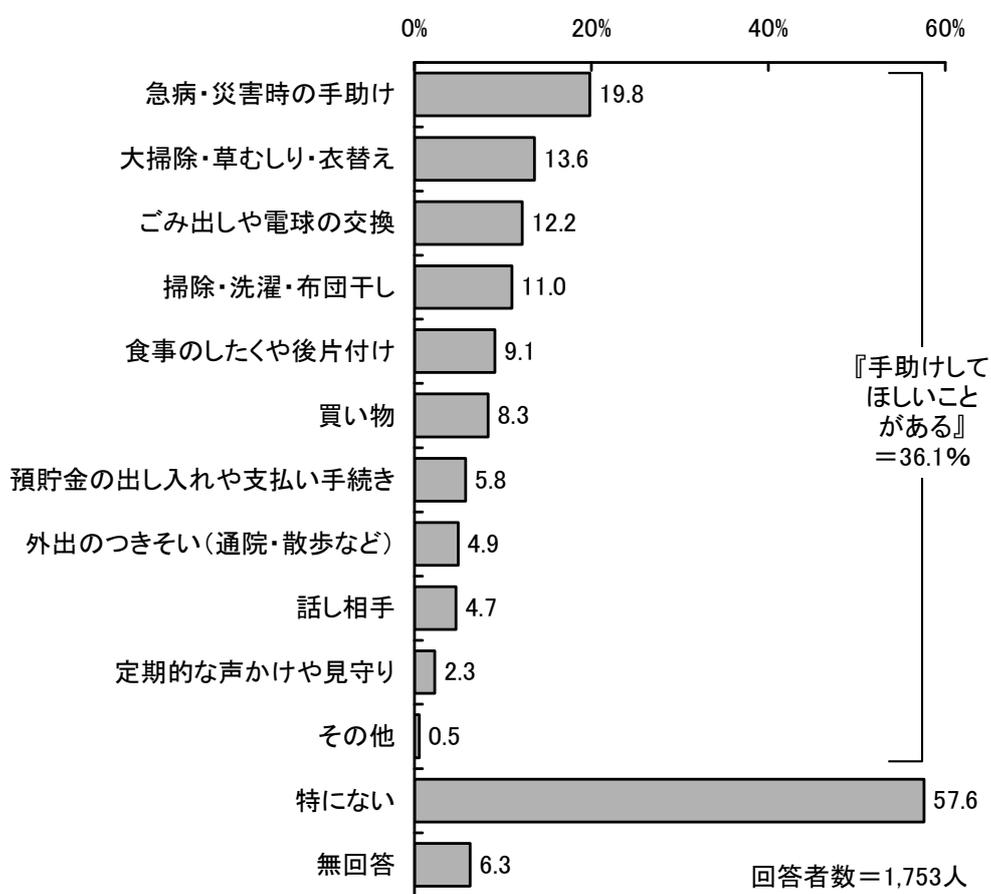
		回答者数(人)	ほぼ毎日	週4～5日くらい	週2～3日くらい	週1日くらい	週1日より少ない	無回答
全体		1,753	56.0	18.5	15.7	4.5	3.1	2.1
性別	男性	788	58.1	17.6	14.5	4.6	2.7	2.5
	女性	942	55.1	19.5	16.2	3.9	3.6	1.6
年齢別	65～69歳	616	62.0	16.4	13.5	3.7	2.4	1.9
	70～74歳	537	57.7	19.6	15.1	4.1	2.4	1.1
	75～79歳	355	52.4	20.6	17.5	3.4	2.3	3.9
	80～84歳	157	46.5	17.2	19.7	6.4	8.3	1.9
	85歳以上	69	31.9	23.2	24.6	10.1	8.7	1.4

(4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと

問 21 あなた(あて名のご本人)は、日常生活の中で、手助けしてほしいと思うことがありますか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 249 参照】

日常生活の中で手助けしてほしいことをみると、36.1%が『手助けしてほしいことがある』と回答している。具体的には、「急病・災害時の手助け」19.8%、「大掃除・草むしり・衣替え」13.6%、「ごみ出しや電球の交換」12.2%が上位3項目となっている。

図表2-48 日常生活の中で手助けしてほしいこと(複数回答)



※『手助けしてほしいことがある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

性別にみると、『手助けしてほしいことがある』割合は、女性は42.7%と男性の28.2%を大きく上回っている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるほど『手助けしてほしいことがある』割合が高くなり、85歳以上では6割台となっている。

世帯構成別にみると、ひとり暮らしの人の50.4%、約半数が『手助けしてほしいことがある』と回答している。具体的には、「急病・災害時の手助け」が34.2%と、他に比べて特に高い割合となっている。

図表2-49 日常生活の中で手助けしてほしいこと

		回答者数(人)	急病・災害時の手助け	大掃除・草むしり・衣替え	ごみ出しや電球の交換	掃除・洗濯・布団干し	食事のしたくや後片付け	買い物	預貯金の出し入れや支払い手続き	外出のつきそい(通院・散歩など)	話し相手	定期的な声かけや見守り	その他	特にない	『手助けしてほしいことがある』
全体		1,753	19.8	13.6	12.2	11.0	9.1	8.3	5.8	4.9	4.7	2.3	0.5	57.6	36.1
性別	男性	788	14.7	8.6	6.9	10.7	10.5	6.2	6.0	4.6	4.1	1.5	0.5	66.9	28.2
	女性	942	24.0	17.8	16.7	11.5	8.0	10.2	5.6	5.2	5.1	2.8	0.5	50.5	42.7
年齢別	65～69歳	616	14.4	8.9	8.6	7.5	7.8	4.4	4.1	2.6	3.6	1.1	0.0	65.9	28.9
	70～74歳	537	19.6	13.2	10.8	9.5	8.0	8.0	4.1	2.6	3.9	2.4	0.9	59.4	34.8
	75～79歳	355	23.9	14.4	14.1	13.0	8.2	7.3	7.0	5.1	4.2	1.7	0.6	53.5	39.2
	80～84歳	157	28.7	24.8	19.7	20.4	15.3	19.7	12.1	15.3	8.9	5.7	1.3	43.3	51.0
	85歳以上	69	29.0	27.5	29.0	24.6	20.3	26.1	13.0	17.4	14.5	5.8	0.0	27.5	63.8
世帯構成別	ひとり暮らし	278	34.2	14.7	16.2	11.5	7.2	8.3	4.7	5.0	8.3	6.1	0.7	44.2	50.4
	夫婦のみ	645	19.5	11.5	9.9	9.5	8.7	6.8	4.3	2.9	3.3	1.1	0.6	60.9	33.7
	子どもと同居	516	15.7	15.9	13.4	12.6	10.7	9.9	7.2	6.8	4.3	2.3	0.4	60.9	33.5
	子どもと孫と同居	176	15.3	13.6	11.4	10.8	10.2	11.9	7.4	7.4	8.0	1.7	0.6	58.5	33.5
	その他	75	13.3	6.7	9.3	9.3	9.3	5.3	8.0	4.0	2.7	1.3	0.0	62.7	25.3

※「無回答」は掲載を省略している

※『手助けしてほしいことがある』=100%－「特にない」－「無回答」

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

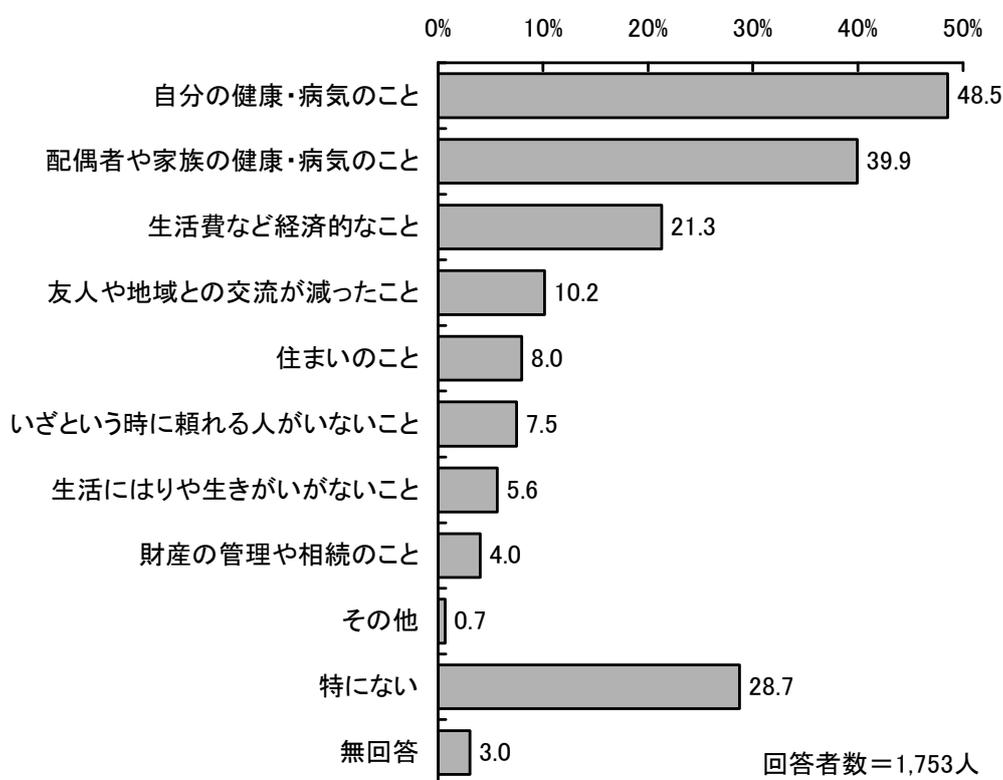
(5)現在の生活で不安に感じること

問 22 あなた(あて名のご本人)は、現在の生活で不安に感じることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

現在の生活で不安に感じることとしては、「自分の健康・病気のこと」48.5%、「配偶者や家族の健康・病気のこと」39.9%に次いで、「生活費など経済的なこと」21.3%が、上位3項目となっている。また、3割近くが「特にない」と回答している。

図表2-50 現在の生活で不安に感じること(複数回答)



5. 就労、社会参加、生きがいづくりについて

(1) 現在の就労状況

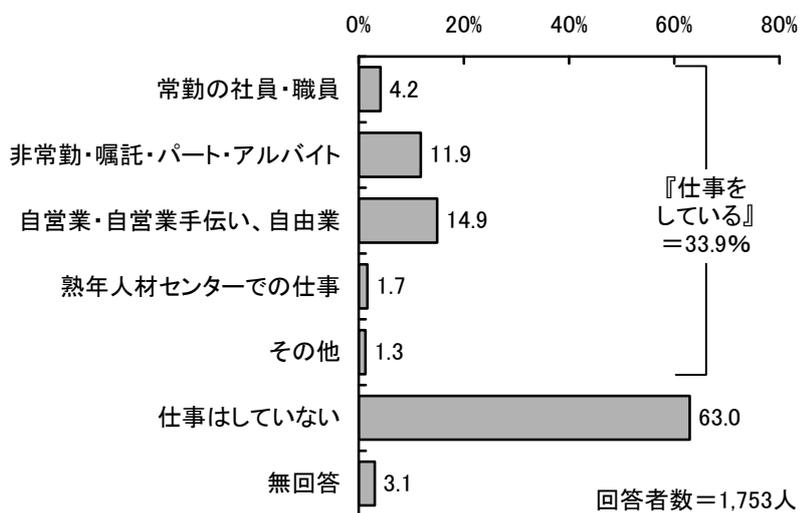
問 29 あなた(あて名のご本人)は、現在、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

現在の就労状況をみると、『仕事をしている』人の割合は33.9%となっている。具体的には、「自営業・自営業手伝い、自由業」がもっとも高い14.9%、次いで「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」11.9%、「常勤の社員・職員」4.2%となっている。

性別にみると、『仕事をしている』割合は、男性が44.7%、女性は25.4%となっている。

年齢別にみると、『仕事をしている』割合は年齢層が低いほど高く、65～69歳では49.5%と約5割、70～74歳では3割台を占めている。

図表2-51 現在の就労状況(単数回答)



図表2-52 現在の就労状況

		回答者数(人)	常勤の社員・職員	非常勤・嘱託・パート・アルバイト	自営業・自営業手伝い、自由業	熟年人材センターでの仕事	その他	仕事はしていない	無回答	『仕事をしている』
全体		1,753	4.2	11.9	14.9	1.7	1.3	63.0	3.1	33.9
性別	男性	788	7.5	13.8	19.2	3.3	0.9	52.5	2.8	44.7
	女性	942	1.4	10.5	11.5	0.3	1.7	71.4	3.2	25.4
年齢別	65～69歳	616	7.6	18.7	20.6	1.0	1.6	48.1	2.4	49.5
	70～74歳	537	3.5	13.6	14.7	1.7	1.3	63.3	1.9	34.8
	75～79歳	355	1.1	4.5	12.4	3.9	0.8	73.5	3.7	22.8
	80～84歳	157	0.6	1.3	7.0	0.0	0.6	82.8	7.6	9.6
	85歳以上	69	2.9	1.4	1.4	0.0	2.9	91.3	0.0	8.7

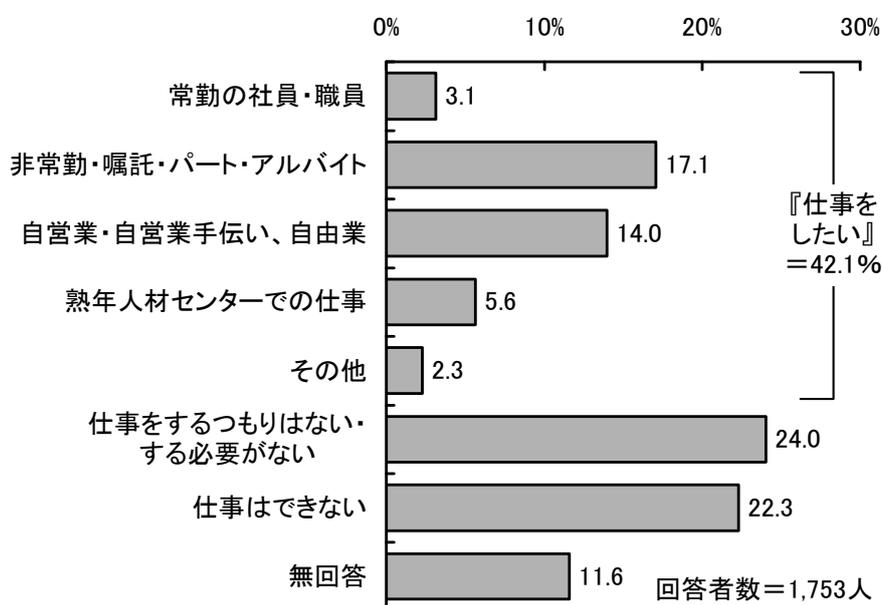
※『仕事をしている』=100%－「仕事はしていない」－「無回答」

(2) 今後の就労意向

問 30 あなた(あて名のご本人)は、今後、収入のある仕事をしたい・続けたいと考えていますか。(1つに○)【比較調査 250 参照】

今後の就労意向をみると、42.1%が『仕事をしたい』と回答しており、現在の就労状況と比べて 8.2 ポイント高くなっている。希望する就労形態は、「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」17.1%、「自営業・自営業手伝い、自由業」14.0%、「熟年人材センターでの仕事」5.6%などとなっている。

図表2-53 今後の就労意向(単数回答)



※『仕事をしたい』 = 100% - 「仕事をするつもりはない・する必要がない」
- 「仕事はできない」 - 「無回答」

性別にみると、男性の54.3%、女性の32.4%が『仕事をしたい』と回答している。

年齢別にみると、年齢層が低いほど就労意向が高く、65～69歳では約6割、70～74歳では4割台が『仕事をしたい』との意向を示している。

現在の就労状況別にみると、常勤の社員・職員の人6割台、非常勤・嘱託・パート・アルバイト、自営業・自営業手伝い、自由業及び熟年人材センターでの仕事をしている人の8割台が引き続き同じ就労形態での仕事を希望している。また、現在、仕事をしていない人の17.7%が『仕事をしたい』と回答している。

図表2-54 今後の就労意向

		回答者数(人)	常勤の社員・職員	非常勤・嘱託・パート・アルバイト	自営業・自営業手伝い、自由業	熟年人材センターでの仕事	その他	仕事をするつもりはない・する必要がない	仕事はできない	無回答	『仕事をしたい』
全体		1,753	3.1	17.1	14.0	5.6	2.3	24.0	22.3	11.6	42.1
性別	男性	788	5.7	19.2	17.8	10.0	1.6	20.3	15.6	9.8	54.3
	女性	942	1.0	15.5	10.9	2.1	2.9	27.3	27.5	12.8	32.4
年齢別	65～69歳	616	5.8	27.3	19.2	5.2	3.1	19.8	12.7	7.0	60.5
	70～74歳	537	2.8	18.4	13.8	6.3	1.9	23.6	21.6	11.5	43.3
	75～79歳	355	0.8	6.8	11.3	8.2	2.3	30.1	25.6	14.9	29.4
	80～84歳	157	0.0	2.5	7.6	1.9	0.6	30.6	36.3	20.4	12.7
	85歳以上	69	1.4	1.4	1.4	0.0	1.4	20.3	60.9	13.0	5.8
現在の就労状況別	常勤の社員・職員	73	65.8	13.7	2.7	0.0	5.5	2.7	0.0	9.6	87.7
	非常勤・嘱託・パート・アルバイト	208	1.4	87.0	1.4	3.8	0.0	3.4	0.5	2.4	93.7
	自営業・自営業手伝い、自由業	262	0.4	1.1	84.0	0.4	0.8	5.0	1.1	7.3	86.6
	熟年人材センターでの仕事	29	0.0	6.9	0.0	89.7	0.0	3.4	0.0	0.0	96.6
	その他	23	0.0	17.4	17.4	0.0	43.5	8.7	4.3	8.7	78.3
	仕事はしていない	1,104	0.2	8.4	1.2	5.7	2.2	35.3	34.0	13.0	17.7

※『仕事をしたい』=100%－「仕事をするつもりはない・する必要がない」－「仕事はできない」－「無回答」

(3) 今後就労を希望する理由、就労を継続したい年齢

今後仕事をしたいと考えている方(問 30 で 1～5 に○)におうかがいします。

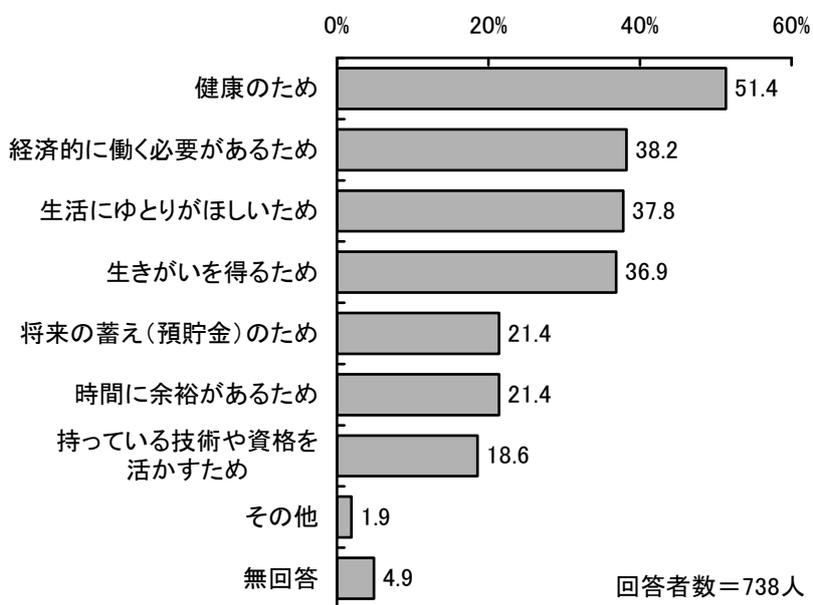
問 30-1 それはどのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

問 30-2 何歳くらいまで働きたいと思いますか。(1つに○)【比較調査 250 参照】

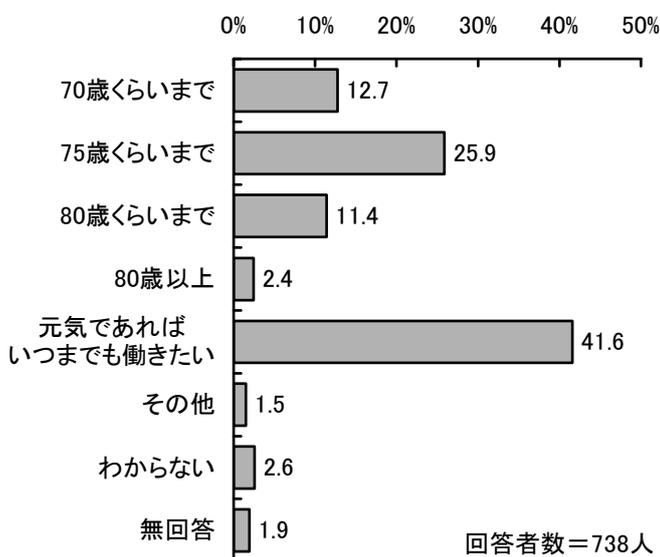
『仕事をしたい』と回答した人の、今後就労を希望する理由としては、「健康のため」51.4%がもっとも高い。次いで、「経済的に働く必要があるため」「生活にゆとりがほしいため」「生きがいを得るため」が3割台で続いている。

就労を継続したい年齢は、「元気であればいつまでも働きたい」が41.6%を占めるのに次いで、「75歳くらいまで」25.9%、「70歳くらいまで」12.7%となっている。

図表2-55 今後就労を希望する理由(複数回答)



図表2-56 就労を継続したい年齢(単数回答)

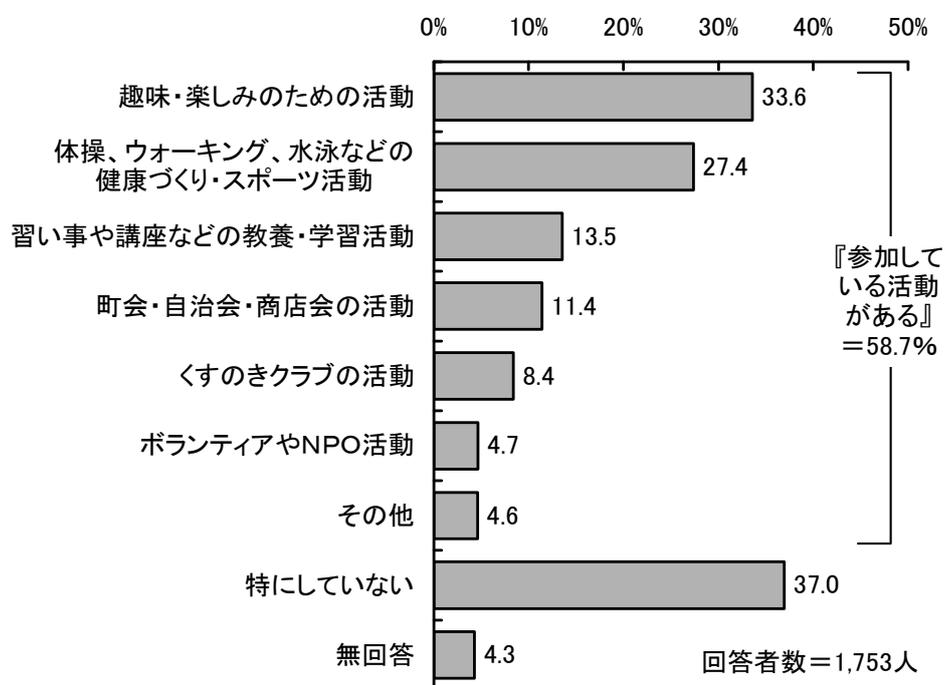


(4) 現在参加している余暇活動・社会参加活動

問 25 あなた(あて名のご本人)は、現在、どのような余暇活動や社会参加活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

余暇活動・社会参加活動について、現在『参加している活動がある』人の割合は58.7%となっている。具体的には、「趣味・楽しみのための活動」33.6%に次いで、「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」27.4%、「習い事や講座などの教養・学習活動」13.5%と続いている。

図表2-57 現在参加している余暇活動・社会参加活動(複数回答)



※『参加している活動がある』 = 100% - 「特にしていない」 - 「無回答」

性別にみると、「習い事や講座などの教養・学習活動」「くすのきクラブの活動」は、男性に比べて女性の参加率が高い活動となっている。

年齢別にみると、『参加している活動がある』割合は年齢層が低いほど高く、65～74歳では6割台、85歳以上では約4割となっている。

図表2-58 現在参加している余暇活動・社会参加活動

		回答者数(人)	趣味・楽しみのための活動	体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動	習い事や講座などの教養・学習活動	町会・自治会・商店会の活動	くすのきクラブの活動	ボランティアやNPO活動	その他	特にしていない	無回答	『参加している活動がある』
全体		1,753	33.6	27.4	13.5	11.4	8.4	4.7	4.6	37.0	4.3	58.7
性別	男性	788	33.5	27.0	8.4	11.8	4.9	4.7	4.8	38.6	3.9	57.5
	女性	942	34.1	28.0	18.0	11.3	11.1	4.6	4.6	35.1	4.4	60.5
年齢別	65～69歳	616	33.4	32.0	13.5	12.2	6.3	5.7	5.0	36.0	2.8	61.2
	70～74歳	537	36.9	29.4	14.2	11.0	8.8	5.6	4.5	35.0	3.7	61.3
	75～79歳	355	32.7	22.8	13.8	11.8	9.0	3.9	5.1	36.6	5.1	58.3
	80～84歳	157	32.5	20.4	12.7	13.4	13.4	1.3	2.5	41.4	7.0	51.6
	85歳以上	69	20.3	13.0	8.7	2.9	8.7	1.4	5.8	53.6	5.8	40.6

※『参加している活動がある』=100%－「特にしていない」－「無回答」

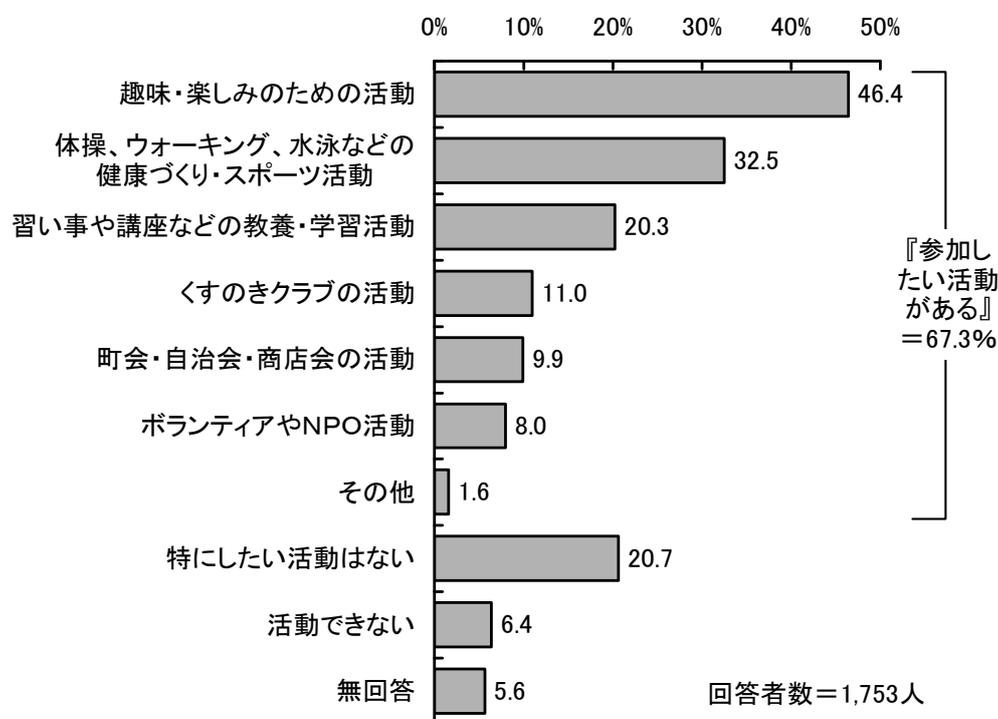
(5) 今後参加したい余暇活動・社会参加活動

問 26 あなた(あて名のご本人)は、今後、どのような余暇活動や社会参加活動をしていきたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○) 【比較調査 251 頁参照】

余暇活動・社会参加活動について、今後『参加したい活動がある』人の割合は 67.3% であり、現在の活動状況に比べて 8.6 ポイント高くなっている。

具体的には、「趣味・楽しみのための活動」46.4%、「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」32.5%、「習い事や講座などの教養・学習活動」20.3%などとなっている。

図表2-59 今後参加したい余暇活動・社会参加活動(複数回答)



※『参加したい活動がある』 = 100% - 「特にしたい活動はない」 - 「活動できない」 - 「無回答」

性別にみると、『参加したい活動がある』は男性、女性で差はあまりないが、女性は「習い事や講座などの教養・学習活動」「くすのきクラブの活動」に対する参加意向が、男性より高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が低いほど参加意向が高く、65～74歳の7割台、75～79歳の6割台が、『参加したい活動がある』と回答している。

図表2-60 今後参加したい余暇活動・社会参加活動

		回答者数(人)	趣味・楽しみのための活動	体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動	習い事や講座などの教養・学習活動	くすのきクラブの活動	町会・自治会・商店会の活動	ボランティアやNPO活動	その他	特にしたい活動はない	活動できない	無回答	『参加したい活動がある』
全体		1,753	46.4	32.5	20.3	11.0	9.9	8.0	1.6	20.7	6.4	5.6	67.3
性別	男性	788	47.3	33.0	15.2	7.6	10.7	9.1	1.5	22.5	5.1	4.6	67.8
	女性	942	46.2	32.6	24.8	13.7	9.4	7.0	1.7	19.0	7.2	6.3	67.5
年齢別	65～69歳	616	51.3	41.1	23.1	9.1	10.9	11.7	2.1	16.6	4.1	4.2	75.1
	70～74歳	537	50.3	34.5	24.2	11.5	10.4	8.0	0.9	20.5	4.7	3.7	71.1
	75～79歳	355	39.7	25.1	17.2	12.4	9.3	5.9	2.0	24.5	6.5	7.6	61.4
	80～84歳	157	40.8	17.8	8.9	13.4	10.2	1.9	0.6	23.6	12.7	10.2	53.5
	85歳以上	69	27.5	15.9	8.7	10.1	1.4	1.4	2.9	30.4	24.6	7.2	37.8

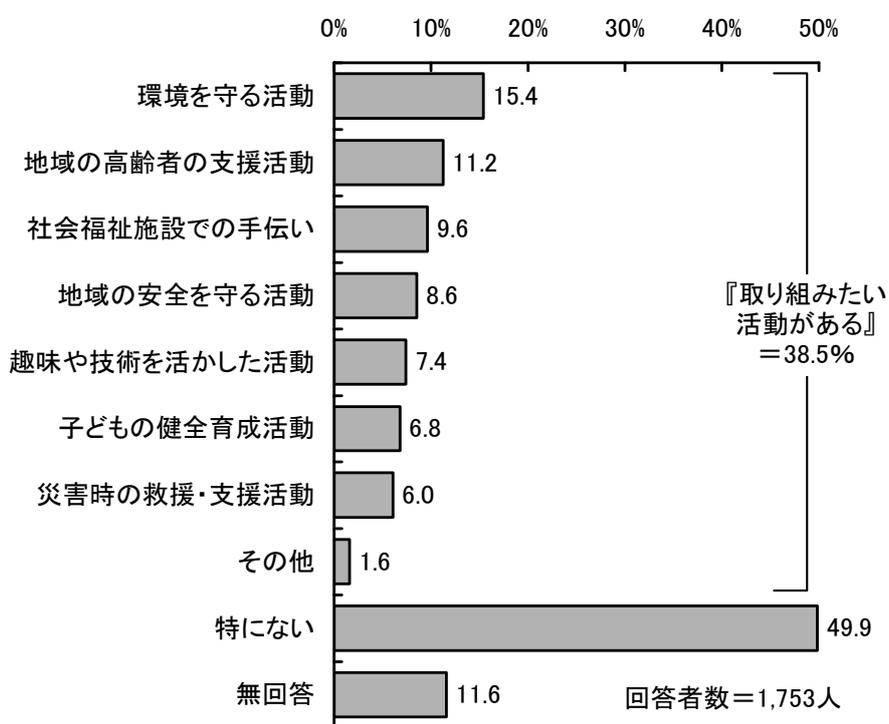
※『参加したい活動がある』=100%－「特にしたい活動はない」－「活動できない」－「無回答」

(6) 取り組んでみたいボランティア活動

問 27 次のようなボランティア活動について、あなた(あて名のご本人)が取り組んでみたいと思う活動はありますか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 252 参照】

取り組んでみたいボランティア活動をみると、38.5%が『取り組みたい活動がある』と回答している。具体的には、「環境を守る活動」15.4%、「地域の高齢者の支援活動」11.2%、「社会福祉施設での手伝い」9.6%などとなっている。

図表2-61 取り組んでみたいボランティア活動(複数回答)



※『取り組みたい活動がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

性別にみると、『取り組みたい活動がある』割合は、男性 42.8%、女性 35.5%と男性の方が高い。男性は「環境を守る活動」や「地域の安全を守る活動」「災害時の救援・支援活動」、女性は「地域の高齢者の支援活動」に対する意向が、それぞれに比べて高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が低いほど取り組み意向が高く、65～69 歳の人では約 5 割が『取り組みたい活動がある』と回答している。「環境を守る活動」は各年齢層において、もっとも取り組み意向が高い。

図表2-62 取り組んでみたいボランティア活動

		回答者数(人)	環境を守る活動	地域の高齢者の支援活動	社会福祉施設での手伝い	地域の安全を守る活動	趣味や技術を活かした活動	子どもの健全育成活動	災害時の救援・支援活動	その他	特にない	無回答	『取り組みたい活動がある』
全体		1,753	15.4	11.2	9.6	8.6	7.4	6.8	6.0	1.6	49.9	11.6	38.5
性別	男性	788	18.0	9.8	9.0	13.8	8.4	7.5	8.9	1.4	48.1	9.1	42.8
	女性	942	13.4	12.5	10.2	4.4	6.8	6.3	3.8	1.8	51.2	13.3	35.5
年齢別	65～69 歳	616	19.2	13.8	12.5	12.3	9.7	9.1	8.1	2.3	42.5	8.4	49.1
	70～74 歳	537	16.2	11.4	10.4	8.8	7.1	7.1	6.3	1.5	47.9	10.1	42.0
	75～79 歳	355	14.4	11.3	7.9	5.1	7.3	5.4	4.5	0.6	54.1	14.9	31.0
	80～84 歳	157	5.7	5.1	3.2	3.8	3.2	2.5	2.5	1.9	66.9	15.3	17.8
	85 歳以上	69	4.3	4.3	2.9	2.9	0.0	2.9	0.0	0.0	73.9	15.9	10.2

※『取り組みたい活動がある』=100%－「特にない」－「無回答」

(7) インターネットの利用状況

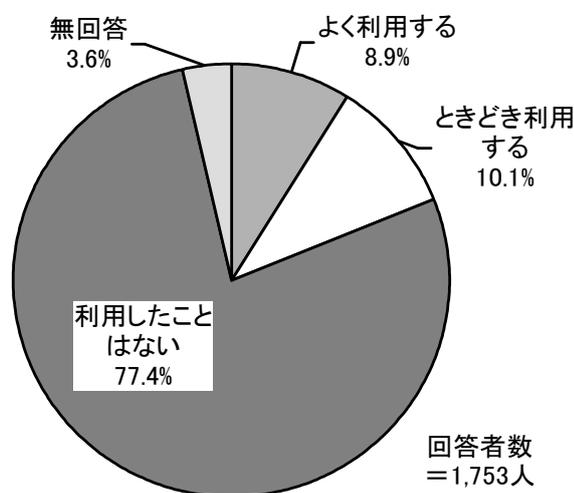
問 28 あなた(あて名のご本人)は、趣味や生活に必要な情報を得るために、パソコンなどのインターネットを利用することがありますか。

インターネットの利用状況については、「よく利用する」8.9%、「ときどき利用する」10.1%をあわせた19.0%、約2割が『利用している』と回答している。

性別にみると、『利用している』割合は、男性26.7%、女性12.7%と男性の方が高い。

年齢別にみると、年齢層が低いほど『利用している』割合が高く、もっとも高い65～69歳では27.3%となっている。

図表2-63 インターネットの利用状況(単数回答)



図表2-64 インターネットの利用状況

		回答者数(人)	よく利用する	ときどき利用する	利用したことはない	無回答	『利用している』
全 体		1,753	8.9	10.1	77.4	3.6	19.0
性別	男性	788	14.6	12.1	70.3	3.0	26.7
	女性	942	4.2	8.5	83.5	3.7	12.7
年齢別	65～69 歳	616	13.8	13.5	70.0	2.8	27.3
	70～74 歳	537	6.5	11.2	79.7	2.6	17.7
	75～79 歳	355	6.5	6.5	82.5	4.5	13.0
	80～84 歳	157	3.8	5.7	83.4	7.0	9.5
	85 歳以上	69	7.2	1.4	91.3	0.0	8.6

※『利用している』＝「よく利用する」＋「ときどき利用する」

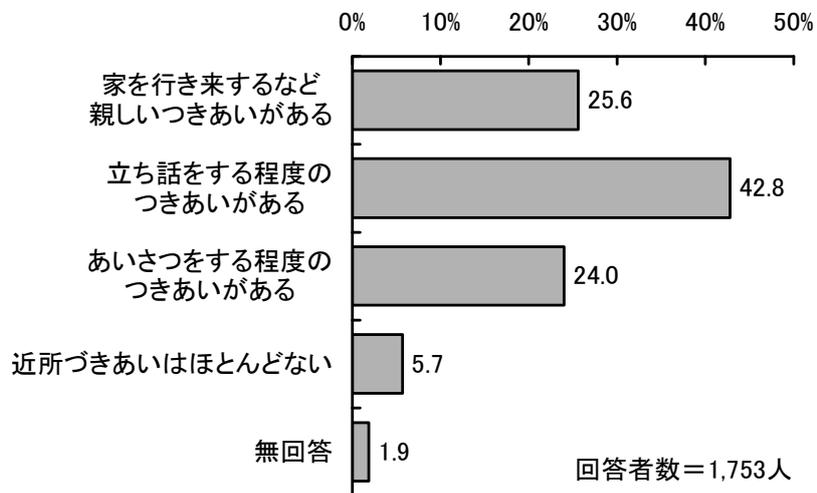
6. 地域とのかかわりについて

(1) 近所の人とのつきあいの程度

問 23 あなた(あて名のご本人)は、ご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。(1つに○)【比較調査 253 参照】

近所の人とのつきあいの程度は、「立ち話をする程度のつきあいがある」が42.8%ともっとも高く、次いで「家を行き来するなど親しいつきあいがある」25.6%、「あいさつをする程度のつきあいがある」24.0%となっている。

図表2-65 近所の人とのつきあいの程度(単数回答)



性別にみると、男性、女性ともに「立ち話をする程度のつきあいがある」がもっとも高く、次いで、男性は「あいさつする程度のつきあいがある」、女性は「家を行き来するなど親しいつきあいがある」となっており、女性の方が近所づきあいをよくしていることがわかる。

また、「近所づきあいはほとんどない」割合に注目すると、年齢別では85歳以上、日常生活圏域別では葛西南、世帯構成別ではひとり暮らしの人において高くなっている。

図表2-66 近所の人とのつきあいの程度

		回答者数(人)	家を行き来するなど親しいつきあいがある	立ち話をする程度のつきあいがある	あいさつをする程度のつきあいがある	近所づきあいはほとんどない	無回答
全体		1,753	25.6	42.8	24.0	5.7	1.9
性別	男性	788	15.4	41.9	33.8	6.9	2.2
	女性	942	34.4	43.5	16.3	4.2	1.5
年齢別	65～69歳	616	25.0	39.3	27.8	6.3	1.6
	70～74歳	537	26.8	44.9	21.6	5.6	1.1
	75～79歳	355	26.5	44.5	22.8	3.4	2.8
	80～84歳	157	23.6	46.5	24.2	3.8	1.9
	85歳以上	69	23.2	43.5	18.8	11.6	2.9
日常生活圏域別	区民課	412	22.8	49.0	22.8	3.4	1.9
	小松川	149	32.9	42.3	18.8	4.7	1.3
	葛西北	222	26.6	41.0	24.8	6.3	1.4
	葛西南	235	25.5	31.5	26.4	14.9	1.7
	小岩	290	20.0	45.2	29.0	3.1	2.8
	東部	270	30.0	40.0	23.7	4.8	1.5
	鹿骨	133	28.6	47.4	19.5	3.0	1.5
世帯構成別	ひとり暮らし	278	23.4	38.5	25.9	11.9	0.4
	夫婦のみ	645	25.9	40.9	27.1	4.2	1.9
	子どもと同居	516	25.4	46.7	21.5	4.8	1.6
	子どもと孫と同居	176	32.4	45.5	16.5	4.5	1.1
	その他	75	21.3	44.0	24.0	4.0	6.7

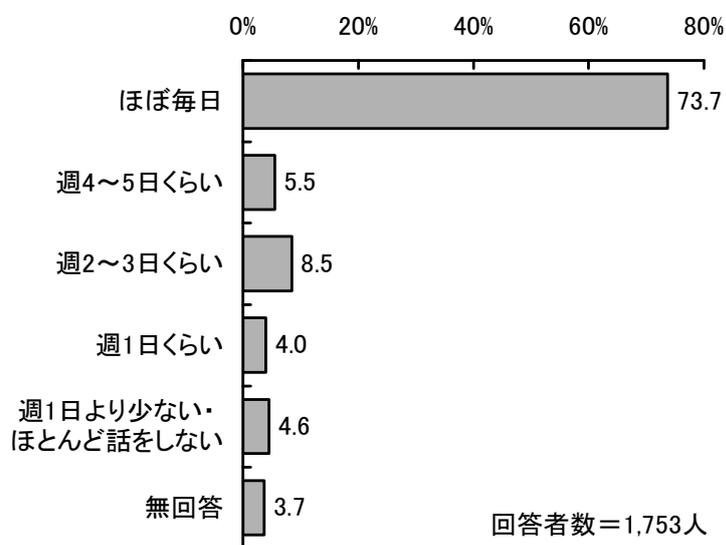
※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(2) 家族等との会話の頻度

問 24 あなた(あて名のご本人)は、ふだん、どのくらいご家族(同居を含む)・ご親族や知人等と話をしていますか(電話やメールを含む)。(1つに○)

家族等との会話の頻度は、「ほぼ毎日」が 73.7%を占める。一方、「週 1 日くらい」は 4.0%、「週 1 日より少ない・ほとんど話をしない」は 4.6%であり、これらをあわせた 8.6%は会話の頻度が週に 1 回以下となっている。

図表2-67 家族等との会話の頻度(単数回答)



「週1日より少ない・ほとんど話をしない」人の割合に注目すると、性別では男性、年齢別では85歳以上、日常生活圏域別では葛西北、鹿骨、世帯構成別ではひとり暮らしの人において高くなっている。

図表2-68 家族等との会話の頻度

		回答者数(人)	ほぼ毎日	週4～5日くらい	週2～3日くらい	週1日くらい	週1日より少ない・ほとんど話をしない	無回答
全体		1,753	73.7	5.5	8.5	4.0	4.6	3.7
性別	男性	788	73.7	4.6	7.9	4.2	5.8	3.8
	女性	942	74.4	6.4	9.0	3.8	3.1	3.3
年齢別	65～69歳	616	78.2	5.0	7.3	2.6	4.2	2.6
	70～74歳	537	74.1	7.1	7.8	3.4	4.8	2.8
	75～79歳	355	71.3	5.1	9.9	4.8	4.5	4.5
	80～84歳	157	68.8	4.5	10.2	7.0	3.8	5.7
	85歳以上	69	62.3	2.9	13.0	10.1	5.8	5.8
日常生活圏域別	区民課	412	78.4	5.3	7.3	2.4	4.4	2.2
	小松川	149	72.5	6.0	8.7	6.0	2.7	4.0
	葛西北	222	69.8	6.8	9.0	3.2	9.0	2.3
	葛西南	235	74.9	4.3	8.5	5.1	3.8	3.4
	小岩	290	76.2	3.8	8.6	3.8	2.8	4.8
	東部	270	70.7	6.7	8.9	4.4	4.1	5.2
	鹿骨	133	67.7	9.0	10.5	4.5	5.3	3.0
世帯構成別	ひとり暮らし	278	36.0	11.5	21.2	13.7	11.9	5.8
	夫婦のみ	645	79.5	4.8	7.0	2.3	3.7	2.6
	子どもと同居	516	82.8	3.7	4.8	2.1	3.1	3.5
	子どもと孫と同居	176	83.5	4.5	5.7	1.1	2.3	2.8
	その他	75	82.7	6.7	6.7	1.3	0.0	2.7

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

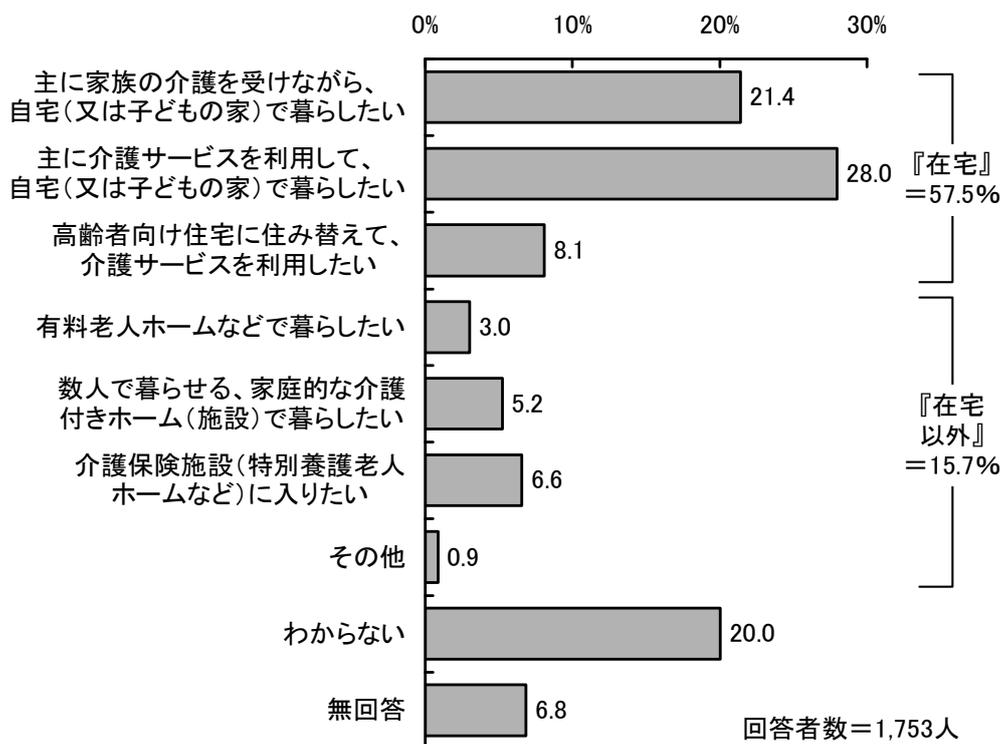
7. 今後の暮らしや介護について

(1) 今後介護を受けたい場所

問 31 あなた(あて名のご本人)は、将来介護が必要になった場合、どのように暮らしたいですか。(もっとも近い考え1つに○)【比較調査 254 参照】

今後介護を受けたい場所は、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」28.0%、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」21.4%、「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」8.1%の順であり、これらをあわせた『在宅』が57.5%を占める。『在宅以外』を希望する割合は15.7%となっている。

図表2-69 今後介護を受けたい場所(単数回答)

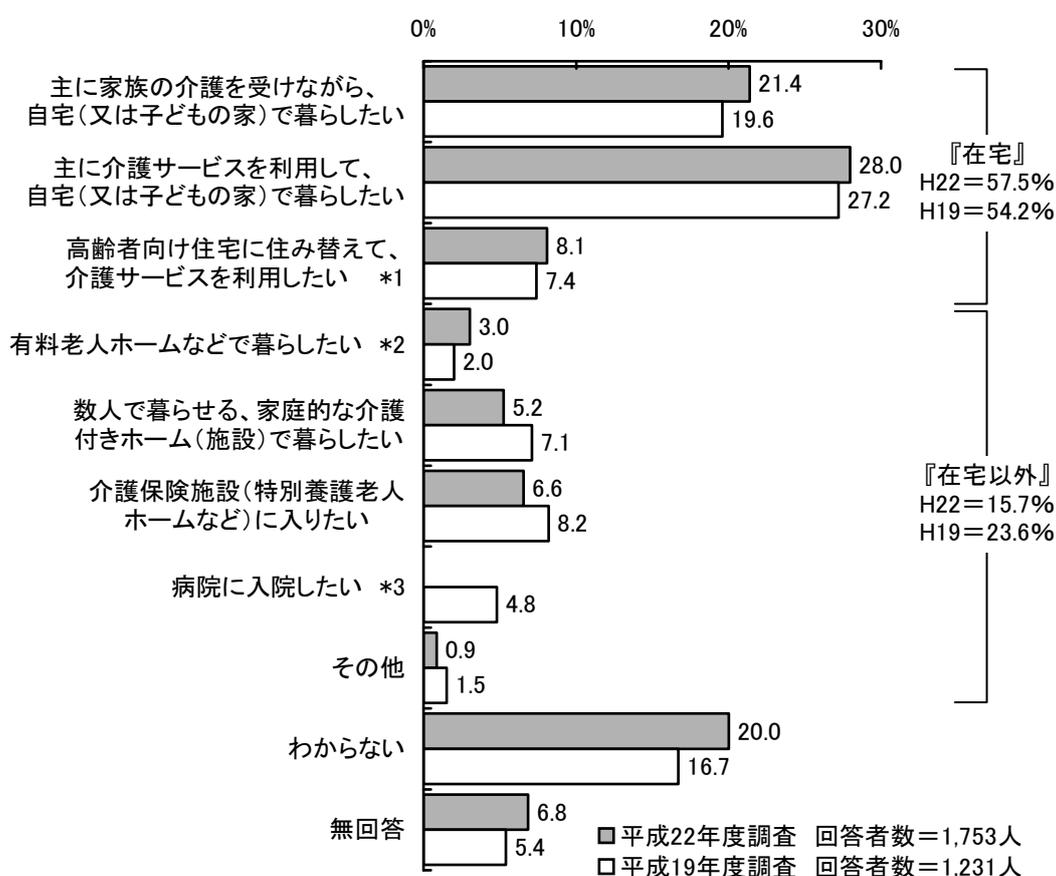


※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
+ 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
+ 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」
+ 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
+ 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」
+ 「その他」

今後介護を受けたい場所について、平成19年度調査と比較してみると、選択肢が異なるため単純な比較はできないが、『在宅』を希望している人が3.3ポイント増加し、『在宅以外』は7.9ポイント減少している。その内訳をみると、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が1.8ポイント、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が0.8ポイント増加している。一方、「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」は1.9ポイント減少している。

図表2-70 今後介護を受けたい場所<平成19年度調査との比較>



※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 + 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 + 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」
 + 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
 + 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」
 + 「病院に入院したい」
 + 「その他」

※*1の選択肢は平成19年度調査では「主に介護サービスを利用して、高齢者向け住宅に住み替えて暮らしたい」

※*2の選択肢は平成19年度調査では「有料老人ホームに入りたい」

※*3「病院に入院したい」の選択肢は平成19年度調査のみ

年齢別にみると、年齢層が高くなるほど、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子ども家）で暮らしたい」と希望する割合が高くなり、80歳以上の人では「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子ども家）で暮らしたい」を上回っている。

世帯構成別にみると、ひとり暮らしの人は他に比べて自宅での介護を希望する割合は低く、「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」が高くなっている。

図表2-71 今後介護を受けたい場所

		回答者数(人)	主に家族の介護を受けながら、自宅(又は子ども家)で暮らしたい	主に介護サービスを利用して、自宅(又は子ども家)で暮らしたい	高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい	有料老人ホームなどで暮らしたい	数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム(施設)で暮らしたい	介護保険施設(特別養護老人ホームなど)に入りたい	その他	わからない	無回答	『在宅』	『在宅以外』
全体		1,753	21.4	28.0	8.1	3.0	5.2	6.6	0.9	20.0	6.8	57.5	15.7
性別	男性	788	25.4	27.3	8.4	2.7	3.4	5.7	1.0	20.2	6.0	61.1	12.8
	女性	942	18.2	28.7	8.0	3.4	6.8	7.3	0.7	19.6	7.3	54.9	18.2
年齢別	65～69歳	616	19.0	29.2	7.0	2.9	5.8	6.7	0.5	22.9	6.0	55.2	15.9
	70～74歳	537	20.5	27.6	9.7	2.8	6.0	7.1	1.1	18.4	6.9	57.8	17.0
	75～79歳	355	22.8	29.3	9.0	3.9	4.2	5.1	1.1	16.9	7.6	61.1	14.3
	80～84歳	157	26.1	20.4	6.4	1.9	4.5	8.3	0.6	26.1	5.7	52.9	15.3
	85歳以上	69	36.2	31.9	5.8	4.3	2.9	4.3	1.4	4.3	8.7	73.9	12.9
世帯構成別	ひとり暮らし	278	10.1	17.6	13.3	3.6	8.6	8.6	0.7	28.4	9.0	41.0	21.5
	夫婦のみ	645	20.3	30.1	10.9	4.0	5.1	5.9	0.6	17.7	5.4	61.3	15.6
	子どもと同居	516	27.3	30.8	4.1	1.7	3.7	7.8	1.0	18.0	5.6	62.2	14.2
	子どもと孫と同居	176	29.5	30.7	2.8	2.3	3.4	4.5	0.6	19.3	6.8	63.0	10.8
	その他	75	20.0	22.7	6.7	2.7	6.7	4.0	1.3	20.0	16.0	49.4	14.7

※『在宅』＝「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子ども家）で暮らしたい」＋「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子ども家）で暮らしたい」＋「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』＝「有料老人ホームなどで暮らしたい」＋「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」＋「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」＋「その他」

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

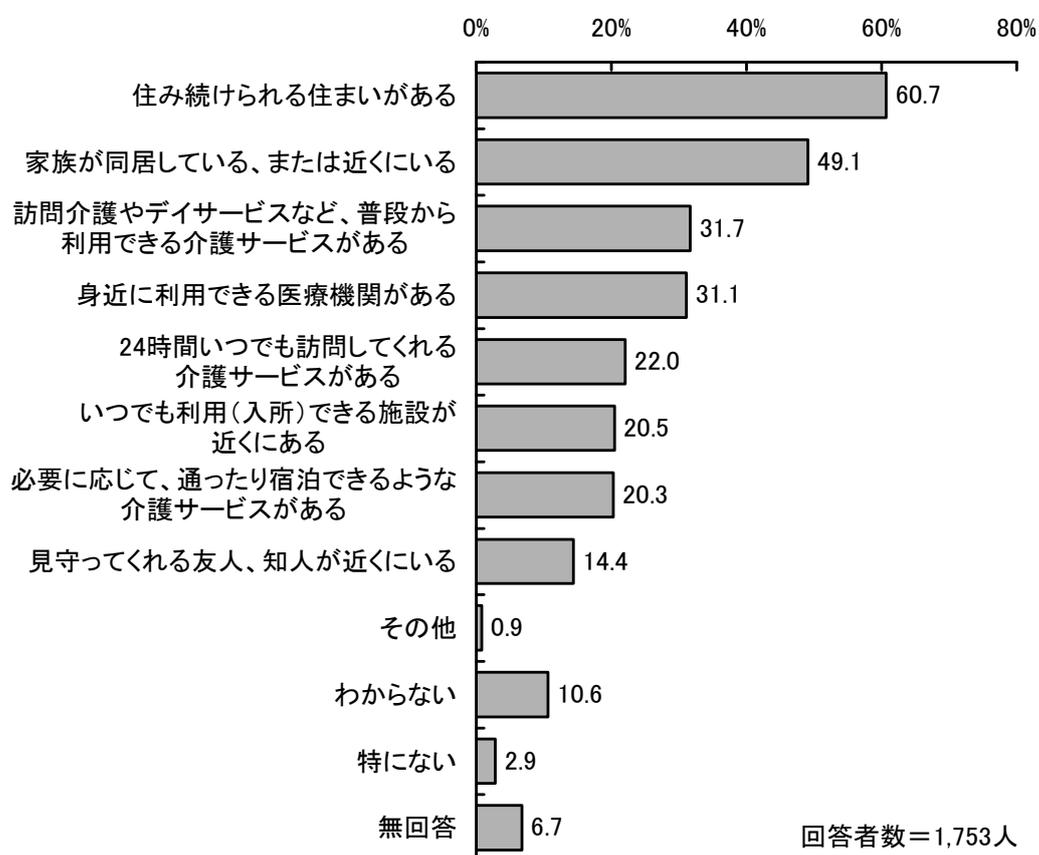
(2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと

問 32 あなた(あて名のご本人)は、介護が必要になっても在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【比較調査 255 参照】

在宅で暮らし続けるために必要と思うこととしては、「住み続けられる住まいがある」60.7%がもっとも高く、次いで「家族が同居している、または近くにいる」49.1%、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」31.7%、「身近に利用できる医療機関がある」31.1%の順となっている。

図表2-72 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと(複数回答)



(3)健康サポートセンターの認知度、利用経験

問 35 あなた(あて名のご本人)は、健康サポートセンターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

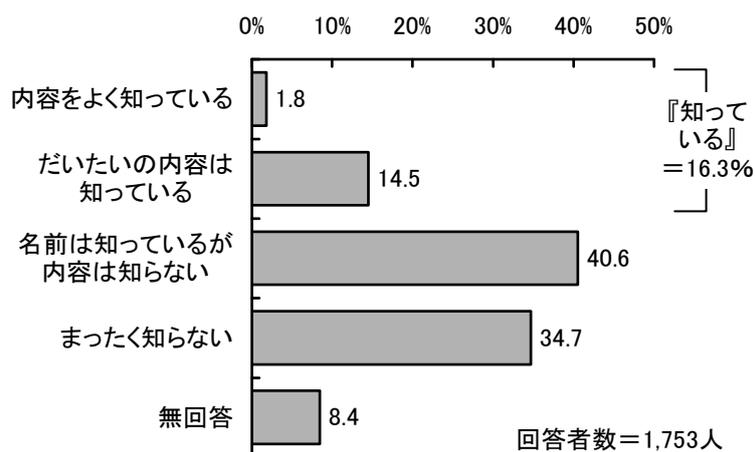
内容や名前を知っている方(問 35 で 1～3 に○)におうかがいします。

問 35-1 健康サポートセンターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

健康サポートセンターについて、「内容をよく知っている」1.8%、「だいたいの内容は知っている」14.5%をあわせた『知っている』は16.3%となっている。「名前は知っているが内容は知らない」は40.6%、「まったく知らない」は34.7%を占めている。

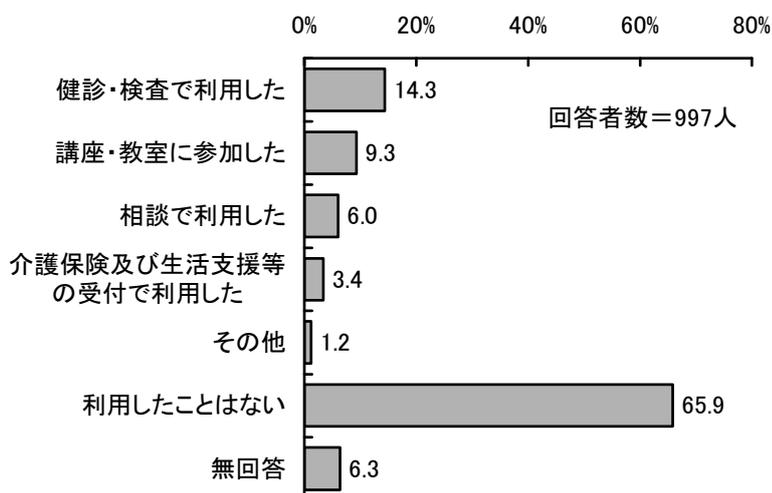
内容や名前を知っている人の利用経験は、「利用したことはない」が65.9%を占め、利用した場合としては、「健診・検査で利用した」14.3%、「講座・教室に参加した」9.3%、「相談で利用した」6.0%、「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」3.4%となっている。

図表2-73 健康サポートセンターの認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

図表2-74 健康サポートセンター利用経験(複数回答)

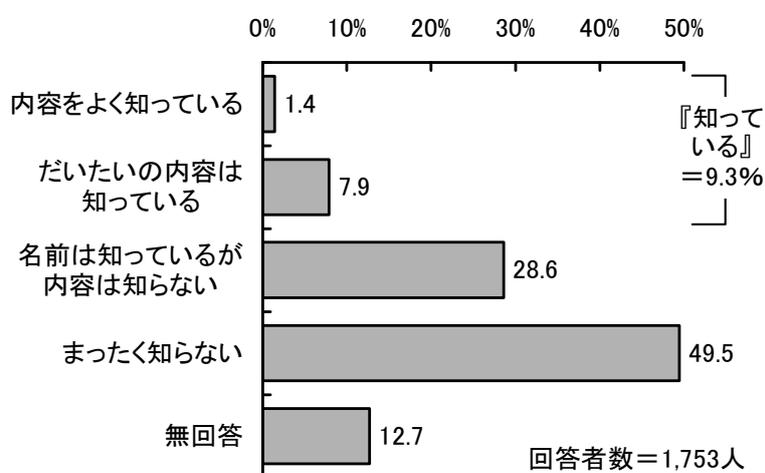


(4) 地域包括支援センターの認知度

問 36 あなた(あて名のご本人)は、地域包括支援センターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

地域包括支援センターについて、「内容をよく知っている」1.4%、「だいたいの内容は知っている」7.9%をあわせた『知っている』は9.3%と約1割であり、「まったく知らない」が49.5%、「名前は知っているが内容は知らない」が28.6%となっている。

図表2-75 地域包括支援センターの認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

(5) 地域包括支援センター利用経験、利用したことがない理由

内容や名前を知っている方(問 36 で 1～3 に○)におうかがいします。

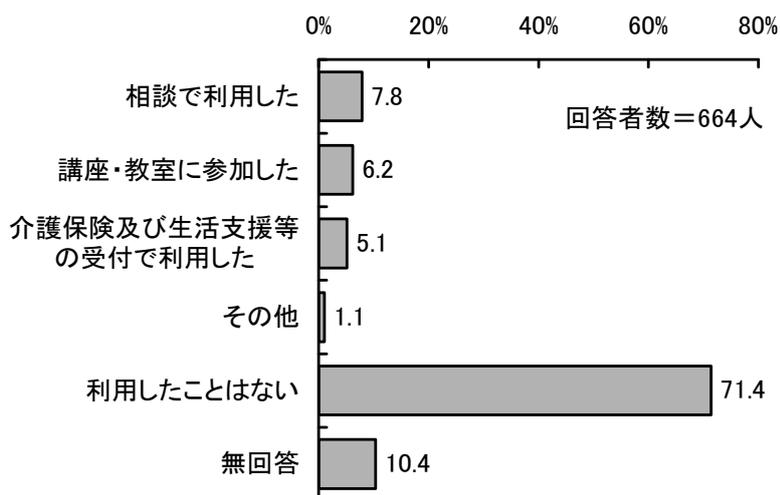
問 36-1 地域包括支援センターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

問 36-2 「利用したことはない」方におうかがいします。利用したことがない理由は次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

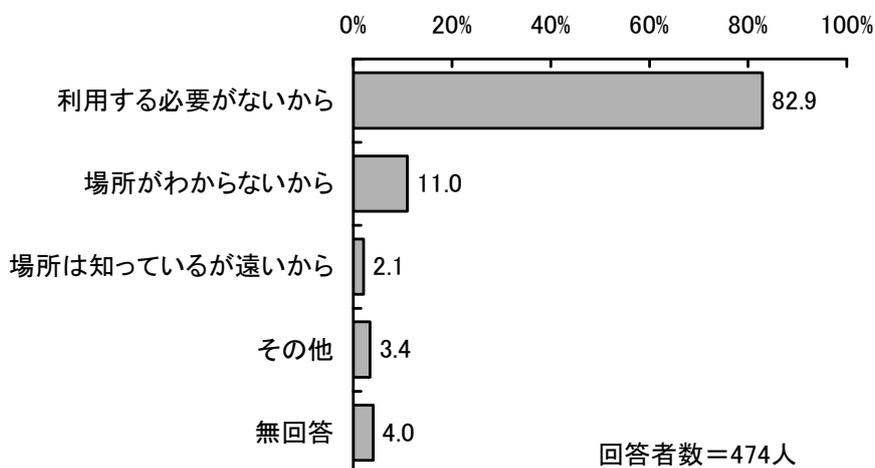
内容や名前を知っている人の地域包括支援センターの利用経験は、「利用したことはない」が 71.4% を占める。利用した場合としては、「相談で利用した」7.8%、「講座・教室に参加した」6.2%、「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」5.1%となっている。

利用したことがない理由としては、「利用する必要があるから」が 82.9%、次いで「場所がわからないから」11.0%、「場所は知っているが遠いから」2.1%となっている。

図表2-76 地域包括支援センター利用経験(複数回答)



図表2-77 利用したことがない理由(複数回答)



(6) 介護保険サービスの利用に対する考え、介護保険料の家計への影響

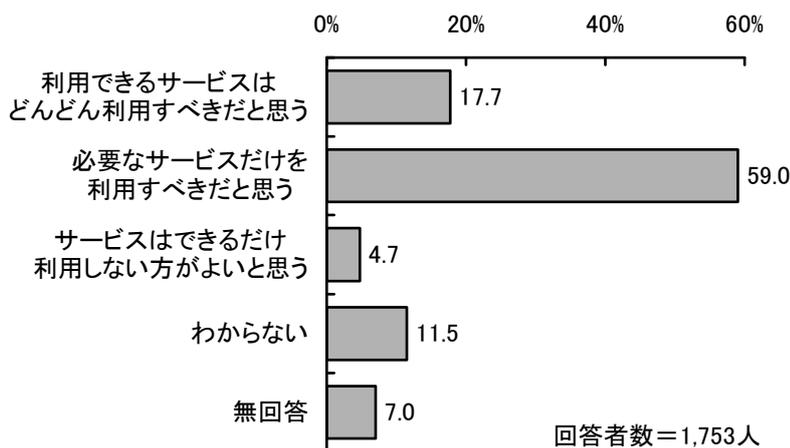
問 33 あなた(あて名のご本人)は、介護保険サービスの利用のあり方について、どのような考えをお持ちですか。(1つに○)

問 34 介護保険の保険料について、家計への影響は次のうちどれに近いですか。(1つに○)【比較調査 256 参照】

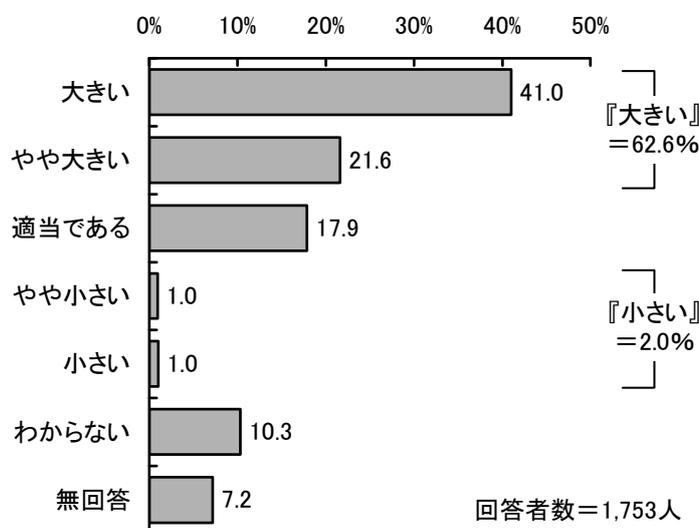
介護保険サービスの利用に対する考えをみると、「必要なサービスだけを利用すべきだと思う」が 59.0%と約6割を占める。「利用できるサービスはどんどん利用すべきだと思う」は 17.7%、「サービスはできるだけ利用しない方がよいと思う」は 4.7%となっている。

介護保険料の家計への影響は、「大きい」が 41.0%を占め、「やや大きい」21.6%をあわせた 62.6%が『大きい』と回答している。次いで、「適当である」17.9%となっている。

図表2-78 介護保険サービスの利用に対する考え(単数回答)



図表2-79 介護保険料の家計への影響(単数回答)



※『大きい』 = 「大きい」 + 「やや大きい」

※『小さい』 = 「やや小さい」 + 「小さい」

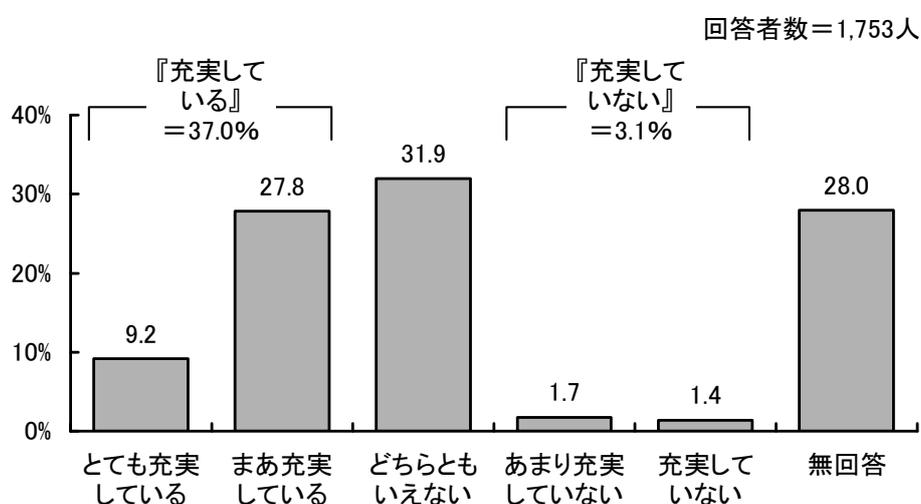
8. 江戸川区の熟年者施策について

(1) 区の熟年者施策の充実度

問 37 江戸川区の熟年者施策について、あなた(あて名のご本人)はどのように感じますか。
(1つに○)【比較調査 257 参照】

区の熟年者施策の充実度は、「とても充実している」9.2%、「まあ充実している」27.8%をあわせた37.0%が『充実している』と回答している。「あまり充実していない」1.7%、「充実していない」1.4%をあわせた『充実していない』は3.1%であった。

図表2-80 区の熟年者施策の充実度(単数回答)



※『充実している』 = 「とても充実している」 + 「まあ充実している」

※『充実していない』 = 「あまり充実していない」 + 「充実していない」

(『充実していない』理由：31件より抜粋して記載)

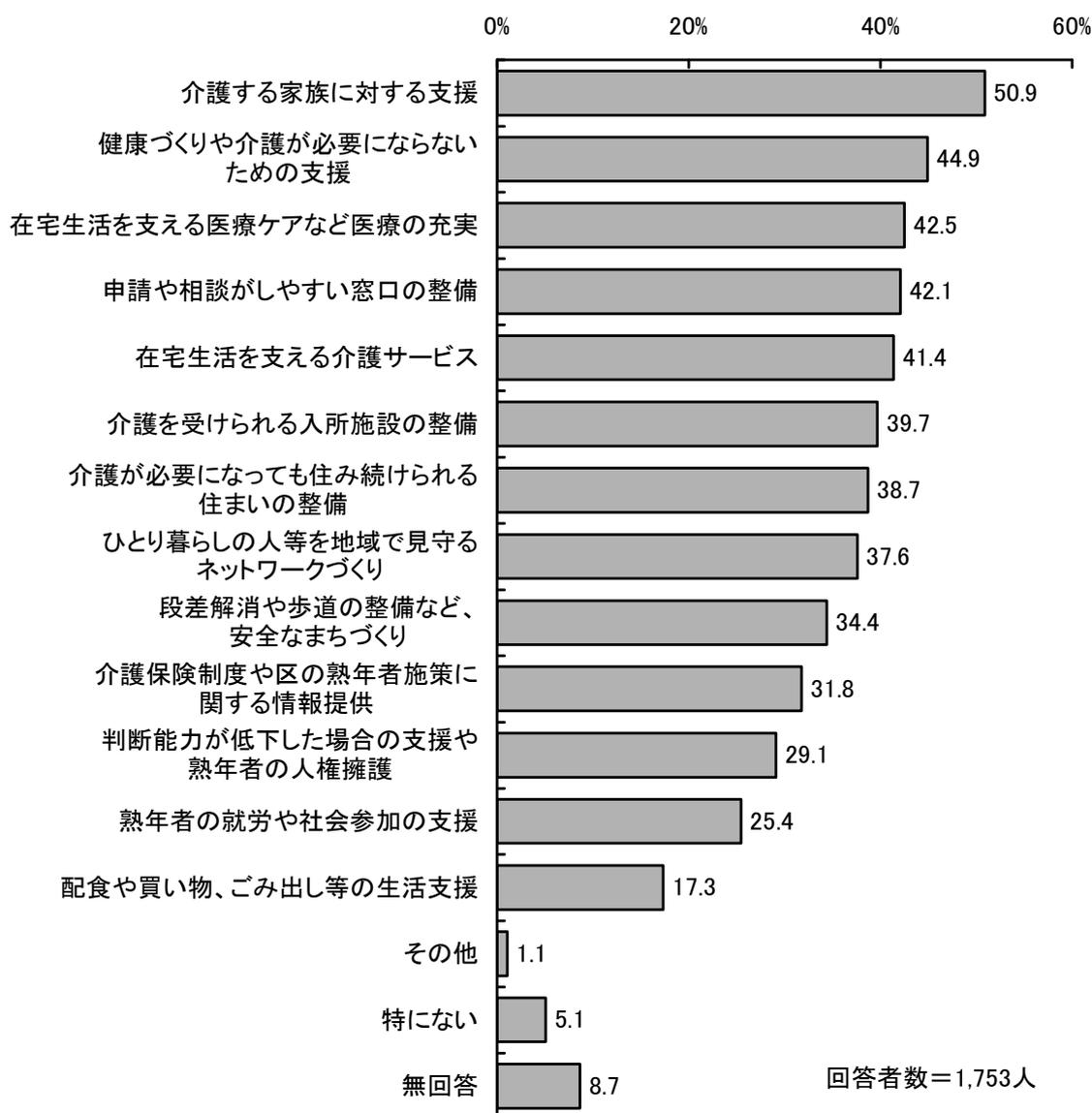
- ・江戸川区に限らず、超高齢社会である日本の高齢者施策には、まだまだ改善・充実・見直しなどの余地がおおいにあると思っている。
- ・施設が少ない。
- ・年金生活では、介護保険、健康保険、税金が高すぎて生活に困る。
- ・介護保険料が高く、支出が多くなり不安に思っている。
- ・我々高齢者に広報されていないから。
- ・必要に応じて電話しても親切とは思えない。
- ・システムや利用方法がよくわからない。
- ・施設への入所に時間がかかる。手続きが難しい。

(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと

問 38 江戸川区が今後充実すべきと思う熟年者施策は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 258 参照】

区の熟年者施策で充実してほしいことをみると、「介護する家族に対する支援」50.9%がもっとも高い。次いで、「健康づくりや介護が必要にならないための支援」「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」「申請や相談がしやすい窓口の整備」「在宅生活を支える介護サービス」が4割台で続いている。

図表2-81 区の熟年者施策で充実してほしいこと(複数回答)



(3) 区への意見・要望

江戸川区へのご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

(437 件について分類・要約して記載)

【1】介護保険・区の介護支援等に対する意見・要望(148 件より抜粋)

- ・今は私も妻も元気になっているが、2人で歳を重ね、いずれどちらかがひとりになる時が来る。その時希望する介護がすぐに受けられるかが不安。
- ・現在、自分の生活は全部自分でやっているが、(特に季節の変わり目など)布団干しとか、電球の切れた時は、男性(力のある人)の力を借りたい場合が時々ある。
- ・介護の内容など、知らない事が多い。介護施設の内容や、ヘルパーさんをお願いした時にどのようなことをやってもらえるのか等、もう少し詳しく知らせてもらいたい。
- ・助けてほしい時に要望を受け入れてくれる相談の窓口の整備を希望する。現在は2人で生活しているが、ひとりになった時の不安がある。
- ・年金生活の者にとっては介護保険料や税金が高すぎると思う。
- ・介護保険料は今以上に所得格差を付けてもよいと思う。
- ・年金が少ないのに、介護保険が増えて、年金から差し引かれるのがとても大きい。もっと別の所から税金として考えてほしい。
- ・介護サービスを受けている人はもう少し負担すべきだと思う。
- ・介護サービスを全く受けていない人には割引制度があってもよいのではないか。
- ・介護保険料を払っていても、自分が介護を受けるような身体になった時、その保険が本当に使えるのか心配。
- ・介護サービスの審査が厳しすぎるのではないか？
- ・地域包括支援センターや熟年施設などについて、資料でのお知らせなど頂けるとうれしい。お金はどの位かかるのか知っておきたい。
- ・子どももいないひとり暮らしなので、やがては有料老人ホームに入りたいが、なかなかよい所が見つからないようだ。もう少し待たずに入所できる安全で安心な所を増やしてほしい。
- ・体が不自由になったりして、老人ホームに入りたいけれども費用が高くて入れないと聞いている。低所得の人でも入れるような所をたくさん作ってほしい。
- ・介護施設を探すことが大変だった。役所の窓口でわかりやすく、情報提供してもらいたい。
- ・老人保健施設の3か月での退所は、次の受け入れ先を見つけるのが困難だった。必要に応じて対処してほしい。
- ・介護施設に医療機関を併設してほしい。
- ・高齢社会になり、我が家のように老老介護が増えていくと思う。10年後、私たちが施設に入りたいと望む時、入る施設があるのか不安。
- ・介護保険施設の増設を早期に行ってほしい。又介護職の方々の報酬の引き上げを希望する(公的施設の設立で公的援助)。
- ・特別養護老人ホームをもっと増やしてほしい。
- ・せめてショートステイは気軽に希望通りに受け入れられる様、対策を検討して頂きたい。
- ・先日、テレビで世田谷区の24時間対応できる介護サービス(ひとり暮らしで寝たきりの人)を放映しているのを観て、とても理想的だと思った。
- ・老老介護や障害者の家族がいる人たちの支援をお願いしたい。特に災害による避難の時等に手助けしてほしいと思う(家族に障害者がいるので)。
- ・施設を利用せず在宅介護になった場合、本人だけでなくお世話する家族への生活支援があると

よいと思う。介護する人も70歳～80歳になるので。

- ・サービスを充実させるためには、介護士の給料が安いのではないかと？給料を引き上げるべきだ。
- ・区の予算で民間介護施設への補助金を充実して、職員が安心して働けるように、長期生活保障してもらいたい。

【2】保健医療福祉施策に対する意見・要望(118件より抜粋)

- ・他の区と比べて熟年者の住みよい区だと思う。
- ・江戸川区は福祉が充実していると聞かすが、質をおとさないように今後ともますます福祉の充実を願う。
- ・子ども(いじめ・暴力)、高齢者に優しいまちづくりをお願いしたい。
- ・熟年者が安心して生活ができる社会であってほしい。情けないが全てに関してゆとりが感じられない。散歩していてすれ違っても挨拶ができない。家に居ても外出しても淋しいものである。
- ・高齢者は歳とともに甘えもでてくるので、あまり至れり尽くせりのサービスもいかなものか。多少のことはあっても、自分のことは自分でできるような施策がほしい。
- ・日本全国に当てはまると思うが、今の国、行政の施策は老人に集中しすぎている。もっと若い人の生活、生きがいに目を向けるべきである。
- ・税収が減少する中で、これまで以上のサービスの提供は避けることが望ましい。
- ・役所の手続き、介護の手続きがややこしすぎる。もう少しお年寄りでも簡単に。
- ・高齢者に関する一切の事を(例えば、病気・スポーツ・介護等々のこと)一冊の本にまとめ、誰にでも一目でわかるお助けのような物があればいい。
- ・ひとり暮らしに関する情報を定期便・レポートとして送ってほしい。
- ・今まで熟年者施策について全く関心がなく、知識もなかったので、このアンケートをきっかけに勉強しようと思った。ホームページなどを更に充実してほしい。
- ・総合的な医療を受けられる病院が少ない。
- ・かかりつけ医の充実を図ってほしい。夜間、容態が悪化したときに、かかりつけ医に何度電話してもつながらず、役に立たないと思う事例を多く見聞きしている。
- ・江戸川区には大学病院が少ないと思う。もっと安心していける便利なところに大学病院がほしい。
- ・病状が進み通院できなくなった時、往診してくれる医師・看護師がいると大変ありがたい。
- ・少ない年金生活者にとって、医療費は重くのしかかる。負担金をできる限り少なくしてほしい。夏場の江戸川区共通商品券は大変助かった。ありがとうございました。
- ・災害時(水害・地震等)の地域別の避難場所を明記し、各々の家庭に配布してほしい。特にひとり暮らしの人は、区より町会を通じて、まず近場に集合する所を指定されていると安心できる。
- ・村社会的な人情が多くて昔はうっとうしく思えたが、最近の世情からかえてこのような地方社会的な部分を活かしたまちづくりが必要だと思う。祭りを、盆踊りではなく若者が参加できるものにして盛り上がればよい。

【3】就労・生きがい・社会参加に対する意見・要望(42件より抜粋)

- ・本一色には無料で利用できるコミュニティセンターがない。農協の跡とか、みんなの家の中にも、是非気軽に利用できるような施設ができたらし。
- ・熟年者というくくりではなくて、老若男女が参加できる催しや軽いスポーツをする機会を増やしてほしい。
- ・近くにコミュニティセンターがあるが、「えどがわ区報」をみても催し物がほとんどなく、センターを活用した行事・催しを考えてほしい。

- ・今年水彩画をはじめて文化祭に出品したが、年一度だけではなく年に数回開催してほしい。総合文化センターだけでなく、さくらホールや区民館等で区の人たちが自由に出品できると励みになる。
- ・北篠崎の地区にカルチャーセンターの施設を作してほしい。
- ・同じマンションの中も高齢化が進んでいるので、老いても楽しめるような地域づくりができればと思っている。例えば、下手でよい、下手がよい、小さな絵を描くサークルなど。
- ・自治会行事等、皆が活発に参加できるような地域づくりが大切だと思う。朝のウォーキングやラジオ体操の集合場所づくり等を希望する。
- ・熟年者はパソコンを覚えたい人が多数いると思う。土、日、祝日等を利用しての講習会、研修会を増やしてほしい。又、費用はなるべく安く区で多少負担してほしい。
- ・くすのきカルチャーを今後利用したいと思うような講座がない。もっと音楽的な楽しみができる講座を増やしてほしい。カラオケサークルやコーラス音楽、演奏等。
- ・くすのきカルチャーの制度は他の自治体がない、江戸川区が誇れる素晴らしい制度だと思う。ただ自分の楽しみだけで終わることなく、自分が社会に必要とされているという実感を得られる場所があれば、なお質の高いシステムになるかと思う。
- ・多くの催しが総合文化センターやタワーホールで開催されているが、江戸川区は広いので各地区の区民館やコミュニティ会館等で開催すれば、近くの人々の参加も得られると思う。
- ・講座、教育の費用が安くなるとうい。
- ・テーマをもうけ、司会者と意見者が、自由に話し合う場所と機会があるとうい。政治経済から、医療、家族、趣味と気軽に聞けるとよいと思う。
- ・できれば健康で働く意欲のある高齢者の職場をもっと拡大してほしい。結果的に老人医療費の削減にもつながる訳だから。国に先駆けてスタートしてシルバーセンター（高齢者事業団）の充実と雇用の拡大に努力してほしい。
- ・熟年者にもっと働き口を。自分の周りにもたくさん身をもてあましている人たちが居る。
- ・江戸川区で就労できる所を紹介してほしい。
- ・少しでも働いて生活したいのだが、高齢で病気がちなので困っている。

【4】健康づくり・介護予防について(14件より抜粋)

- ・早朝（午前7時頃）ラジオ体操等があるとよい（できれば近くの小・中学校の校庭など）。
- ・各自、介護をできるだけ必要としない健康づくりを意識するPRをしてほしい。介護費用は自分だけではなく他人にも負担がかかることであり、健康づくりを心がける指導をお願いしたい。
- ・閉じこもりを防ぐには、身近に集まれる場所があれば（町会に1か所位）、足の弱くなった人も外出する機会が増えるのでは。例として、商店街のシャッターをおろした家を公共の場として利用し、町会がくすのき会員で維持する。理想でもあり、願いでもある。
- ・体操やウォーキング等健康づくりができる体育館が近くにあればよい。
- ・ふれあいセンターを利用して、とてもよい1日を送らせてもらっている。このセンターのことを知らない人もたくさんいるので、もっと普及するように、ひとり暮らしの人などに説明をした方がいいと思う。
- ・地域で健康人口を増やす対策をしなくてはならない。高齢者を健康に導く食生活、運動、考え方など指導することが大切だと思う。

【5】道路・公園等のまちづくり、住宅に対する意見・要望(43件より抜粋)

- ・歩道を自転車スピードを出して走るので年寄りには安心して歩けない。小学校などで教育をしてほしい。
- ・駐車を取り締まりを徹底してほしい。ウォーキングしている時など不安。
- ・店の品物が歩道にならべてあり、通る車をよけて歩かなくてはならない道路が多く（車にひか

れそうではらハラして)、110番したいと思う場所がいっぱいある。

- ・歩道橋を無くして、信号機をつけてほしい。
- ・歩道の段差が整備されていない。特にひどい場所があり、目の不自由な人が転倒しているのを何回もみた。
- ・自転車専用道路を増やしてほしい。
- ・江戸川区内の歩道整備について、地域によって差がありすぎる。
- ・江戸川区にも区営住宅をつくってほしい。
- ・ひとり暮らしの生活になっても安心して暮らせる住居がほしい。
- ・介護が必要になっても住み続けられる住まいの整備を特にお願いしたい。
- ・主人と二人年金暮らしで、都営・区営住宅に申し込んでいるが、なかなか当たらない。家賃の援助がもう少しほしいと思う。

【6】その他(72件より抜粋)

- ・皆いろいろな事でビクビクして、笑顔・明るさがなく暗い。もっと笑顔で頑張って明るくしよう。
- ・江戸川区は公園が多く、樹木も多く、病院の待ち時間もほとんどなく、非常に助かる。介護の問題も他区より進んでいるように感じる。
- ・ひとり暮らしのため、今後人生の終わりになったら後始末(分譲マンション、その他)色々、どのようにしたらよいか心配している。
- ・自分自身できる事はなるべく自分で努力する。あまり若い人に負担をかけたくない。
- ・現在、マンションで生活しているが、近所とのつきあいがほとんどないので、非常の時どのように行動すればよいか不安。
- ・歳とともに、生活や健康に不安がある。特に病気をしてからは、これから先の事を考えると、子どもたちにも負担をかけないようにしたい。
- ・アンケートを1週間後に読み返してみて、これからの自分はどのように残りの人生を過ごしたいか?健康なうちに考えておこうと思った。
- ・この調査票には無駄な項目が多すぎる。もっと要点をつかんだ項目で簡素化すべきと思う。
- ・この調査票が届いたことにより、改めて熟年者として自覚し、色々考える機会となった。